

## 田村圓澄日誌（2）

藤岡，健太郎  
九州大学大学文書館

江藤，まゆみ  
九州大学大学文書館

川島，絵梨  
九州大学大学文書館

<https://doi.org/10.15017/7411098>

---

出版情報：九州大学大学史料叢書. 32, 2026-03-31. Kyushu University Archives  
バージョン：  
権利関係：



九州大学  
大学史料叢書

第32輯

---

田村圓澄日誌 (2)

---

2026年3月  
九州大学大学文書館

# 目 次

凡 例

解 説

田村圓澄日誌 (2) ..... 1

彙 報 ..... 99

## 凡 例

1. 田村圓澄の日記は「田村圓澄資料」（九州大学大学文書館所蔵）に所収され、計 81 冊の大学ノートからなる。本巻はこのうち以下の 2 冊を収録した。

日記（三）自昭和 14 年 10 月 30 日至 16 年 5 月 25 日

日記（四）自昭和 15<sup>ママ</sup> 年 5 月 26 日至 17 年 8 月 31 日

なお、日記（三）の収録範囲は昭和 15（1940）年 4 月 1 日から、日記（四）は昭和 17（1942）年 1 月 9 日までとした。

2. 原文は句読点の区別がない表記がなされているため、文脈から適宜判断した。また、一部句読点を追加・削除したことがある。
3. 表記は原則として原文のとおりとし、誤字や疑問がある場合は「ママ」を付した。なお、頻出するものについては、「ママ」を付するのは初出の箇所のみとした場合がある。旧字体と判断される場合は旧字体で翻刻し、異体字等は可能な限りその字体またはそれに近い字体を用いた。判読できなかった文字については<sup>(不明)</sup>□とした。
4. 「ママ」「(不明)」以外のルビは原文のものである。
5. 傍点等は原文のままとした。
6. 現在では不適切であると考えられる表現が使われている箇所があるが、歴史資料としての性格を考慮し、原文のままとした。
7. 本巻の解説は藤岡健太郎（九州大学大学文書館）が、編集は藤岡と江藤まゆみ・川島絵梨（九州大学大学文書館）が担当した。翻字は藤岡と明石紗弥（九州大学理学部学生）、山副冴之介・中本沙希（九州大学文学部学生）が行い、藤岡と赤司友徳（九州大学大学文書館）が監修した。

## 田村圓澄日誌 (2)

## 解 説

田村圓澄の大学2年次までの日誌を収録した第31輯に続き、本輯では大学3年次と、九州帝国大学法文学部副手時代にあたる、1940(昭和15)年4月1日から1942(昭和17)年1月9日<sup>1</sup>までの日誌を翻刻した。

### 学 業

田村は2年生の時からすでに卒業論文に取り組んでおり、3年生になるまでにほとんどの部分を書き上げていた。奈良に帰省中の1940年4月10日の日誌には「卒業論文はすべて完成した。あとは整書のみである」と記している。

卒論が一通り完成した翌日には「『文学』に無常観の論理を投稿せんがため、妹に清書を依頼」し、15日に投稿している。さらに12日には「法文論叢に“美的世界の成立”を投稿せんがため原稿用紙に書き始め」た。このように卒論がいったん完成した後にはただちに、その一部を雑誌に掲載すべく、書き直しを行い、投稿をしている。

一方、卒論自体については、竹岡からの指導などを受けたうえで清書を行っている。最終的には400字詰め原稿用紙「286枚の大論文」を書き上げ、1941年1月13日に提出した。

『法文論叢』<sup>2</sup>への投稿は、最初は卒業論文のうち「美的世界の成立」を投稿したようだが、結局「立場と方法」「女性観の性格」の部分を出すこととし、後に「無常観の論理」の部分を追加したものが1940年9月発行の第29号に掲載された。4月に岩波書店の『文学』に投稿した『徒然草』における無常観の論理は、投稿から1年半以上が経過した1941年11月発行の第9巻第12号に掲載された。田村は日誌に、「今、一ヶ年前の論文をよみ直して、恥しい限りである。が、非常に嬉しい。自分も一流雑誌に名前をのせるやうになったの

だ。が、より着実に勉強しよう。今日は嬉しい日。」と記して、その喜びを表している(12月2日)。

卒業を控えた1941年2月からは、檜垣元吉や西尾陽太郎らの卒業生と共に、毎月竹岡勝也宅で研究会を開催するようになった。この頃から本居宣長の研究に取り組むようになり、1941年中に「本居宣長の復古思想」「本居宣長の歌論」「本居宣長のものあはれ論」の3本の論文を書いている<sup>3</sup>。この3本で合わせて原稿用紙150枚分を書いていたが、「六百枚を目指して、一冊の著述を目指して頑張らなければならぬ」と日誌に記しており(10月31日)、この時点ではその後も宣長研究を続けるつもりであったようである。

### 師弟・交友関係

師弟関係では、以前からの松濤泰巖との関係が、さらに深まっている。以前にも増して頻繁に松濤宅に行き、夕食をご馳走になる、というように、次第に寝ている時間を除けば自分の下宿よりも松濤宅にいる時間の方が長いのではないか、と思えるほどになっていく。ついには「今日から三食共先生宅にて頂く」(1941年7月11日)ことにまどなった。1941年10月16日以降は、松濤を単に「先生」とのみ記すようにすらなっている。後述する海軍教授嘱託内定の連絡も松濤から受けており、家族同様の関係と言ってもよいぐらいのものであったようだ。

一方、研究に関しては竹岡勝也の影響を大きく受けている。学部3年次に受講した竹岡の日本思想史演習では、本居宣長がテキストとしてとりあげられたことから、田村の関心は宣長の思想の解明に移ることとなった<sup>4</sup>。前述のとおり、1941年中に宣長に関する3本の論文を執筆している。海軍教授嘱託に採用が決まった際には竹岡から、「今

後、現実との関聯において宣長を研究するやうにと」言われている(1941年12月21日)。

交友関係では、1学年下の阿部光章の名がよく登場するようになっている。お互いの下宿を行き来して雑談にふけったり、一緒に映画を観に行くといったことも多かったようだ。阿部は、田村と同時に海軍教授に採用されることともなる(1941年12月24日)。また、2学年下の伍賀道一とも同様に、プライベートでの付き合いが多かったようである。田村が1年次に親しくしていた2学年上の菅瀬大芳とは、会う機会は年に1度程度になっているが、手紙のやりとりは頻繁に行っている。

このほか、個人的な関係ではないが、法文学部文科の教官・学生の親睦・研究団体である文友会の活動にも取り組んでいる。

## 生活状況

下宿は1・2年次に2度替えた田村であったが、1941年2月から住み始めた「静思寮」には、副手になってからも住み続けた。以前の下宿よりも居心地がよかったのかもしれないが、前述のとおり、松濤宅への出入りは、入り浸りのような状況になっているので、下宿のことはもはや重要ではなかったのかもしれない。

生活状況は副手になってからも学生時代と大きな変化はないように見受けられるが、副手時代の1941年7月から8月にかけてのおよそ1ヶ月間、自動車学校に通っていることは特筆すべきであろう。なぜ自動車の運転免許を取得しようとしたのか、理由については記されていない。自動車学校の月謝が43円というから、副手の月給よりも高いため、松濤から50円を借りている(1941年7月15日)。

## 就 職

2年次までの日誌に見られるように、田村は将来への不安もあって、高文受験を目指して法科の授業を履修するなどしていたが挫折している。受験は1939(昭和14)年中には諦めたように見受けられるが、完全に断念したのは1940年5月末のようである。同月25日、松濤泰巖に「高文志望を断念したこと、及び、卒業後、研究室に残りたい旨の御了解をして頂」き、27日には竹岡勝也に「高文を断念したことを御相談する。今後思想史の研究を進める決心を深くする」こととなった。10月13日の日誌には「卒業後、研究室に残ることに決心する」と記している。

このように、1940年中に研究者を志したように見える一方で、将来に対する不安は依然として強かったようで、1941年になると、中等学校教員となることも考えるようになり、西南学院の面接を受けるなどもしている。しかし結局、中等学校教員に採用されることはなかった。

将来に関して揺れ動いていた田村であったが、1941年4月より法文学部の副手に採用される。最初の辞令では無給ということになっていたが、すぐに月30円が支給されることとなった。所属は国史学研究室ではなく教育学研究室である。これは、「同研究室の助手が転出し、空席になっていたから」<sup>5</sup>講座教授であった松濤泰巖の高配を受けることができたということであったようだ。

副手採用後は研究に勤しんでいた田村であったが、1941年10月に陸軍経理学校と海軍の教官採用に応募した。海軍の方は12月13日に銚衡試験があり、阿部光章も一緒に受験した。18日には採用内定の電報が届いた。21日の竹岡宅における卒業生の研究会で研究発表したことを日誌に記した際、田村は「海軍教授の方は自分一人が出世したやうで、他の人に対して済まぬやうな気がする。」という感慨を述べている。

箱崎を離れる前日の1942年1月8日には、「国史の卒業生にして、かくも盛大な送別会はなかつ

た」と言われるほどの送別会を開いてもらっている。翌日箱崎を発った田村は、1月15日付で海軍教授嘱託に採用され、土浦海軍航空隊に配属されることとなった。

- 
- 1 田村の副手解嘱は1月15日であるが、1月9日には箱崎を離れ、実質的に退職しているため、この日までとした。
  - 2 九州帝国大学法文学部教官・学生の親睦団体である法文会が発行していた学芸雑誌。
  - 3 田村園長先生古稀記念会『田村園長先生 年譜・著作目録』（同会、1987年）、pp.55-56。
  - 4 田村圓澄「回顧七十年」（田村圓澄『太宰府の春—回顧七十年—』、六興出版、1987年）、p.191。
  - 5 同前。

## 4月

### 1、月、雨

8.30. 午前研究室へゆく。午後、中井氏と共に竹岡先生宅へゆく。帰途桧垣さんの家へよる。5時すぎ辞す。

夜、秋山氏来る。談論す。 10.30.

### 2、火、曇、雨

8. 午前荷造り。チツキで送る。午後法文学部の入試を終へた太田君と街へ出る。

6.28発の列車で、太田君と一諸に博多を発つ。花田君が見送りに来てくれた。

太田君は10.50発の急行で、東京へゆく。明后日、正大の入試をうけるさうである。自分は10.10下関の列車にのる。混雑のため、広嶋まで立ちづめであつた。

### 3、水、雨

午前6時すぎ福山下車。雨中福山城を観る。

8.36発の列車にのる。4時すぎ帰家。一同元気。

夜大風ふく。 9.30

### 4、木、晴

9. 昨年の今日、兄は内地を後にしたのである。

午後、兄に慰問品を送る。夜、徒然草をやる。秋山氏より来信あり。 9.30

### 5、金、曇、雨

7.30 午前徒然草、午後雑事、夜徒然草。

様々な生活、様々な考へ。

複雑な生活、複雑な考へ。

それを超へなければならぬ、24才の青年。 10.20.

### 6、土、曇

7.30. 午前“徒然草における世界観の構想”完成。

これで、本文は全部完成した。残るは序説だけである。

午後雑談。夜、論文。寒い。 10.30.

### 7、日、快晴

7.30. 10時すぎ柳原へゆく。母と妹と共に兄の書籍を入れた長持を整理する。8時帰宅。 11.

### 8、月、快晴

7.30. 午前、3.30出の来信兄より来る。移動中とのこと。勿論元気なり。午後、論文の序説を完成する。

これで、卒業論文も一應完成したわけである。残るは清書のみ。 10.30

## 9、火、快晴

7.30 序を書き始める。午後、之代さんとお母さんが来られた。4時すぎ三人で榎原神宮に詣る。大鉄で神戸へ帰られた。

夜、岩男さん、達男さんが盗事をしたのが顯はれて説教する。 12.30.

## 10、水、快晴

7.30 徒然草研究の序完成。これで、卒業論文はすべて完成した。あとは整書のみである。午後、宮町<sup>ママ</sup>のお葬式にゆく。夜整髪する。松濤先生に便りをかく。

今日の大朝によれば、8日に佐藤部隊の某中尉が南昌方面で約一千名の敵と交戦して戦死された由。

10.30

## 11、木、快晴

7.30 「文学」に無常観の論理を投稿せんがため、妹に清書を依頼する。無常観の論理の全面的書きかへに一日かゝった。

今日は、大和へ帰つて初めての暖い日であつた。晝間、池の蛙がないてゐる。太田君から便りが無いが、九大がいけなかつたのであらうか。 10.30

## 12、金、快晴

6.30. 午前、法文論叢に“美的世界の成立”を投稿せんがため原稿用紙に書き始める。午後一時半すぎ田中先生を初瀬にお訪ねする。四方八方の話をする。先生はこの三月限り、佛専をひかれたとのことである。五時すぎ辞す。夜、午前のつゞきをする。

花田君、太田君の母君より来信あり。太田君は見事九大に合格したさうである。太田君のお母さんにあてお祝の返事をする。

今日は実に暖かであつた。九日には、まだ咲いてゐなかつた蘇武の堤坊の櫻も、今満開である。内膳池のつつみ、初瀬の町の櫻も、今を盛りに咲いてゐる。春である。 11.

## 13、土、雨

6.30. 午前和田氏の三部聖。午後柳原吉田の三部聖。

夜、原稿かく。 11.

## 14、日、曇後雨

7. 午前原稿の續きをする。午まえ、太田君のお母さんが来られた。太田君は、九大、正大、広嶋文理大の三つを受験し、皆受かつたのであるが、ついに広嶋にゆくことになつたとのこと。三時頃帰られた。

夜、無常観の論理の清書を妹が完成してくれた。 11.

## 15、月、快晴

6.30 午前論文(法文論叢の)清書つゞける。午後三時30分にいつもの如く、晩成小学校の生徒(檀家の子)来り、境内を清掃する。後、昨年の北支蒙疆行の話をする。夜清書。岩波の“文学”へ“無常観の論理”投稿する。 12.

## 16、火、晴

6.30 午前、藪下の太田へ三部聖に参る。午後二時三十分八木駅発の大軌で京都へ向ふ。支那派遣特命全権大使阿部大将と同じ電車であつた。京都午後五時発の下関行にのる。

## 17、水、快晴

6.30分下関着。9.15博多着。登学する。

午後辛島氏と丸善へゆく。金子大栄氏の“日本仏教史観”を購ふ。午後5時松涛先生宅へゆく。8.20辞す。大学新聞来る。兄より来信あり。古賀氏より来信あり。 11.

## 18、木、曇後雨

7.30. 午前、荷物、押入れの整理。午後、夜法文論叢への原稿完成。古賀氏に速達出す。大学新聞社へ便りする。 11.

## 19、金、快晴

8. 10～刑法。午後、論文清書する。

5時すぎ竹岡先生のお宅へゆく。しかし、中山先生が一足先に先生の家を訪ねられたので引きかへし、古本屋をみる。

積文館へ、六国史の代金を拂ひ、“鏡花全集”の豫約申込む。

8時帰宅。 10.30.

## 20、土、曇

7. 午前九時すぎ竹岡先生のお宅へゆき、種々お話をうかゞふ。10時辞す。午後論文清書。“日本佛教史観”よみ始める。大友、江崎慎一(京大)の二兄に便りする。 10.30.

## 21、日、曇

7.10 午前論文清書。午後、夜同じ。

“日本佛教史観”よむ。太田鉄雄氏に、手紙と共に、観音像のお写真送る。太田正之君に便りする。 10.30.

## 22、月、曇

7. 8～軍講、10～行政法、1～国学演習、3～民法5。夕食后、麻生君と散歩する。

8時頃、伍賀君来る。9時まで雑談する。

今年度、文科入学者27名。内国史専攻生は、伍賀、中林、宮下、杉本の四君である。古賀氏留守宅より来信あり。 10.30

## 23、火、快晴

7. 今朝は相当冷たかつた。風邪をひいた様子。

8～民I、10～圣済学、1～美学入門、3～財政。

夜、原稿清書。 11.

## 24、水、晴

7.30 8～行政。終つて鏡山先生のお宅へゆく。しかしお留守。

1～ギリシヤ哲学史。4時すぎ、聯隊へ行き鏡山先生に面会。27日の新入生歓迎会の御案内をする。夜麻生兄と町へ出る。10.30帰る。

太田、江崎兄より来信あり。 1.

## 25、木、快晴

9.20. 10より工科グラウンドにて靖国神社臨時大祭遙拝式あり。後、松涛先生宅へ行き晝食御馳走になる。3時辞す。

セルを着る。清書續行。大学新聞社へ送信する。

大和より、八ツ橋送り来る。くだけてみる。澄諄さんより来信あり。 11.40

## 26、金、晴

8. 10～刑法。その前に、花田君に会った。

1～民I。帰宅して、大和へ便りする。

夕方竹岡先生のお宅へ行き、明後日の国史科新入生の歓迎会の御通知をし、法文論叢に投稿すべき“美的世界の成立”の原稿を渡す。

帰途、桧垣さんのお宅へより、歓迎会の通知をする。桧垣さんは留守であつた。8時帰宅。太田鉄雄氏より来信あり。 11.30

## 27、土、雨後曇

7. 民I休講。10時まで、支那文学研究室で永野さんとお話する。1～3、財政学。帰りて、論文の本論清書完成。あとに、序と序説のみ残つてゐる。

無常観の論理 38枚(400字詰原稿用紙)

女性観の性格 25枚

美的世界の成立 26枚 序 7枚

人間観の構想 16枚 序説

夜、中林君来る。10時まで雑談する 11.

## 28、日、快晴

8. 午前原稿清書。11時頃家を出て、明治へゆく。

12時より、新入生歓迎会。長沼、竹岡、鏡山三先生始め、安河内、有光、西尾、榊原の各氏、中井副手、阿部、田村、出席。新入生、杉本、伍賀、中林、宮下君。盛大なり。2時散会。阿部君と共に天神町へ行き、又、歩いて、箱崎へ帰る。兼好の話などする。更に下宿へ来り、後、阿部君の下宿へ行く。夕食を御馳走になり、風呂へ入る。10時辞す。大学新聞拝受。 11.

## 29、月、晴

7. 天長節。一日中清書續行。序の清書完成。

晩春の候。惜春。急にHのことが想ひ出された。 10.30.

### 30、火、快晴

7. 8～民法 I、10～圣济学、1～日本政治史、財政休講。

5時すぎ松濤先生のお宅に行き夕食を頂く。

7時辞す。すぐ、国史新入生諸氏と共に、桧垣さんのお宅を訪れ種々お話を承る。9.20辞す。帰途天神町へ廻る。

今日と明日はドンタクであるが、淋しい。 11.30.

## 5月

### 1、水、快晴

7. 午前清書。夕食后、中林君と散歩する。後、宮田君の下宿へ行つて雑談する。10時辞す。

今日は、宣誓式にて休業。

大和より速達来り、教育召集、4日より一週間とのこと。但し、教練証明書を送ればよいとのこと。

11.

### 2、木、快晴

6.30. 8～刑法、10～国際法演習。

午后五時三分の汽車で、松濤先生と奥さんは北陸へ旅立たれた。当分お留守である。論文清書完成す。

10.

### 3、金、曇

6.20. 8時前、配属将校より証明書をもらひ、速達で送る。

永野副手で雑談す。午后、竹岡先生から“美的世界の成立”を返へしてもらふ。全面的に加筆の要あり。

10.

### 4、土、曇

7.30. 法、圣の講義に出ないことにする。

午后、辛島、芝武雄氏(圣济)とビール園へゆく。

大和へ便りする。

### 5、日、晴

6.30 午前国学演習。うひ山ぶみ予習する。

午后、徒然草研究発表の下調をする。鏡花全集をよむ。

大学新聞入手。 10.

### 6、月、快晴

6.30 8～教練、10～思想史、1～国学演習。才一回の当番をやる。議論百出。後、研究室で、9日の研究発表のテキストのプリントをかく。夜、鏡花全集の破損のため、金文堂へもつてゆく。とりかへてくれるとのこと。あづけた。

古賀氏より来信あり。台中師範に就任した岩田氏より挨拶状来る。 10.30

## 7、火、曇

7.00. 午前、プリント書上げる。1～美学入門。

後、石川君の助力でプリント謄寫し終る。夜、繁子さん維三子さんに手伝ってもらって、プリントの不明な所を補筆する。

澄諄さんに便りする。父上、母上、古賀氏より来信あり。 10.30

## 8、水、曇

8. 午前清髪する。圖書館にて龍之介全集をよむ。

1～哲学史。後、田中先生とお話する。

維三子さんのお母さんが来られたので、今夜から、下宿でねることになった。

夜三畏閣の静坐会に出る。 11.

## 9、木、快晴

7. 午前研究室へゆく。午後五時三十分より、三畏閣で古典研究会あり。高木、小島、笹月の諸先生始め約二十名来会。“徒然草における人間觀の構造”研究発表する。丁度2時間。非常によめられた。たゞし、私の研究法は、觀念論的であると高木先生は仰言つた。質問の時口をきいたのは城島助手と中井、永野二副手のみ。他の人からは質問出なかつた。帰途麻生兄の下宿へよる。一時辞す。

大和へハガキ出す。 1.30.

## 10、金、曇

9. 午前研究室へゆく。又、高木先生のお部屋へ行き、昨日の研究発表に関する御批評を承る。

午後、身体検査。医科へゆく。

	昭和13.5.12	14.5.10	15.5.10
身長	158.0 cm	156.6	157.2
体重	49.300 kg	52.6	48.8
胸囲	85.1 cm	85.5	80.0

体重が、約4kg減少したのは、卒業論文作成のためではなかろうか。検査が了つてから辛島氏と、町へ出る。

松濤先生と奥さんは今日帰つて来られた。煙草入れを、お土産に頂く。大和より書留来る。古賀氏より来信あり。正大二年の日高といふ人が、九大入学の問合せをして来た。

兄、大和、古賀氏に便りをかく。 11.20.

## 11、土、曇

8. 10時からの開学紀念祝賀式に參列する。

式後、報国隊の円堂助手、高松、稲田、筑紫君と共に志賀島へハイクする。暑い。大いに愉快であつた。6時帰宅。 9.40.

## 12、日、曇

5. 国史科新入生歓迎遠足。6.34分博彗発。唐津、名護屋方面へ行く。竹岡先生、桧垣、西尾、杉本、

伍賀、中林、宮下、田村の八名。名護屋城天守閣陞にて晝食をする。後、呼子へ行き、唐津へもどつて、7.30博多へ帰る。9時帰宅。 11.

### 13、日、快晴

7. 8～窄射撃。1～国学演習。後、辛島氏と丸善へゆく。宮前で起勢子さんに会つた。相変らず美しいひとである。 11.

### 14、火、快晴

9. 午前図書館、芥川全集をよむ。1～美学入門。診療所で、奥歯の治療をしてもらふ。夜、街へ出る。学生の生態を買ふ。帰つてよむ。大和、正大の日高氏に便りする。秋山氏に手紙をかく。 12.30.

### 15、水、曇

9. 1～哲学史。帰つて“学生の生態”讀了。夜、静坐会に出席。古賀氏より来信あり。兄に大学新聞送る。 11.

### 16、木、曇

8. 図書館。後、笹月先生のお部屋で、先日の古典研究会の批評を承る。午後、寿座へ行く。“旅する人々”“翼の乙女”前者には強く感動させられた。額附を買ふ。“新女苑”に、大杉さんが、“男子学生に伍して、九州大学生生活記”を書いてゐる。買つてよむ。 10.40.

### 17、金、晴

8. 午前図書館。国文学の高木先生に、“法然上人”“出雲宗要”の二冊を貸して上げる。午後竹岡先生のお宅へゆく。お留守。後、田中晃先生のお宅へ行き、“歴史と原型”といふパンフレットを頂く。夜、医科の山崎氏来る。街へゆく。11時帰。山崎氏に“正法眼蔵積意”をかして上げる。金文堂より鏡花全集才五巻をもつてくる。 12.

### 18、土、晴

8. 午前図書館。午後3時より工学部大講堂で、九州国際文化協会主催の、矢崎先生の講演“日本上代の絵画における運動の表現”あり。夜、杉本氏と共に、風邪の伍賀君を訪ねる。殆んど快い。9時30分辞す。九大山の家から、辛島氏来信あり。大学新聞来る。 12

### 19、日、晴

8. 工学部グラウンドにて、才二十四回九州帝国大学学友会運動会開催。樽廻し、拜借競走、喫煙競争、百足競走、霧中航走、メンタルテスト、雲助道中、バランス競争に出場。樽廻し 二米ころがして止す  
拜借競争 出発後、二三歩にしてころぶ  
喫煙競争 一着。クツシター足と、扇子をもらふ

百足競争<sup>ママ</sup> 三着。カタパン一箱

霧中航争<sup>ママ</sup> 駄目

メンタルテスト 帝国大学の所在地、 興亜奉公日は何月何日か。  
=名古屋と大阪とをぬかす。 駄目

雲助道中 ラスト

バランス競争 四着。扇子、用紙、ハミガキ粉。

大和へ便りす。大和より一遍上人語録送り来る。夜伍賀兄の下宿へゆく。 11.

## 20、月、晴

9. 教練欠席する。10～思想史、1～演習、国文の東君と大いに渡り合ふ。自分はしかし、感情が激してくるが、之はよくないことだ。

午後、夜、法文論叢の原稿書き始める。“立場と方法”“女性観”を出すつもり。 11.  
休学中だった国史科の浄福氏に始めてお目にかゝる。

## 21、火、快晴

8. 午前、研究室にて、女性観の性格清書する。1～美学。午後、夜も、清書をする。妄念を転ずるために煙草をすふ。 12.

## 22、水、快晴

8. 御親閲のあつてから一年目。式あり。欠席する。  
清書する。午後4時すぎ松濤先生のお宅へゆく。夕食を頂く。9時辞す。又清書。 12.30.

## 23、木、曇

7. 午前清書完成。午後、辛島、目黒氏と共に壽座へゆく。“汚れた顔の天使”“海軍爆撃隊”。前者は深刻であった。  
夜、大和、山崎へ便りかく。  
大和より来信あり。 12.

## 24、金、雨

9. 文科会の件につき、朝松濤先生のお宅へゆく。  
午後研究室で勉強する。夜菅瀬氏に便りをかゝる。 9.

## 25、土、曇

9. 午前研究室で、浄福氏とお話しする。  
午後松濤先生のお宅へゆく。高文志望を断念したこと、及び、卒業後、研究室に残りたい旨の御了解をして頂く。夕食を頂き九時辞す。大学新聞入手。 11.30.

## 26、日、晴

7.30. 11時、平尾の射撃場へ行く。0卓。

帰途芝氏と共にその新家庭を拝見する。

午後、才二学生集合所<sup>ママ</sup>の史学会例会に出席する。小林、重松二先生の講演あり。晚餐会の後、長先生、桧垣、田村、戸上、筑紫の順で研究発表あり。“徒然草研究の立場と方法”をやる。しかし、非常に早口であつたし長先生は“分らなかつた”と云はれた。帰途、伍賀君と、西洋史専攻の人と共に、フロイデにより談話する。

法文論叢の原稿は何回よんでみても、誤字や訂正すべき個所が出てくる。

“文学”に、“無常観の論理”が掲載されればいいのであるが… 没書になつたのかも知れない。 11.

## 27、月、晴

7. 8～教練。10頃花田君来る。1～演習。終つて竹岡先生に、高文を断念したことを御相談する。今後思想史の研究を進める決心を深くする。夜伍賀君と街へ出る。

蒙疆学院の山本大介氏、正大の日高兄より来信あり。 11.40.

## 28、火、晴

8. 午前研究室。1～美学。後、丸善へ行く。

夜、金文堂へ行く。竹岡先生の“日本思想の研究”をもとめる。又、西田博士の“日本文化の問題”を買ふ。“二千六百年史”(大川氏)(発禁)をもかふ。六国史、鏡花全集のお金を拂ふ。 12.

## 29、水、晴

7.30 8～国史概説。午後、下宿で“日本文化の問題”をよむ。

夜、三畏閣で静坐会あり。 11.

## 30、木、快晴

7. 午前、午後、“日本文化の問題”讀了。夜、伍賀君と竹岡先生のお宅へ行く。9.30辞す。

大和より書留来る。大和、日高兄へ便りする。兄に大学新聞をおくる。菅瀬氏より来信あり。蚊帳をつる。 12.

## 31、金、快晴

7.30、文科会の件について、箱島のちどりから返事が来た。来月16日に文科会をやることに内定する。

太平記を讀み始める。夜、才二学生集会所での、就職懇談会に出席する。終了後街へ出る。今日は、自分には、かつての自分には、もつとも記念さるべき日であつた。

途にて、阿部君と会ひ、土居町より歩いて、話し乍ら飯る。 1.

## 6月

### 1、土、曇

9. 午前研究室で太平記を讀む。

1～才二演習室で哲学講話会あり。田中助教授の“文化の論理的性格” 3～研究室にて、才一回の国史研究会を開く。“日本文化の問題”をトキストにする。永野、中井両副手、伍賀、中林、宮下、田村出席。

夜、伍賀君来り、10時まで議論する。

兄より来信あり(5.26出) 兄に慰問品おくる。 12.

## 2、日、快晴

9. 10時半より、校庭にて、法文会の園遊会あり。万才、博彦にわか、後、工科の大講堂にて、“カラマヅフの兄弟”その他の映画上映さる。5時終了。後、街へゆく。夜、文科会の予定を考へる。 10.30.

## 3、月、快晴

8.30 教練休む。10～国学史。正午文科会幹事会。箱嶋行決定。演習さぼる。4～より医科大講堂にて国民政府答禮專使陳公博氏、林伯生氏の講演会あり。

夜、松濤先生宅へ行く。8.40辞す。

今日、医学部前にて鏡山先生にお会ひする。先生は来る七日除隊される由。 11.30

## 4、火、晴

7. 午前“太平記”よみつづける。後、文科会懇親会の案内状を配布する。長、矢崎先生御出席とのこと。1～美学。夜、讀書。

太平記—“因果の道理” 平家物語—“無言の理法” 10.

## 5、水、雨後曇

7. 午前長沼先生に卒業論文について若干お話しておく。

文科会について、笹月、小林先生の御承諾を受ける。田中先生はお彗忙とのこと。長沼先生は講演会で駄目。麻生君と松屋の古本市へ行く。

夜、静座会。後、麻生君の下宿へ行き雑談。11時辞す。 12.

## 6、木、晴

7. 一日中太平記をよむ。その間文科会のことについて、各方面の方と交渉する。 11.

## 7、金、曇

7. 午後、松屋へ行く。伍賀君と会ひ、俱に夕食をし、後、西尾さんのお宅へゆく。種々お話しして、9.30辞す。

太平記よみ続ける。

大学新聞、仏専同窓会誌入手。 12.

## 8、土、晴

7. 3～国史研究会。大和へ便りする。

太平記上巻讀了。夕方中林君の下宿で雑談する。 11

## 9、日、快晴

7. 午前、午後、太平記下巻をよむ。

夕方伍賀君来る。街へ行く。途中で国文の石川君と一諸になりノレンで一杯やる。往復とも歩いて、

12時30帰る。 12.40

## 10、月、曇

7. 8～軍講、1～演習。太平記読みつづける。  
卒業論文について、竹岡先生にお話承る。 10.30

## 11、火、快晴

7. 午前、研究室。午後、永野副手、辻村君の三人で、箱嶋ちどりへ行く。16日の文科会の下検分の意味で。景色もよく、料理もおいしかつた。9時に帰る。松室氏に便りする。 11.

## 12、水、快晴

8.30. 雨が降らないので、今年も水飢饉である。  
午前研究室。12時より才二学生集会所において、鏡山講師除隊歓迎会を催す。来会者、鏡山、長沼、鏡山、中井、榊原、浄福、阿部、中村、伍賀、宮下、杉本、岡村の十二名。  
1～哲学史。夜静座会。後、山崎氏とお茶をのんで別れる。 11.20.

## 13、木、快晴

7.30 午前研究室。午後文科会の件につき奔走す。  
後、小鳥氏、豊田先生、矢崎先生のお宅へ行き、桧垣さんのお宅へゆく。9.40辞す。大和より来信あり。  
11.20

## 14、金、快晴

7.30. 午前、午後、文科会の仕事をする。教官、学生の出席率予想通り大成功。夕方松濤先生宅へ行き夕食を頂く。九時辞す。  
大学新聞入手。 10.30.

## 15、土、雨、曇

7. 午前、午後、文科会の仕事をする。3～研究会。  
夕方石川、東兩君の下宿へ行く。後、石川君と共にお茶をのんで話す。10.20別れる。 11.15.

## 16、日、雨

7.30 9時今川橋に集合する。雨。しかし、44名の来会者あり。大島名誉教授始め、教官12名、助手副手13、学生25名。一路貸切バスにて箱嶋に至り、総会、午餐を共にする。私が司会の役を仰せつかる。長末氏は会計方面、永野さんは総務格。大盛会大成功であつた。4時散会。  
バスにて帰る。永野さんの宅で、永野さん、長末氏と共に会計の計算をする。7時辞す。  
天神町で長末氏と別れる。土居町の藪にて、国文の麻生君、海江田君に会ふ。後、麻生君と共にお茶をのみ雑談。  
10時帰宅。 11.

## 17、月、曇

7. 8～軍講。1～国学演習。

帰途松濤先生宅へより、昨日の御禮を申上げる。夕食を頂いて8時辞す。太平記よむ。

今週、金曜日、論文発表会あり。修学簿交附。 10

## 18、火、快晴

7. 午前、研究室。1～美学。

夕方城福氏来り雑談。後、石川氏と街へ出る。後帰つて11.30迄話す。大和より来信あり。兄に大学新聞送る。 12.

## 19、水、快晴

7. 午前研究室。1～哲学史。後、辛島氏、本多君と共に寿座へゆく。“ロビン・フツドの冒険”その他あり。帰宅9時。

大和へ手紙をかく。 11.40

## 20、木、晴

8. 午前研究室。午後永野氏、長末氏と岩田屋で待合せ。後、文科の応召者、日野助教授、釜田助手、波多野副手の三氏に慰問品を送る。その後三名夕食を共にす。

夜、在郷軍人健康状態調査に関する書類、速達にて家より送り来る。麻生兄の下宿へゆく。 11.30.

## 21、金、晴

8. 10～才一演習室にて、小鳥氏と二人、卒業論文発表会あり。長沼、竹岡、鏡山の三先生の外、常福氏、阿部君、一年の四人出席。夕方松濤先生宅へゆく。

6.30. 積文館で落合つて、小鳥氏とおでんやへゆく。芝(宮内)氏と会ふ。11時別れる。愉快であつた。松室氏より来信あり。大学新聞入手。 12.

## 22、土、快晴

8. 九時30分頃、松濤先生と奥さまは佐賀縣へ行かれ、一泊されるので、先生のお宅へ来る。太平記下巻讀了。

大和、井上彰氏に便りする。論文を送る。 9.30

## 23、日、快晴

7. 鏡花全集や文芸春秋を読む。

夕方、先生と奥さんは帰られた。井上氏より来信あり。

## 24、月、快晴

7. 午前研究室。1～演習。街へ出る。

夕方、石川君来る。又、街へ出てのむ。12時帰宅。石川君とまる。 12.40

## 25、火、曇

5時石川君帰る。9時まで寝る。午前研究室。午後1時～美学。後図書館。夕方中井さんの宅へ阿部君とゆく。

大和より書留来る。 10.50.

## 26、水、雨

10. 一日中雨ふる。慈雨。

研究室より多数書物を借り出す。

夕食、松濤先生のお宅で頂く。9.50辞す。 11

## 27、木、晴

8. 午前研究室。午、辛島氏と街へ出る。

夜、旅行案内を買ふ。

妹より、速達来る。旅行の費用として、10円の爲替封入。

大学新聞入手。 12.

## 28、金、曇、雨

7. 午前、午後、法文論叢に、追加として無常観の論理を出すやう依頼されたので書き始める。7.30～

10. 宮下君と共に松濤先生のお宅へゆく。宮下君は、今夏、先生のお宅の留守をして頂くことになってゐる。

帰宅して、2時までかきつづける。大和へ便りする。 2.10.

## 29、土、雨

7. 午前研究室にて、原稿完成。全部で丁度七十枚。午後、野中君に渡す。2～常福氏の卒業論文内容発表ある筈の処、竹岡、長沼両先生が見えず、来週火曜日に延期。夜、麻生君の下宿へ行く。9.40辞す。

12.

## 30、日、雨

9. 9時に急行電車の表で待合せの約束がしてあつたのに、枕時計が止まつてゐたためついに寝すごし、あはててかけつける。しかし、小鳥さんは先へ行かれた。二日市で落合つた。そして、雨の中を長沼先生のお宅へゆく。用事はない。たゞ、お会しに、行つた丈けである。1時に帰る。

常福氏来る。5時まで雑談

夜、江口氏に便りする 10.30

## 7月

### 1、月、曇

7.30 午前奈多に長先生をお訪ねする。しかし先生はお留守であつた。

午後 11.44 博多発。辛島助手と一路鹿児島に向ふ。麻生、石川両君見送りに来る。

松濤先生の奥さんは、特に20圓かして下さつた。

## 2、火、快晴

列車の内では殆んど睡れず。午前7.10鹿児島着。すぐ、尚古集成館及び、島津家別邸を見学する。  
午後、鹿児島商業、岩崎宗十郎氏(国文出身)を訪ねる。行、町を案内してもらふ。  
五時、ポンポン船にのり、海潟温泉に向ふ。桜島は煙を吐いてゐる。海潟館で泊る。 10.20

## 3、水、快晴

6. 温泉に浸る。気持がよい。  
10.30 発の船にて鹿児島に帰る。船の中で、満洲へ行く青年報国隊の一人と知り合ひになる。  
12.20 東鹿児島駅前<sup>マ</sup>の列車で出水へ行く。  
江口さんのお宅をお訪ねし、泊めて頂く。 10.

## 4、木、快晴

6.30 出水高女勤務の江口氏と一諸に駅まで行き、そこで別れて水俣へ行く。石川君は熊本より水俣へ来てみたが、都合により天草行を中止したので、二人で向ふ。美しい海を渡つて大門着。バスにゆられて崎津へ来り、天堂堂、キリシタンのお墓などをみ、一泊。 10.30

## 5、金、快晴

6. 7時発のバスが固障<sup>マ</sup>で行かず、トラツクに便乗して一丁田へ出、それよりバスにて本渡へ来る。  
午後1.30大矢崎発の船にて三角へ向ふ。  
熊本駅にて下車。石川君と共に夕食をし、スグ又汽車にのる。高瀬にて、辛島氏と別れて、玉名中学勤務の秋山氏を訪ねる。共に立願寺温泉へ行つて一あびし、秋山氏の下宿でとめてもらふ。 10.40

## 6、土、快晴

6. 6.29発の汽車で、高瀬より博多に向ふ。10時帰宅。大学へ行き、除隊された日野先生からお話を承る。午後下宿でねる。  
夜、松濤先生のお宅へ行く。9.10辞す。 10.30.

## 7、日、晴、夕立

7. 日支事変三週年記念日。午前九時半より工科グラウンドにおいて、本学関係の戦没者の慰霊祭あり。  
後、芝氏と街へ出る。お土産を買ふ。  
宮下君と、松濤先生宅で夕食を頂く。  
10.20辞す。 11.30

## 8、月、晴、夕立

8.30 午前荷物の整理。午まえ松濤先生宅へ行き、行李の修繕をする。晝食を頂く。中元として金五圓頂く。又、五圓拝借する。後街へ出る。阿部君に会ひ、一諸にお茶をのむ。夜、夕立あり、書物をチツキにする。愈々明日帰るのだ。  
兄に新聞おくる。秋山、江口兩氏に便りする。 10.30

## 9、火、曇、雨

6. 10.23博多発の準急にのる。長末、阿部兩兄の見送をうける。下関10.35発急行。4.20広島下車。太田さんの下宿をたづねる。夜太田さんと街をぶらつく。

10.30就寝。むし暑くて容易に睡入られず。

## 10、水、曇、雨

8. 太田さんは、8時からの高等学校の試験監督にゆかれた。9.30に帰られ、共に巖島<sup>ママ</sup>に参詣。宝物を見学する。

松濤、竹岡、桧垣の諸氏に太田さんと寄書を出す。4時頃雨がふり出して来た。帰ったのが9時。

10.30

## 11、木、雨

6.30 朝食を頂き、8.30広島発大阪行の準急にのる。混雑してゐなかつた。4時すぎ山崎に来る。皆元気なり。 10.

## 12、金、雨

7. 午前、浩道ちゃんや皆なの寫眞をとつたりする。

午後本堂掃除。3時葬式の役僧となる。

終つて四時、別れをつけて京都へ来る。大丸へ行つたがHはゐなかつた。6.15京都発の列車で9時前帰る。母は柳原へ行つて留守。父と妹と話をし12時寝る。

## 13、土、曇、雨

9. 午後松濤先生に速達を出す。

夜太田さんに禮状を書く。

10時、岩男さんが、西瓜を盗んだことを以て、奥田の派出所に引とめられてゐるので、雨の中を請出しにゆく。帰途樞原警察署によつて訓誡さる。 1.

## 14、日、曇

9. 午前、掃除。午後浄土教報に投稿の論文をかく。夜も。夜強風吹く。 11.

## 15、月、曇、雨

7. 柳原の施餓鬼会につき、妹と共に留守をする。

午前“僧道を求めて”なる小文を浄土教報社に投稿する。午後“梅松論”を読み始める。夜も。

大学新聞転送さる。繁子さんより寫眞送り来る。 11.

## 16、火、晴

7. 午前“梅松論”よむ。午後、夜“浄土宗学の危機”かき上げる。 12.

## 17、火、晴

7. 一日中讀書。

百万塔の“梅松論”“吉野拾遺”、日本文学講座の“信生法師日記”“嵯峨のかよひ路”讀了。又、帝国文庫の“都のつと”“小島の口ずさみ”讀了。山崑房書店より案内状来る。

昨夜書上げた“浄土宗学の危機”教学週報社に投稿する。米内内閣総辞職す。 10.30

## 18、木、晴

6.30 “竹向きが記”讀了。“道ゆきぶり”讀了。夜“建禮門院右京大夫集”を讀み始める。

鹿児島商業の岩崎宗十郎氏に、鹿児島にて撮った寫眞を送る。天草にてうつした寫眞、約束の如く少年に送る。

松濤先生より来信あり。 10.

## 19、金、快晴

6.30 “小夜のねざめ”“文明一統記”“東斎隨筆”“建禮門院右京大夫集”讀了。

あつい。夜父上、妹と雑談す。涼し。 12.

## 20、土、晴、夕立

7.30. “うたゝねの記”“いざよひの日記”及び“愚管抄”(卷七)を讀了。

午後夕立あり。夜父上と雑談。 10.

## 21、日、快晴

7. 達男さんは向ふ一週間、津へ海水浴にゆく。

午前、駅前川本氏の三部聖。

午後、“宝物集”よみ始める。松室氏に便りする。

近衛新内閣の顔ぶれ大半決定す。

文部大臣には東大の橋田教授がなられることになった。 10.

## 22、月、曇

7. 竹岡先生に、暑中お見舞かたがた、現在までの論文内容を報告すべく、お手紙を書く。一日かゝる。しかし、少し残る。 11.30.

## 23、火、快晴

7. 午前竹岡先生への手紙書き上げる。

先生に観音さまのお寫眞三葉別送する。

兄に便りする

午後“宝物集”讀了。

夜、暑い。雑談する。 10.

#### 24、水、快晴

7. 午前、辛島、菅瀬、中井氏に便をかく。

又、海潟垂水からの帰途船中で寫眞をうつした勤労報国隊の人に寫眞を送る。但し、住所、姓名喪失につき、辛島氏から送つてもらふ。

午後、“康頼宝物集上”讀了。

夜雑談。松室氏より来信あり。 10.

#### 25、木、快晴

7. 9時すぎ、超短波療治器を買ひに大阪へゆく。しかし、買はず。大道寺へ秋田君を訪ねる。一諸に古本屋を見廻る。別れて5.30大阪発の電車で帰る。 10.

#### 26、金、快晴

6. 8時高田男子校の浄土宗夏季講習会に行く。友松圓諦氏の講演、及び田中先生の“聖徳太子と日本仏教”の二つを聞いて、12時30帰宅。

兄からは未だに便りが来ない。

昭和13年3月、兄と一諸に北支に出征した新町の菊岡氏は昨日帰還されたとのこと。 10.

#### 27、土、晴

7. 午前、“康頼宝物集”讀了。“撰集抄”讀み始める。頼利さんよりヤマタイ国のことについて問合せて来る。返事を出す。

今日はお地藏さまのお祭り。夕方から子供で賑つてゐる。澄哉さんが、童話や紙芝居をした。

夜涼しい北風が吹いてゐる。朝兄より速達(20日出)来る。 10.

#### 28、日、晴

7. 午前午後“撰集抄”讀了。

夜“閑吟集”讀み始める。

夏休み中に讀むべき書物は、あと、有朋堂文庫の“狂言記”(2冊)“謠曲集”(2冊)のみ。予定は漸次遂行されてゐる。

#### 29、月、晴

7. 午前“閑吟集”讀了。

午後、母、妹と雑談。

夕方、山崎の兄さんと浩道ちゃん来る。

繁子さんに便りする。兄に大学新聞送る。

教学週報に“浄土宗学の危機”前半掲載さる。 10.30

#### 30、火、快晴

5.30. 山崎の兄さんと浩道ちゃんは昨夜一泊。今朝6時の電車で帰崎。

朝、午後、夜“謠曲集”上讀む。

永野さんに便りする。中井さんより来信あり。 10.30

### 31、水、晴

7. 一日中“謠曲集上”を読み続ける。

辛島助手より来信あり。 10.

## 8月

### 1、木、晴

6.30. 終日“謠曲集上”読みつゞける。

小鳥、常福兩氏に便りする。兄より来信あり。 9.30.

論文のプラン

- 徒然草の思想
- 日本思想史における徒然草の地位
- 徒然草とその時代。時粧。
- 兼好法師畧傳
  
- 日本精神史の三段階
- 平家物語と建禮門院右京大夫集  
太平記と徒然草
- 浮世の成立 閑吟集
- 徳川時代の浮世意識と徒然草

### 2、金、晴

7. 午前、父の図書棚整理

午後、古い原稿などをみる。夜雑談。

夜は涼しくなつて来た。

九州から帰つて以来わづらつてゐた水蟲も、やうやく治療した。 10.

### 3、土、曇、小雨

7. 午前“謠曲集上”読みつゞける。午後も同じ。

夜、原さん(九大、農、昭9卒業)のお宅を訪ねる。9.20辞す。

満洲へ勤勞奉仕に行つてゐる角野君より来信あり。

宮下君より来信。“法然上人法語抄”送り来る。

角野君に便りする。長沼先生に暑中見舞状を出す。 10.20.

### 4、日、曇

7. 朝、澄哉さん應召の電話かゝる。

午後、新町の葬式にゆく。

夜、深瀬君と街で会ふ。深瀬君は、昭和13.8.4内地を出て中支に転戦し、この六月除隊になつたのである。

11.

## 5、月、晴

7. 午前10時、家を出る。大軌、京阪電にて枚方の宝田さんのお寺を訪ねる。宝田さんはお留守。その間、前田先生のお寺へ行つたが、先生もお留守。

七時頃、宝田さんが帰つて来られたので、引き返してその夜は遅くまで四方八山の話をし、ハモニカを吹いたりして時をすごした。 11.

## 6、火、晴

6. 8時すぎ。宝田さんのお寺を出て、山崎へ行く。澄哉さんが使用する軍服、軍帽、靴を借りて、京都へ行き、京都座で“木石”をみる。

帰途、大丸へ寄り、書籍部の女店員に尋ねると、広瀬さんは昨初夏、6月頃、お店を辞したとのことである。種々なる感慨の中に置かれた。6時すぎ帰宅。 11.

## 7、水、曇、雨

7. 朝、高木先生にお便りを書き、“法然上人法語抄”を送る。ひる前澄諄さん来る。昭和12年8月応召し、北支に転戦し本年一月帰還。4年ぶりで顔を合はす訳である。色々手柄話を聞いた。晝食が済んで澄諄さんは太田へ帰つた。

夕方雨ふる。 11.

## 8、木、曇

7. 午前、柳原、仲川の三部聖。午後、常門浄谷寺の施餓鬼に随毘する。帰途、檀原から澄諄さんと一緒になり、帰る。

夜、澄哉さんの壮行式を兼ねて、一同、夕食を共にする。澄諄さんとも、大いに話をする。

菅瀬、城福兩氏より来信あり。 12.30.

## 9、金、雨

6. 澄諄さんは朝、帰つた。

兄に手紙を出す。

午後“謠曲集”よみつづける。

仲川利七君が応召になり、来る十五日奈良に入隊するので夜仲川君の宅へゆく。海瀉の角野氏より便りあり。 10.

## 10、土、曇、雨

6. 午前九時。澄哉さんは沢山の人に見送られて、昨日来られたお父さんと共に故郷に向つた。

午後、新村の葬式に行く。竹岡先生より来信あり。 10.

## 11、日、曇、雨

7. 澄哉さんが居なくなつて淋しい。

午前、宮ノ下の田中氏の三部聖。  
午後、夜“謠曲集下”よみつゞける。 10.20.

#### 12、月、晴

7. 今日是一日中讀書。“謠曲集下”讀了。“狂言記上”よみ始める。  
高木先生より来信あり。 10.

#### 13、火、快晴

7. 午前、慈明寺、高田、大垣の棚聖に行く。  
午後、繩手の今出の葬式。終つて岩男さんと、常門念佛寺の施餓鬼会に随崑す。夜仲川君の家へ餞別をもつて行く。 10.30

#### 14、水、晴

5. 起抜けに、小房の墓へ行き、昨日の碑の誤字(昭和15日)を直す。午前、岡本家などの新盆の棚聖に行く。  
午後三時、仲川君ら入隊の兵士を見送る。後、京都へ行き五条大橋東詰加茂川別館に澄哉さんを訪ねる。  
8時辞す。帰途、慶應英文科の藤井國利君と電車の中で一諸になる。田原本まで話し合つて帰る。9.30帰宅。  
10.30.

#### 15、木、曇、雨

7. 午前、晚成校生徒の境内清掃あり。後、紙芝居をする。  
9時30、出雲、脇本、粟殿方面、棚聖に行く。2時帰宅 10.

#### 16、金、快晴

7. 午前、櫻井、山之坊の棚聖。午後、御所町の棚聖。柳原で泊る。西田の女の子ら遊びに来る。 9.30

#### 17、土、晴

5. 6.30より柳原の棚聖を始める。尾崎四郎さんが伴になる。柳原、出屋敷、大瀬町、新村と計60軒余の棚聖を了へたのが午後7時。八木へ帰る。 10.30.

#### 18、日、快晴

8. “狂言記上”よむ。  
小鳥氏より来信あり。 10.

#### 19、月、快晴

7. “狂言記上”讀む。伍賀氏より来信あり。  
高木先生、伍賀、阿部兩兄に便りする。 10.

#### 20、火、快晴

7. 朝、兄上より来信あり(10日付)

兄上に便りを書く。高木先生に教報、週報の綴ったのを送る。午前、“狂言記”をよむ。午後、磨き物をする。  
夜も“狂言記” 9.30.

## 21、水、快晴

6.30. 午前、午後、明日の準備、掃除。

“狂言記上”讀了。下巻よむ。

満洲の角野君より来信あり。今日は暑い。 10.

## 22、木、曇、小雨

6. 施餓鬼会嚴修。随毘寺院九名。

夜井川氏と話をする。 9.

## 23、金、晴

7. 午前、八木町佛教護国団の無縁佛及び英靈供養のため、八木、小房の墓地及び、晩成校内忠魂碑の前  
にて、讀聖する。

“狂言記下”讀了。“梁塵秘抄”讀み始める。 10.30.

## 24、土、晴

7. 午前 菅瀬氏へ便りかく。山崎へ浩道ちやんの寫眞を送る。

午後“梁塵秘抄”よむ。

夜初瀬の田中先生のお寺へゆく。9時30辞す。 10.30

## 25、日、雨

7. 松濤先生、竹岡先生にお便りする。

“梁塵秘抄”をよむ。 10.

## 26、月、雨、曇

7. 午前、風強く、雨ふる。午後やむ。

“梁塵秘抄”讀了。“平家物語”讀む。

今日から三日間、八木の愛宕祭である。涼しい。

夜、五目並べをする。辛島、阿部兩氏より来信あり。 10.

## 27、火、晴

7. 最近蚤に悩まれ續けである。昨夜も一匹の蚤の為めに三時頃に起された。

“平家物語”讀む。

松濤先生、菅瀬、伍賀兩兄より来信あり

夕方山崎より一家総出で来る。しかし兄さんは九時すぎ帰られた。 10

## 28、水、晴

8. 午前、松涛先生、菅瀬、伍賀兩氏に便りする。“平家物語”をよむ。  
24日以来、涼しい日が續く。 10.30

## 29、木、曇

7. 午前田中晃先生に便りする。  
“平家物語”をよむ。  
浩道ちゃん、泰道ちゃんがゐるので、家もにぎやかである。 11.

## 30、金、曇、雨

7. “平家物語”をよむ。  
山崎の兄さんに便りする。 10.

## 31、土、雨

8. 昨夜はどうしたことが、容易に寝入れなかつた。“平家物語”讀了。  
西尾陽太郎氏の“平安時代後期思想史”讀む。  
兄より、八月七日付の来信着。 10.

## 9月

### 1、日、曇

7. “後期思想史”讀了。  
“續西田哲学”を讀み始める。

### 2、月、晴

7. “續西田哲学”よむ。  
夕方、浩道<sup>ママ</sup>ちゃん、泰道<sup>ママ</sup>ちゃん、山崎へ帰る。母もついて行く。  
松涛先生より来信あり。又、暑くなつた。 10.20

### 3、火、晴

9. 昨夜、蚤で、容易に寝入れなかつた。  
母、山崎より帰宅。途中、伏見の工兵隊に澄哉さんを見舞つたところ。澄哉さんはなぐられて、顔に傷を負つてゐたとのこと。可愛想である。  
伍賀君より、岡山の吉備団子送らる。 10.20.

### 4、水、晴

7. 京都へ行き、松竹座で“民族の祭典”観る。後山崎へ行き、兄さんと一諸に、三条の苗井洋服店で背広(合服)あつらへる。  
自転車(澄哉使用したもの)八木までもつて帰る。  
帰宅11時。伍賀君より来信あり。 12.

## 5、木、晴、夕立

8. とても暑い。ここ数日來の暑さは又格別である。夕方、夕立あり。涼しくなつた。  
夜、“續西田哲学”よむ。静思寮へ便りする。  
九日に帰学することになつた。 10.

## 6、金、晴、夕立

7. 書物を箱につめ、チツキとして送る。他の一個を鉄道便にて送る。  
夜、原氏來らる。雑談に時を過し、11時すぎ歸らる。 11.30.

## 7、土、晴

7. “續西田哲学”よむ。  
明日の出發の準備をする。 10.30.

## 8、日、晴

7. 午前11.6畝傍發の列車で京都へ來り、苗井洋服店へ寄る。後、中部才41部隊に澄哉さんを訪ねる。  
中隊長代理が、畝中同級の藤本久治君なので、觀月橋附近の下宿まで行つたが留守。名刺をことづけて、山崎へ引かへす。 11.

## 9、月、晴

- 6.30. 9時山崎を辞す。大阪10.30發の急行に乗る。広島より伍賀君乗り込み、后11.20箱崎着。  
下宿へ歸れば、凡て、二ヶ月前と同じである。 1.

## 10、火、曇

8. 午前中荷物の片付けをする。石川君來り雑談。神宮皇学館予科の先生になるやう、運動せよとの話。  
三時すぎ松濤先生宅へ行く。  
繁子さんと宮下君とが夏休みの間に恋愛關係になつたとの話を聞く。夢のやうな気もするし、羨ましくも感ずる。が、凡ては神様のお計ひであると考へ着いた。二人が遇ひ、二人が結ばれるのも、神様の御命令だ。9.15辞す 10.30.

## 11、水、雨

7. 暴風雨襲來。しかし大した被害はない。  
午前松濤先生のお宅へ行く。後、研究室へ行く。夜、宮下君が來て、繁子さんとの關係について話した。宮下君は魂の混乱状態にある。大和へ便りする。  
“古事記”よむ。夕方より風おさまり、雨ふりつづける。 11.30.

## 12、木、曇

7. 午前松濤先生宅へ行き、宮下君の事についてお話する。  
“法文論叢”才29号配布。全部で87頁。論文は五つ。“徒然草の思想研究”は35頁を占めてゐる。研究室で永野氏に會ふ。中井副手にも會ふ。

夜、竹岡先生のお宅へ行く。後、高木先生のお宅へ行く。永野さんが来てゐられた。10時すぎ永野さんと共に辞す。 1.

### 13、金、快晴

7. 秋晴れの朝。風も止んで空は碧い。

午後、高木先生にお会ひして、就職の件をお願いする。

和辻哲郎氏、古賀氏に、“法文論叢”送る。

妹に“續生活の探求”“法文論叢”送り、便りする。

大学新聞入手。

積文館へ“理想”を注文する。“才一義の道”買って来てよむ。 11.30.

### 14、土、晴

7. 午前、奈彦に長先生をお訪ねする。30分許りお話しして、一諸に箱崎まで来た。午後、石川君の静思寮引越しの手伝ひをする。夜、石川、東君と、共に飲みにゆく。 12.

### 15、日、快晴

8. 午前、“古事記”讀了。松涛先生に招待されて、宮下君と共に中華園にて午餐を頂く。

夜“日本思想の史的展開”原稿(卒論)かき始める。しかし、容易に筆が進まない。和辻さんの“日本古代文化”をみると、その名文、思索の深さに圧倒されて、尚更ら筆が進まない。 12.30.

### 16、月、曇

6.30. 8～軍教、射撃あり。1～国学演習。

“徒然草の思想研究才一”製本出来る。

夜、松涛先生のお宅へ行く。9時辞す。

帰って、論文書く。“主客未分の段階—古代”完成。 11.30.

### 17、火、晴

9. 午後図書館にて、万葉集の勉強をする。夜も同様。

田中先生に便りをかく。“法文論叢”送る。 11.20.

### 18、水、曇

7. 一日中風つよし。午前、万葉集の勉強をする。

1～哲学史。午後、瀨利女史の紹介で女専生河野さん来りヤマタイ国の話をする。

石川君に五圓貸して上げる。

夜、“未客分裂(対立)の段階—奈良・平安時代”半ばまとめる。 12.30

### 19、木、晴

6. 国史、国文の文化的交流を目指す会について、笹月先生に指導して頂くやうお願いする。先生の御承諾を得る。

午後、河野博子さん来る。倭人伝の話や、学問する態度について話し合ふ。夜、論文の續きを書く。

11.

## 20、金、晴

7. 朝冷かになった。浴衣を單衣に着代へる。

午前、古本屋を廻る。“無門関解釈”を買ふ。

午後松濤先生のお宅へ行き、夕食を頂く。夜、石川君と話しをする。

一日勉強せず。頭が痛い。 11.30.

## 21、土、晴

8. 午後、研究室。午後図書館にて“かげらふの日記”をよむ。

3～文友会幹事会。高木先生、永野、中井、城島副手以下新旧幹事出席。長教授退職送別会及び事務引継をやる。又、国史国文合同の研究会も文友会の一事業として行はれることになる。

6.30より、文友会研究会のオ一回を、同じく三畏閣で開催。15名出席。石川君の“西鶴の才覚”の発表あり。都合により“日本思想の史的展開”の概略を発表す。論難、批判、及び賛成もあり。9.30散会。愉快的な会であつた。下宿へ帰りて後、石川君来る。 12.

## 22、日、曇

6.30. 勤労報国隊の圓堂、高松、筑紫の諸兄と共に、宝満山へ行く。しかし、道に迷ひ、山に登り得ず。

宰府に出で、二日市より電車で帰る。5時帰宅。 9.20

大学新聞入手。洋服(背広)入手。

## 23、月、曇

7. 秋季皇霊祭。国史科学生一同、志賀島へ行く。九時出発。伍賀、中林、杉本、宮下の諸君。阿部君は、野球の爲め、新香椎まで同車する。雑談、放談して、6時帰宅。

夜、論文續きをかく。相当、筆が伸びるやうになつた。 12.

## 24、火、曇

9. 午前、石川君と、明日の文友会集談会のポスターなどの準備する。

午後、笹月先生宅へゆく。後、田中先生宅へ行く。

夜、図書館。箱崎在郷軍人会に入会す。 10.30.

## 25、水、晴

8. 午前下宿で勉強。午後1～哲学史。後松濤先生宅へ行き夕食を頂く。6.30.文友会集談会三畏閣で開催。特に竹岡先生御出席。15名出席。永野副手の“徒然草のモラル”。10.10散会。後、新幹事と共にお話をする。帰宅して石川君来る。田中先生より来信あり。 1.

## 26、木、曇、雨

8. 午前論文。午後、辛島助手と共に、友楽館へ“浪速女”を觀にゆく。

夜論文。水虫はまだ治らない。 12.

## 27、金、曇

7. 昨夜、静思寮に盗人が入り、工科の学生の人の着物が失くなった。

午前図書館。“主客未分(対立)の段階—奈良、平安”完成。午後、大和、澄諄さん、太田さんに便りを書く。太田さんに“法文論叢”送る。兄に大学新聞送る。夜“佛教の日本的展開”を読み始める。 10.

## 28、土、曇

8. 水虫の診察のため大学病院へ行き、後、宰府に長沼先生をお訪ねする。お留守。午後、才二学生集会所の、政治懇談会をききに行く。夜松涛先生宅へ行く。 10.40

## 29、日、晴

7. 午前午後、松涛先生宅のお留守番をする。

“佛教の日本的展開”をよむ。史淵にのせる原稿(4枚)まとめる。水虫治療のため、超短波器を拝借して8時辞す。 11.

## 30、月、晴

6.30. 8～教練、講話。図書館。1～国学演習。夜図書館にて“佛教の日本的展開”よむ。大和より梨送り来る。太田さん、大和より来信あり。大和へ便りする。 10.

## 10月

### 1、火、雨、曇

7. 午後“佛教の日本的展開”讀了。

午後“対立超克の段階—鎌倉”書き始める。

夕方阿部光章君来り雑談。9時に帰る。後又書き續ける。

今夜から防空演習で、街は眞暗である。 12.

### 2、水、雨

8. 午前、論文執筆。1～才一演習室で“法文論叢”批判会あり。出席し、徒然草のことについて若干しやべる。夕方東君来り、又圓堂さん来らる。雑談。

夜、防空演習のため、しめ切った部屋にて論文かく。 1.

### 3、木、晴

10. 午前研究室。午後、辛島、目黒氏と街へ出る。帰途松涛先生宅へ寄り、夕食を頂き8時辞す。帰りて“対立超克の段階—鎌倉”完成する。

穎原退蔵氏の“江戸文芸論考”をよむ。澄諄さんより来信あり。 12.

### 4、金、快晴

7. 竹岡先生の“浮世の成立”(史淵)よむ。

抜書の整理をする。夜、圓堂助手の下宿へ行き雑談。  
大和より来信あり。大学新聞来る。大和へ便りする。  
朝晩涼しく、冷たさを感じずるやうになつた。  
秋である。 11.30

## 5、土、快晴

7. 松涛先生より又五円拝借。

午後、医科大講堂で、宝生重英氏の文化講義“能演出者の内面的解説”あり。夕方宮下、石川君来り雑談。  
大和より来信あり。防空演習は正午終了。 9.30

## 6、日、快晴

7. 9時より住吉神社境内の能楽堂にて、宝生流の能あり。

午前、九大宝生会主催で、竹岡教授の“能楽の成立とその環境”宝生重英氏の“能楽講義”。後、仕舞として“八島”“藤戸”、独吟“小督”あり。又、舞囃子“枕慈童”あり。午后同処にて福岡宝生会主催の下に“満仲”、仕舞として“経政”“鳥追”“嵐山”、狂言“布施無聖”、舞囃子“船弁慶”、最後に“葵上”あり。

夜桧垣さんのお宅へ行く。10時すぎ辞す。

大和より来信あり。 12.40

## 7、月、快晴

7. 8～教練、1～国学演習。

夜三畏閣で、文友会集談会才三回として城島助手の“謠曲の問題”あり。出席者八名であつたが、講論百出。  
9.40散会。帰りて、樟蔭への履歴書書くも、三回間違つて明日にする。 12.30

“法文論叢”原稿謝禮として、金二圓也の図書券もらふ。早速理想(死と生)岩波新書の“余の尊敬する人物”“禅と日本文化”“日本資本主義時代の指導者たち”をかふ。

## 8、火、曇

7. 午前、研究室。午後、昼寝。夜街へ出る。

履歴書を大和へ送る。

就職の志望。

1. 樟蔭女専
2. 福岡市内に就職(副業内職)を見附けて、研究室に残る。
3. 地方の中学へ行く。

以上の三つの、どれかに職を求めるつもりである。 12.

## 9、水、晴

7. 午前論文。1～哲学史。4時頃松涛先生宅へ行く。夕食を頂いて雑談。10.40辞す。帰りて論文かく。  
大和より書留来る。菅瀬氏に便りする。 1.

#### 10、木、快晴

9. 朝晩冷たくなつた。午前、午後、夜、論文。順調に進捗しつつある。七分通り完成した。松濤先生から借りた十圓お返へしする。

#### 11、金、快晴

8. 午前研究室。午後、古本屋を廻り、又ネクタイを買ふ。  
夕方、圓堂助手と又街へ行き、本屋を見る。帰りに、圓堂氏の下宿で雑談。12.30辞す。 1.20

#### 12、土、快晴

8. 辛島助手と共に、宰府、観世音寺へ行く。背廣を着て行く。11時に家を出て、6.30に帰る。夜、圓堂助手と街へ出る。11.30帰る。  
大和より速達来る。研究室に残るように、とあり。 12.20.

#### 13、日、曇、小雨

9. 午前、午後、夜、論文をかく。“主客合一の段階一室町・徳川時代”完成。大和へ便りする。卒業後、研究室に残ることに決心する。 12.

#### 14、月、曇

9. 教練休む。“主客対立の段階一明治・大正・昭和”書き始める。1～国学演習。午後松濤先生宅へ行き、夕食を頂く。9.40.辞す。菅瀬氏より来信あり。大学新聞入手。 11.20

#### 15、火、晴

9. 午前、洗濯などする。午後菅瀬氏に手紙をかく。3時に、文友会の幹事と共に、松濤先生のお宅へ行き、又、高木先生のお部屋に行く。文友会長は高木学部長が引受けられた。後、松濤先生のお宅へ行き夕食を頂いて七時辞す。  
夜“主客対立の段階一明治、大正、昭和”完成。これで、“日本精神史の構造” ついに書き上げた。9.15に書き始めてから、丁度一ヶ月目である。疲れた。  
菅瀬氏より印哲のノオト送り来る。それを伍賀君に貸与す。大和へ便りする 1.

#### 16、水、晴

8. 西洋研究室で、辛島、石井、阿部(美学)、本彗の諸氏と雑談。午後、辛島、阿部氏と街へ出る。7時前に帰る。夜、“日本精神史の構造”読み返す。我乍ら感心し、満足す。力作である。鎌倉時代まで読む。12.20.

#### 17、木、快晴

8.30 午前、午後“日本精神史の構造”読む。読んでみると肩が凝ってくる。しかし、会心の力作である。夕方阿部光章君の下宿へ行き、楽譜をかりてくる。  
夜松濤先生宅へ行き、9.15辞す。菅瀬氏に便りする。 10.  
大和より来信あり。

## 18、金、快晴

9. 10時より工科グラウンドにて靖国神社臨時大祭の遙拝式あり。了つて三畏閣で、野見山先生歓迎会あり。

蒙疆学院入学者試験官として、内地へ来られたのである。5時散会。

夜、松濤先生宅で夕食頂く。8時辞す。“徒然草”よむ。

大和より来信あり。大和へ便りする。 8.20

## 19、土、曇、雨

- 5.30. 6.46の汽車で松濤先生、奥さんは東上された。

維三子さんと共に<sup>ママ</sup>菅崎駅で見送る。

今日からお留守番。

10～才二学生集会所で、平安神宮へ孝明天皇御合祈<sup>ママ</sup>の式の遙拝あり。

午後、夜“徒然草”よむ。“無常観の論理”以下の“徒然草の思想研究才一”根本的に修正せねばならない。

大和より速達、ハガキ来る。明後日帰郷の予定。 8.30

## 20、日、雨

7. 午前、“徒然草”の研究をする。1.30黒門に集合、高木先生、城島氏、永野氏と共に油山へ行く。小野島先生の案内にて、文友会会場をみる。6時帰る。

夜、阿部(美)兄来り、10.30まで談ず。 11.10.

## 21、月、晴

6. 10.22博彦発、夜12.50頃帰宅。山崎の兄さんが来てみられた。 2.

## 22、火、晴

9. ひる前、山崎の兄さんは帰られた。

履歴書書く。 9.

## 23、水、晴

9. 午後、初瀬に田中先生をお訪ねする。留守。5時まで待つて、空しく帰る。 10.

## 24、木、雨

9. 午後、冬服(背広)、合オーバーの寸法をとつてもらふ。

“日本精神史の構造”<sup>ママ</sup>の目を通す。

松濤先生に便りする。

## 25、金、晴

8. 論文に目を通す。

維三子さん、阿部健二郎兄に便りする。 10.

## 26、土、快晴

8. 午後、洋服、コート<sup>ママ</sup>の仮縫出来る。 10.

## 27、日、快晴

8. 午後一時家を出る。京都へ行き、佛專へよる。吉田勝信さんに会ふ。後、千賀、稲垣先生宅を訪れるも、いづれもお留守。

丸物にて原稿用紙を求め、6時発の汽車に乗る。

## 28、月、快晴

例の通り、睡れず。10.30博多着。研究室にて文友会の幹事諸君と話しをする。夜阿部健兄来る。 9.30

## 29、火、小雨、曇

7. 午後、徒然草<sup>ママ</sup>の研究。午後、午睡。

夜、徒然草。

“女性観の性格”を、根本的に書直すことは不可能である。一部の修正に止めて満足せねばならぬ。 10.

## 30、水、快晴

7.10. 午前散髪。午後、阿部健兄と共に友楽館へ行き“浅草の灯”を観る。

夜、“女性観の性格”(改題“愛”)の修正完成。 10.

## 31、木、快晴

7. 午前“無常観の論理”修正。午後街へ出て、兄への慰問の品をかふ。“六国史”“日本文化史大系”の予約、金文堂を断つて、積文館<sup>ママ</sup>にたのむ。金文堂は、六国史の配本(六月、七月の分)未だにもつて来ない。

夜“死”(“無常観の論理”改題)修正完了。

書き直すこと、及び、書き足すことは殆んど不可能であるが、しかし、全然新しい考へを展開することは、一考へさへ見つければ一案外容易である。筆の相当のびる自信を得た。

しかし、書かれた部分は、既に書かれた部分と、区別されやすい様である。以前書いたやうな筆力、内容とは、今は全然違ふ。考へが進んだからであらうか。

兄、菅瀬氏より来信あり。

兄に大学新聞おくる。松涛先生に、超短波のプラグを送る。 11.10

## 11月

### 1、金、快晴

7.10 午前、兄に手紙を書き、且つ、それを入れて慰問品を送る。

午後1時より才二学生集会所にて、倉野憲司氏(図書館修官)を囲んで、質問、座談の会あり。小島、笹月両先生始め、城島、永野、中井、瀬利、渡辺の諸氏出席。後に竹岡先生も来らる。面白かつた。“古事記”“謡曲”の話も談義された。

夜、“道”(徒然草の感覚三)書き始める。

先日、丸物で買った原稿用紙はインキが滲んで駄目である。 11.30

## 2、土、快晴

7.30 午前“道”完成。

午後、文房堂で原稿用紙をかつて来て、清書を始める。

夜、圓堂氏の下宿へ行く。8時帰宅。

論文は、“兼好法師小伝”“序”“立場と方法”“あとがき”を書けば、全部完成する訳である。 10.

## 3、日、快晴

6.40. 明治節。十時から祝賀式あり。

午後、夜、清書。 10.45.

## 4、月、快晴

7. 8.30～軍講。

午後、辛島、目黒兩氏と共に壽座へ行つて“大日向村”“オクラホマキツト”を観る。

卒論の題目決定について竹岡先生に相談したところ、題目は“徒然草の思想研究”とすること、又、才一部の“徒然草の感覺”は、“徒然草の思想”と改めるやうにとのお話であつた。

夜、清書。牛の歩みの如し。

ここ数日来、夏を想はせる暑さである。 11.30.

## 5、火、快晴

7. 午前、午後、夜、清書。手もいたくなつて来た。

今日、文房堂で原稿用紙を購つたが、買溜全部で600枚。これで、卒論の用紙の心配不要。松涛先生より来信あり。 10.30.

## 6、水、快晴

8. 10.30～長沼先生国史特講。

午後“愛”清書完成。(400字詰27枚)

夜、阿部光章君と街へ出て呑む。

大和より来信あり。兄は、小隊長をやめて、大隊副官になつた由。 10.30.

## 7、木、晴

5.30 午前、“死”清書始める。午まへ阿部光兄来る。正午すぎ、文友会の幹事会あり。後、帰りて睡る。

夜、“能漫筆”書く。清書をつづける。 11.30.

## 8、金、晴

7.30. 午前、“能を観る”清書する。

午後、文友会総会の案内状作成の手伝ひをする。

夜、論文清書。大学新聞入手。大和へ便りする。

急に寒くなつた。合着をきる。 11.30.

## 9、土、晴

### 8. 10.30～支哲演習（老荘）

午後、九大新聞投稿の“学都建設委員会の設置”をかく。

夜、阿部光章君の下宿へ行く。松本氏と共に談ず。 10.30.  
愈々冬になつて来た。

## 10、日、晴

### 8. 午前、午後、清書。

今日は紀元二千六百年祝典奉祝日。

夜、小島、常福氏卒業送別会、食堂にて開催。長沼、竹岡兩先生始め、桧垣、磯貝、榊原、原田、中井、阿部光、杉本、伍賀、中林、宮下の各氏出席。7.40散会。後、在学生のみでのむ。歩いて帰る。 12.

## 11、月、曇

### 9. 二千六百年奉祝日 大学休み。

これが、事変中でないならば、日本も上を下へのお祭り騒ぎであらう。二千六百年目の祝ふべき日ではあるが、何と活気のないことよ。

一日中清書。太陽燈の送金をする。 12.

## 12、火、曇

### 8. 午前、荘子の予習。正午文友会幹事会。

午後笹月先生とお話する。

夜、新松月にて、野見山先生送別会。報国隊員全部出席。9時散会。集談会の“神道について”（東君）は欠席。  
10.

## 13、水、曇

### 9. 10.30～支哲演習。

午後一時より、小島、常福兩氏の論文発表あり。

竹岡、鏡山兩先生、中井、永野氏始め、全学生出席。竹岡先生の批評が済んで後、学問的方法論に関して、論じ合ふ。大いに奮闘する。5時散会。7時より三畏閣で静坐会。9時帰る。 11.

## 14、木、晴

7.30. 9.30博多着の列車で、松濤先生、奥さんが帰つて来られた。駅まで迎へに行く。

午後、2.17博多発の列車で、常福氏が、故郷徳島へ帰られるのを見送る。帰りて、松濤先生宅へ行き、夕食を頂く。おみやげとして、ネクタイ、昆布茶を頂く。9時辞す。後、習田氏の下宿へ行き雑談。11.15辞す。荘子の参考書をかりる。大和より来信あり。大和へ便りする。 12.

## 15、金、晴

### 8. 曉方、寒冷のために眼を覚ます。

午前、“荘子”の予習。午後、文友会幹事会。

帰りて風呂。5.30～6.30独語初歩。

夜、論文清書。 9.

## 16、土、曇

8. 10.30～支哲演習、当番。午後、石川君の下宿で永野、富士本氏と話す。後松涛先生宅へ行き夕食を頂き、9.30辞す。清書する。 11.

## 17、日、晴

7. 油山遊園地に於て、長先生送別、日野、鏡山兩先生除隊歓迎の文友会総会開催。9時黒門出発。来会者53名。すきやきをして、2.30散会。

夕方松本氏の下宿へ行つて雑談。帰りて清書。 11.

## 18、月、晴

7. 8.30～教練。10.30～梅思平氏の中国行政制度の臨時講義をきく。1.30～演習。つまらぬ感情をすてねばならぬ。

帰りて清書。

8.30 博多発の列車で圓堂助手は富山の聯隊に入營の為め出発。見送多数あり。 11.30

## 19、火、曇

7.30. 8.30～梅思平氏の講義。後、辛島、目黒氏と共に、壽座で“孫吳空”を観る。夜、阿部健兄と雑談。“死”清書完成。39枚。 2.

## 20、水、曇

9.30. 10.30～支哲、1.30～ギリシヤ哲学史。帰つて寐る。

夜阿部光君と竹岡先生宅へ行く。30分間許りで辞す。帰途一パイやる。帰つて、“道”清書。 12.

## 21、木、晴

7.20. 今日は暖かであつた。午前、清書。1.30～梅思平氏の臨講。帰りて、大和、菅瀬氏に便りかく。兄へ大学新聞送る。

夜、三畏閣で、目加田先生の“文選”の文化講義をきく。大和より書留来る。 12.

## 22、金、快晴

7.20. 8.30～梅講師。10.30～臘山講師“国際政治学”

午後、清書。遅々として進まず。

5.30～ドイツ語。6.30～文化講義(文選)

後、松本君と共に、香川君の下宿で雑談。 11.20.

## 23、土、曇

8. 午前、午後、清書。“道”清書完成。15枚。

夜、昭和会館で史学会の晩餐会あり。“憂世から浮世へ”を発表する。 12.

#### 24、日、雨、曇

7. 高良山へ行く筈であつたが、雨のためよした。

夜、“文化講義”終講。

光線治療器送り来る。常福氏より来信あり。 11.

#### 25、月、晴

7.30. 8.30～教練。帰りてギタをひく。

午後“日本精神史観”の清書を始める。

午後4時、松濤先生宅へゆく。夕食を頂き、9.50辞す。 11.

#### 26、火、晴

8.30. 松濤先生より十圓かりる。

午前、午後、夜清書。法金剛院へ観音像の寫眞送附を依頼する。 9.10.

#### 27、水、快晴

7. 初霜。教練査閲。午前、原田方面で戦闘教練。

午後、永野氏と二科展をみる。夜松濤先生宅へゆく。 10.

#### 28、木、快晴

7.30. 9～10.20工科講堂にて戦史、講話の査閲。1時より、分列、閲兵。査閲終了。

帰りて、部屋の掃除。夜、阿部光君の下宿へゆく。兄より速達来る。11.1.附の慰問品、11.20着。その日の手紙28日着。

大和へ便りをかかす。 11.30.

#### 29、金、曇後雨

8. 午前、午後、清書。しかし一日にやつと七枚しか書けない。

夜、阿部健兄の下宿へ行つて雑談。後松濤先生宅へゆく。10.20辞す。大和より柿送り来る。

大和へ便りする。兄へ大学新聞を送る。大学新聞入手。 11.

#### 30、土、曇

7.30. 霰がふり、終日、硝子戸がガタガタいつてゐる。

終日清書。

足袋をはき、火鉢に火を入れる。 11.

#### 12月

##### 1、日、晴

9. 清書。食堂藤之家休みにつき、晝は松濤先生宅にて頂く。午後阿部光君来る。

夕食も頂きにゆく。9時辞す。

先生より、茶瓶、茶碗を借りる。七枚清書。 11.

## 2、月、曇

8. 8.30～軍事講話。後、永野副手と雑談。

午後、夜清書。

法金剛院より寫眞送附。大和より来信あり。大学新聞入手。 11.

## 3、火、晴

9. 午前清書。午後、洗濯、散髪。

夜松涛先生宅へゆく。合オーバ送り来る。 12.40.

## 4、水、晴

9. 辛島氏、目黒氏、本多君と共に、立石にて晝食をする。

3.30より工科大講堂にて野上豊一郎氏の“能とギリシヤ劇”の話あり。後トーキー“葵上”映寫。

終つて、松涛先生宅へ寄り、森岡さんと共に夕食を頂く。十時に辞す。後、清書。大和から学費送附。大和へ便りする。

洋服屋よりも来信あり。 1.20

## 5、木、快晴

9. 午前清書。午後研究室。圖書館で河野さんに会ひ、一諸に下宿へ来て話す。夜清書。 11.

## 6、金、晴

8. 午前、清書。後研究室。午後、清書。夜阿部健兄来る。帰つて後清書。

大学新聞入手。洋服屋より来信あり。 11.30.

## 7、土、晴

8. 暖い日である。午前清書。正午登学。学生課から呼出しあり。教務掛りの小林さんより、中山報恩会へ、研究費給与の願書を出すやうにと云はれる。これは永野さんから小林さんに、話して頂いたことであつた。岡部学生課長にも会ふ。帰つて、早速履歴書をかき、又、願書の署名を求めため、速達で大和へ出す。

夜、宮下君の下宿で雑談。帰りて、末法思想について加筆する。 11.

## 8、日、晴

9. 風寒し。午前清書。後、萬町の平野へ寫眞をうつしにゆく。帰りて清書。四時松涛先生宅へゆく。

夕食頂く。後、宮下君と再び先生宅へゆき、8.40辞す。中山報恩会への書類をかく。 11.

## 9、月、快晴

8. 8.30～軍講。学生課の小林さんに、中山報恩会の書類を提出する。高木学部長に、この事をお話する。

午後、清書。夜阿部健兄の下宿へゆく。後街へ出る。 10.30.

#### 10、火、晴

9. 午前清書。午後清書。夜松涛先生宅へゆく。10時辞す。  
大和より速達にて願書返送し来る。国武氏より来信あり。  
兄に大学新聞送る。国武氏、大和へ便りす。 11.30

#### 11、水、曇

8. 午前、清書。後学生課へ行き、中山報恩会への願書を出す。  
午後、論文改正する。夜、阿部光君帰郷する。海門戸まで見送る。  
今日“教養文庫”より、家永三郎氏の“日本思想史における否定の論理の発展”なる書を買ふ。自分の日本精神史観と、合致する所多し。

#### 12、木、晴

9. 午前、研究室にて、日蓮上人の著作をさがす。午後街へ行く。夜清書。 11.

#### 13、金、晴

8. 寒くなつた。午前清書。午後、寫眞をとりに行つて、それを学生課に出す。(中山報恩会の件)  
夜、三畏閣で国史学会開催。“東京帝室博物館の正倉院御物を観て”と題して、竹岡先生、西岡、磯貝、  
桧垣の諸氏の発表あり。10時散会。後、皆とお茶をのんで帰る。 11.20

#### 14、土、晴

8. 暖い。一日中清書。“日本精神史観”の清書。半分出来た。 12.40.

#### 15、日、快晴

9. 午前、午後、清書。“日本精神史観”原稿用紙92枚書く。あと半分以下。夕方松涛先生宅へ行き夕食  
を頂く。10.20辞す。  
兄、大和へ便りする。 11.

#### 16、月、曇

9. 暖かなり。辛島、目黒氏と共に壽座へ行き“閣下”“親爺”を観る。古本屋を見廻りて帰る。 11.30.

#### 17、火、曇

8. 一日中清書。霰ふり、寒くなつた。 11.

#### 18、水、曇

9. 一日中清書。あと五十枚程にて完成の予定。  
菅瀬さんより来信あり。 12.

## 19、木、曇

9. 午前、午後、清書。後、辛島と町へ行く。  
大和より来信あり。 11.

## 20、金、晴

8. 午前、清書。119枚清書(史観の分)。午後、研究室。3.30～才六演習室にて才五回集談会開催。村上副手の“戦争の倫理”(創造と守成)。出席者多数。盛会。夜、松涛先生宅へゆく。10時辞す。 12.

## 21、土、快晴

8. 美しい霜の置いた朝。金盥の水が氷つてゐる。  
午前清書。  
菅瀬氏より、シガレット・ケース、帝室博物館の絵ハガキ送り来る。  
大和より衣類送附。阿部兄より来信あり。  
午前、菅瀬氏、大和へ便りする。夕方松涛先生宅へゆき夕食を頂く。9.30辞す。 12.

## 22、日、晴、後雨

8. 午前清書。午後、清書。5.23分箱崎発の列車で松涛先生と奥さん東上。維三子さんとお見送りする。  
夜清書。今日から当分お留守番。“あとがき”書始める。  
阿部君に便りする。今日は、四月の如き暖い日であつた。 11.

## 23、月、雨

8. 午前、清書。午後、辛島氏と共に、友楽館に行つて“暖流”をみる。夜“あとがき”完成。  
脊広、来る。寫真(論文用)出来る。 12.

## 24、火、曇

- 7.30. 一日中清書。  
“主客合一の段階—室町・江戸時代”の清書完成。55枚。 11.20.

## 25、水、曇

9. 又、寒くなつた。一日中清書。  
“主客未分の段階—古代”の清書完成。16枚。

## 26、木、曇

8. 午前、午後、夜、清書。  
“主客対立の段階—奈良・平安朝時代”の清書完成。35枚。  
夜、阿部健兄来り話す。  
松涛先生に便りする。  
兄に、マスコツト、大学新聞おくる。  
大和より来信あり。(19日出) 11.

## 27、金、曇

10. 辛島、目黒両氏と、才一映画へ行つて、“駅馬車”“牧童と貴婦人”を観る。帰りて清書。  
“対立超克の段階—鎌倉時代”の清書完成。41枚。  
大学新聞入手。大和へ便りする。 12.

## 28、土、曇

8. 辛島氏来り、ここで晝食を共にし、脊広を着て街へ出る。目黒氏と一諸になる。井上忠氏と会ひ、話しをする。5時に帰る。  
夜清書。  
大和へ便りする。お父さんの御病気が心配だ。 1.

## 29、日、晴

8. 久しぶりの晴天。背広姿で寫眞をうつす。  
“主客対立の段階—明治・大正・昭和”清書完成。23枚。  
これで、「日本精神史観」の清書すべて完成 170枚  
「徒然草の思想」 81枚  
‘あとがき’の清書続行 251枚  
最後の読み返しを始める。註を入れる準備をする。  
松濤先生の奥さんより、中折帽の寸法を通知するやうにとの御便りあり。夜デパートへ行つてみる。  
7時である。 11.30.  
阿部光君より来信あり。

## 30、月、晴

9. 午前、午後、“あとがき”清書。  
大和より学費送附。お父さんの胃病は漸次よいとのこと。  
兄の処へ、貝柱の粕漬を送るやうにとのことで、夜、デパートへ買ひに行く。  
大和、松濤先生にお便りする。 12.20.

## 31、火、快晴

8. “あとがき”完成 23枚。  
これで本文の清書はすべて完成。274枚。  
午後、夜、よみ返す。佐藤部隊は目下戦闘中である。 1.

## 2601年 昭和16年

### 1月

#### 1、水、晴

7. 午前宮崎宮へ参詣する。  
午後、竹岡先生、永野氏のお宅へ年頭の挨拶に行き、行、一行寺へ寄る。方丈さんは心臓病にて病臥

中。夕食を頂き後、トランプをする。9時辞す。帰りて、註を書く。  
妹より速達来る。お父さんの御病氣よいとのこと。  
暖いお正月であつた。 1.20.

## 2、木、雨

8.30 午前清書。午後、辛島氏来り、大博劇場へ行つて歌舞伎をみる。 10.40.

## 3、金、晴

8.30. 暖い。終日、註をかく。未完。暇のかゝるものである。 11.30

## 4、土、晴

9. 終日、註を書く。完成。すべて完成。

11月2日に書始めてよりまさに二ヶ月余。

疲れた。明日、頁を書入れ、製本屋に廻すことにする。菅瀬氏より来信あり。 1.15

## 5、日、快晴

10. 論文一讀し、午後、製本屋、田吾作堂へもつて行く。

後、街へ出る。お茶をのんで帰る。

夜、夕食後、雑談。大和へ便りする。 11.

## 6、月、晴、曇

9. 貝柱粕漬、兄に送る。後、辛島、目黒氏と街へ出て晝食。別れて竹岡先生宅へゆく。法科の武藤先生  
来られ、一諸にお酒を頂く。5時すぎ辞す。雨になる。 11.

## 7、火、曇

9. 午後、阿部光兄帰学、来る。

夜阿部兄の下宿へ行き雑談。松濤先生より来信。 10.

## 8、水、曇

7. 午後、研究室に石井助手を訪ね、話をする。

夜“歴史的現実”讀了。

“日本思想史における否定の論理の発達”よみ始める。 11.30.

## 9、木、曇、小雨

7. 連日暖かなり。午前、研究室。

午後、壽座へ行き“ノートルダムのせむし男”をみる。エスメラルダの至情には、襟を正さしめられた。

夜、讀書。大和より、2月20日に帰郷を延ばせとの来信あり。返事する。 11.40.

## 10、金、晴

7. 卒論製本出来。286枚の大論文である。

0.35分、松涛先生、奥さま、帰らる。箱崎駅へお迎へにゆく。中折帽をお土産に下さる。又、恒河の砂、ネームも頂く。背広、中折姿で、寫眞をとつてもらふ。

夕食を頂き、9.15辞す。 10.

## 11、土、曇

7. 午前、寫眞をうつす。午後、古本屋を廻る。

夜阿部光君来る。小林部隊長に貝柱粕漬を送る。 12.30

## 12、日、曇

8. 霰ふる。午前“否定の論理の発達”讀了。

午後、松涛先生宅へゆく。夕食頂く。

背広服姿の寫眞立派にとれてゐる。

大和へ寫眞送る。兄へ大学新聞送る。 12.

## 13、月、晴

7.30 8.30～軍講、1.30～国学演習。卒業論文提出する。

夜、国史科の連中が、論文完成の内祝ひをしてくれる。大いにのむ。 11.

## 14、火、快晴

9. 午前“東洋的無”よむ。

3.30より工科大講堂にて、白鳥捷夫氏の“今後の内外情勢”について講演をきく。後、松涛先生宅にて夕食を頂き、9時辞す。 11.

## 15、水、晴、雨

7.30 午前、“尊王思想とその伝統”よむ。1.30～哲学史。

夕方筑紫兄来る。夜阿部健兄の下宿へ行く。

大和へ便りする。

## 16、木、晴

8.30. 午前、午後、讀書。松涛先生宅にて夕食を頂く。9.30辞す。 10.

## 17、金、快晴

8.30 10.30～大類伸講師西洋時<sup>マ</sup>臨時講義

1.30～石橋智信講師宗教学臨講、3.30～西洋史臨講。

夜“尊王思想とその伝統”讀了。“国学に於ける倫理思想”讀了。

昨年<sup>マ</sup>の12.31出の来信兄より来る。 12.

## 18、土、快晴

8.30. 暖い日。午前“学生と歴史”よむ。

1.30～西洋史臨講。3.30～より、才六演習室にて、集談会開催。香川見悟君の“浄土真宗について”  
夜、阿部健兄来る。 12.

## 19、日、雨

9. 午前“秘本玉くしげ”讀了。午後阿部光兄来る。

4.30に中華園にて、松涛先生に御馳走になる。

歸りて、松涛先生宅へ寄り、10時辞す。 11.

## 20、月、曇

8. 8.30～軍講。後図書館。

1.30～国学演習。論議百出し、面白かつた。

阿部光君は、除々に、自分と同じ立場になつてくる。

昨夜10時、一行寺住職裏辻倫道氏がなくなられた。今日、花田君から聞いたので、授業が終つてから  
おくやみにゆく。

夜松涛先生宅へゆく。10時辞す。 11.20

今日から大寒。寒風ふき、さむくなつて来た。

## 21、火、晴

9. 午前、研究室。午後阿部光来る。夕食松涛先生宅にて頂き、10時に辞す。

大和より、奈良漬送り来る。

大和、兄上へ便りする。 12.30

## 22、水、雨

8.30 10.30～支那哲演習(莊子) 1.30～哲学史

図書館。

6.30より福新樓にて報国隊員の送別会あり。稲田、高松、筑紫君出席。愉快であつた。

歸りて、羽仁五郎氏の“幕末における倫理思想”讀了。 11.30.

## 23、木、曇

7.30 暖い。海岸を散歩する。

後研究室へ行き、東君と話しをする。

晝食時に、波多野副手の帰還歓迎、及び中井副手の送別(社会学研究室移転)会開催。全教官、全学生出席。  
後、竹岡先生より海南中学へ奉職せんかとの話あり。しかし、研究室に残る意志を伝えて、それを辞す。後、  
阿部光兄の下宿にて、夕方まで雑談。夜、松涛先生宅へゆく。10.10辞す。

中山報恩会より、給費生選衡四月なる旨の来信あり。榊正彦兄より来信あり。 11.30.

## 24、金、曇

8. 午前、洗濯。阿部光君と壽座へ。“珊瑚礁”“兄の花嫁”をみる。  
5.30～ドイツ語初歩。夜阿部健兄の下宿へゆく。大和より来信あり。 11.

## 25、土、曇

9. 雪ちらつく、寒し。10.30～支哲演習、1.30～西洋史臨講。  
後、伍賀、中林君来り雑談、夜、習田氏の下宿へゆく。 11.

## 26、日、曇

- 8.30 雪、少しつもる、がとけた。  
午前独語。午後履歴書かく。  
夕方松涛先生宅へゆき夕食頂き10時辞す。阿部光君の下宿へゆき12時半辞す。 1.

## 27、月、曇

- 8.00 8.30～軍講。後、阿部健兄来り雑談。  
1.30～国学演習。大いに談ず。愉快なり。  
5.30～独語。  
夜大和、榊兄へ便りする。  
“獻身の道德とその伝統”読み始める。 11.30

## 28、火、晴、曇

- 8.30 午前阿部光兄の下宿へゆく。午后、才一映画劇場にて“春の調べ”“巴里祭”を観る。  
夜“獻身の道德とその伝統”讀了。 11.30

## 29、水、晴、曇

- 8.30 午後大名町の地方裁判所見学をする。  
夜松涛先生宅へゆく。  
“新生と浄福”(三谷隆正氏)讀了。 12.30

## 30、木、曇、雪

9. 終日風つよく、小雪散らつく。午前独語。笹月先生のお部屋で、国学の話を承る。  
日独文化協会の懸賞論文に応募せんが為めに、研究室より図書借り出す。  
午後、散髪。矢野の娘に暖い気持を懐いた。  
夜“ニーチェ研究”よみ始める。兄に大学新聞送る。 12.

## 31、金、雪

10. 強い風と共に、吹雪は荒れ廻つてゐる。濡り気の少い雪なので、すぐ風に吹き散らされるが、しかしそれでも、相当つもつた。  
午前独語。午後、夜、“ニーチェ研究”

夜阿部健兄の下宿へゆく。大学新聞入手。田中先生へ便りする。 1.

## 2月

### 1、土、雪

10. 雪ふり寒し。午後、阿部光兄の下宿へゆく。

夜松濤先生宅へ行き、11.20辞す。

“ニーチェ研究”よむ。

卒業論文完成の疲労が、やうやく現れたものか、最近何をやつてもすぐ倦きる。注意力は散りやすく、落つかない。

日独文化協会へ便りする。兄へ大学新聞送る。 1.

### 2、日、雪、曇

8.30 風静かになつたが、雪ちらつく。

午前“ニーチェ研究”

午後、佐藤先生宅へ、ドイツ語の御本をお返しに行く。

夕食、松濤先生宅で頂く。後竹岡先生宅へ行く。

国史科の卒業生で、福岡在住の有志のみ、毎月才一日曜の夜先生宅へ集り、研究発表などすることとなつた。

来会者、桧垣、榊原、西尾、武藤、磯貝、原田、の諸氏。

今日は雑談。11時辞す。原田さんを、原田までお送りする。 1.30

### 3、月、曇

10. 教練欠席。午前読書。1.30～演習。

後阿部光兄下宿へ来る。 11.40.

夜、読書。

### 4、火、晴

9. 午前洗濯。学校で江口さんに会ふ。波多野副手、辛島氏の四人で街へ出て昼食。後別れて、辛島氏と共に映画をみる。

“みかへりの塔”“ダーク・コンゴ”(友楽館)。夜、松濤先生宅へゆき、後阿部健兄の下宿へゆく。 12.

### 5、水、曇後晴

8.30 午前、清書。夕食松濤先生宅にて頂く。10.30辞す。 11.

暖かなり。

### 6、木、快晴

8. 春の暖かさ。松濤先生、奥さんと共に壽座へ行つて“春の祭典”“暁の進撃”をみる。

夕食を頂いて10.10辞す。

大和より学費来る。大和へ便りする。榊君より来信あり。 11.40.

## 7、金、晴

9. 阿部光君と古本屋を廻る。“万葉全集”その他を買ふ。  
夕食を松濤先生宅にて頂いて10時辞す。  
1.31出の速達兄より来る。 11.

## 8、土、快晴

9. 午前読書。午後、福日講堂における法隆寺壁画の展覧を見、矢崎教授の講演を聴く。(九州国際文化協会)  
女専の河野さんに会ふ。  
夜読書。 11.

## 9、日、曇、雨

9. 午前読書。午後石川君来る。夜、藤本、石川君、文友会送別会の件について談ずべく来る。 11.30.

## 10、月、曇

- 7.30 9～軍講。これで今年度の軍事教練は終了。  
1.30～国学。3.30～才2演習室にて、国文科の卒業論文発表会あり。麻生君、瀬利女史の二卒業生交々発表する。  
夜阿部健兄の下宿へゆく。日独文化協会より返信あり。 1.

## 11、火、晴、雨

8. 紀元節。午後、太宰府光明寺にて文化講義。高木教授の“万葉人と太宰府生活”。聴講者百名を超す  
盛況であった。  
梅は三分ほどほころびてゐた。飛梅は満開。  
岩波の哲学小辞典を買ふ。夜から雨になった。 11.30

## 12、水、雨

9. 午前、学校。午後、竹岡先生国学演習のレポートを書く。  
夕食松濤先生宅にて頂く。帰つて又レポートかく。大部分完成。  
大和へ便りする。  
風邪を引いたらしい。 12.30

## 13、木、曇、晴

- 8.30. 午前、午後、ねる。風邪は大したことはない。  
夜、山崎、菅瀬氏に便りする。  
田中先生より来信あり。 10.

## 14、金、曇

9. 午前、午後、レポート清書。  
夕食、松濤先生宅にて頂く。10時辞す。帰りて清書す。 1.

## 15、土、曇、晴

6.40 レポートの清書完成“道・神・国家”(15枚)。学校で、之を笹月先生に渡して、見て頂くことにする。先生に手渡した。

午後、夜、読書。

午後、辛島氏、石川君来談。夜阿部光君の下宿へゆく。

大学新聞入手。 10.30

## 16、日、晴曇

8.30 “ニーチェ研究”読了。

“独逸史総説”よみ始める。

頭いたし。 9.

## 17、月、小雨

8.30 午前図書館。“国学の誕生”読了。

1.30～国学演習。

後竹岡先生のお部屋へゆく。

先生はやつと、論文一ト通り目を通したと云はれた。

苦しんで書いてゐるのが分ると云はれた。

又、人生の生甲斐を感じて書いてゐるのが分るとも云はれた。

あれ丈書き上げるのは大変だつたでせうとも云はれた。

しかし、なかなかむつかしいとも仰言つた。

田中先生の影響の強い点は、むつかしい表現になつてゐるのであらう。

二三質問せられた。例の如く、激論したが、ついに、自分の誤り一考への足りないことに氣附いて、その説を撤回した。

先生は、私の論文を、主観的だとか、観念的だとか云はれなかつた。

先生は私の論文を、理解してゐて下さつてゐるやうに思はれる。殊に、才一部の「死」の一章は、最もよいと云はれた。

大和から来信あり。

大和、榊君へ、便りする。兄へ大学新聞送る。 1.

## 18、火、晴、曇

8.30. 暖い。10.30～高木教授の古今集演習に出席。例の通り大いに議論する。

夜、文友会送別会、三畏閣にて開催。豚汁をたべる。来会者43名。盛会であつた。

本年の文科卒業見込者 下記の六名。

麻生(国文) 就職豫定

辻村(哲学) 法科在学継続〃

阿部(美学) 就職〃

長末(東洋史) 副手志望

瀬利(国文) 〃 …

田村(国史) // …

松涛先生の法文学部創立当初の懐古談、竹岡先生の大学卒業当時の懐旧談などあり。9時散会。  
後、石川、藤本君とお茶をのむ。 11.30

#### 19、水、雨

9. 午前讀書。午後、松涛先生宅へゆく。夕食頂く。  
8.10辞す。帰りにて“独逸史総説”讀了。 12.

#### 20、木、晴

8.30 暖い。午前研究室。  
午後“民族性と世界観”よみ始める。(松涛先生に拝借した本)  
夜桧垣さんのお宅へゆき雑談。10時辞す。  
大学新聞入手。大学新聞兄におくる。 11.30

#### 21、金、晴

7.30 午前阿部光君の下宿へ行つて雑談。午後二人で古本屋を廻る。“神曲”を買ふ。  
夕食松涛先生宅で頂き10時辞す。  
大和へ便りする。大学新聞社へ。半ヶ年分の紙代送る。 12.

#### 22、土、晴

7.30. 午前研究室。午後図書館で“本居宣長における死の問題”の原稿をかき上げる。月曜日の国学演習  
の当番になつてゐるので、その発表のため、又、レポートの追加として、書いたものである。  
“民族性と世界観”讀了。菅瀬氏より来信あり。 10.30.

#### 23、日、曇

9. 午前、午後、原稿清書。  
夜、松涛先生宅へゆく。11時辞す。  
家より、お餅と昆布送り来る。 12.30.

#### 24、月、曇

9. 寒くなつた。1.30～国学演習。当番になつてゐたので、発表した。国学における死の問題と、宣長に  
おける尊王と倒幕の問題についてである。伍賀君と議論した。が、自分の主張は認められた。  
国学の演習は、これで終了した。  
後阿部光君来り雑談。  
夕食松涛先生宅で頂く。10時辞す。  
大和より書留来る。大和へ便りする。 12.40.

#### 25、火、快晴

9. 10.30～古今集演習。当番の石川君を徹底的に反駁した。高木先生は、来学年のこの演習にも出席す

るやうにと云はれた。自分が出席することによつて、この演習もにぎやかになるらしい。  
午後、夜、レポート清書。 10.45.

## 26、水、曇

9. 午前、午後、レポート清書。夜、大名町の加藤医院において、金子大栄先生の御法話あり。高木先生の御通知御紹介により、城島さんと二人でゆく。  
京都で仏専在学中、拝聴したことがあるが、それ以来、四、五年も至つた。“一切衆生の救はれる道において、自分が救はれる”といふことも仰言つた。感激した。  
岩男さんこと小野澄岩さんより来信あり。大和へ便りする。 12.30.

## 27、木、曇

7.30. 松濤先生よりの御通知により、竹岡先生にお会ひして、聖徳太子奉讃会研究生採用の自薦をした。が断られた。  
学校からの推薦者は、将来講師になる見込みの人に限るとこと、城福さんを推薦せんとしたが中止したとこと、卒論が古代文化の研究に關聯あるものたること、など・・・  
笹月先生にお会ひし、先日みて頂いたレポート返してもらふ。  
午後レポートの清書。  
夜、松濤先生宅へゆき10時辞す。パイプ頂く。  
菅瀬氏に便りする。  
研究室に残つて副手となることに、希望がもてなくなつた。  
中学へでも就職したい気がする。 12.15.

## 28、金、曇

8.10. 午前、午後、レポート清書。大学新聞入手。  
夜松濤先生宅へゆく。10時辞す。 10.30

## 3月

### 1、土、快晴

7.30 午前、論文清書。晝食、松濤先生宅にて頂く。  
夕食、石井助手の送別会の意味で、松濤先生、奥様の四人博多観光ホテルで夕食を頂く。石井さんは、四月から母校青山学院に奉職される由。帰途先生宅へより10時辞す。  
辰男さんより来信あり。 11.30

### 2、日、快晴

8. 暖い。清書の續きをし、後、11.45分、下宿を出て、宇美八幡へハイクする。1.45分着。お餅をたべて2.20発。歩いて、4.30帰る。まめが出来た。  
夕食松濤先生宅にて頂き、10.10辞す。 11.40

### 3、月、晴

8. 午前、研究室。一昨日より試験施行中。

帰りて、清書完成。

夜、“ランケと世界史学”よみ始める。

菅瀬氏より来信あり。夕方より、風ふき寒くなる。 11.

### 4、火、曇

9. 風強く、小雪ちらつく。午前讀書。午後松濤先生宅へゆき夕食頂く。9時辞す。後讀書。

澄岩さん、辰男さんに便りする。 11.

### 5、水、晴

8. 午前、レポート加筆。原稿用紙四枚。清書する。

午後も清書。松濤先生宅で、夕食頂き9.45辞す。

夜、“ランケと世界史学”讀了。 12.40

### 6、木、曇

9. 午前、レポート“國学研究序説”完成。

午後、西南学院へ、就職の面会にゆく。昨夜電話で、今日面会するといふ話があつたのである。

西南学院夜間商業部専任教諭。

毎日、四時半より九時まで出勤。

日本史、東洋史、国、漢担任。学級も担任。

月給80円。

以上の条件であるが、自分が僧侶であること、才一補充であることなどにより、採用にならぬかも知れぬ。二三日の内に何らかの通知をするとのこと。

夜、松濤先生宅へゆく。先生のお話では、研究室の副手をつとめる限り、夜間商業の専任は教授会で認められないであらうとのことであつた。

又、先日の、聖徳太子奉讃会給費生の件の、竹岡先生に断られたことなど話す。10.30辞す。

帰りて、久松眞一氏の“東洋的無”よみ始める。 12.30.

榊兄、母より来信あり。

### 7、金、曇、晴

9. 午前、国学のレポート(国史)提出。

午後、松濤先生宅へゆき晝食頂く。夕食も頂き、9.40辞す。

大和より書留来る。澄岩さんより来信あり。

大和、菅瀬さんに便りする。 12.30

### 8、土、快晴

9. 午前研究室。午後、古本屋を廻る。

夕食松濤先生宅で頂き8時辞す。後讀書。 11.

## 9、日、快晴

8. 午前讀書。後、街へゆく。松濤先生宅で晝食を頂き、後、荷造のお手伝いをする。  
夕食を頂き、夜、阿部光兄の下宿へゆく。  
菅瀬氏に便りする。 11.

## 10、月、快晴

- 6.40 午前8.13箱崎発の列車で、松濤先生と奥さんは東京へお帰りになった。駅までお見送りする。  
帰宅して、卒業論文を読む。13日に卒論発表会の予定。  
午後辛島氏と街へ行き、九州劇場で、天膳の奇術をみる。材木切断用の鋸車で、小女の身体(胴)を二つに切断するのには驚かされた。10時帰宅。  
今日から当分お留守番。  
ここ数日非常に暖い。  
岩波へ、「圖書」誌代60銭(1ヶ年分)送金する。 11.

## 11、火、小雨

7. 午前、寄留地にて臭乎をうけるための願書を役場へもつて行く。  
午後、辛島氏と共に友楽館へ行き“戸田家の兄弟”をみる。佐分利信の性格が好ましく思はれる。  
10.30.  
夜、論文の續きをよむ。

## 12、水、快晴

- 6.40 天気晴朗なれど風寒し。  
午前阿部君の下宿へゆく。阿部君は、卒業論文のテーマの選択に迷つてゐるらしい。が、自分の指定により、“愚管抄”をみつてみることにしたやうである。  
午後、夜、讀書。  
兄、松濤先生に便りする。榊君より来信あり。 10.

## 13、木、曇

7. 午前、午後讀書。  
夜、福岡市紀念館での、九州文化協会主催の講演会にゆく。竹岡先生の“日本文化と九州文化”翼賛会文化部副部長上泉秀信氏の話あり。  
兄に慰問品をおくる。大学書林に爲替おくる。 11.

## 14、金、晴

7. 午前、“東洋的無”讀了。  
午後4時、才二演習室で卒論批判会開催。  
長沼、竹岡先生から御批評あり。  
後、ミカド食堂にて送別会。  
その後、学生のみでのむ。 11.45.

## 15、土、快晴

8.30. 朝冷たかったが、午後になるに及んで、暖かになった。一日中、手紙を書く。竹岡先生、長沼先生に対して、お禮状を書く。大和へ便りする。

大学新聞入手。兄に大学新聞を送る。 10.

## 16、日、晴

7.30. 9.10分に博多駅へつくといふ榊君を迎へに行く。しかし、榊君は見えず帰宅。が十一時頃電話が掛り、おくれて来たとのこと。呉服町へ行つて会ひ、後、街を歩く。榊君は勤務の大町小学校の女教員と関係が出来、ついに意を決して、四月台湾へゆくとのこと。家で夕食をし、8.30博多發の列車で帰る。朝“倫理学”上卷(和辻博士)読み始める。

今日、朝は寒かったが、午後暖くなった。 10.30

昨夜蚊に悩まされたので、今夜からカヤをつる。

## 17、月、曇

7.30. 午前、讀書。午後、街へ出る。

夜讀書。

新聞の報導によれば、江西省で、兄の屬する佐藤部隊は他の諸部隊と共に、敵八万を攻撃中とのことである。

大和へ便りする。 10.10.

## 18、火、快晴

7. 午前讀書。9.30發、歩いて立花山へ登る。12.山頂につく。12.15山を下り、灣鉄香椎駅で帰る。時に1.40. 夜、讀書。

大和よりハガキ及び電報来る。いづれも、卒業論文批評会の成否を案じたもの。速達を出す。 10.10

## 19、水、快晴

7. 午前讀書。午後一行寺へゆく。新住職賢道氏は、九大大学院(美学専攻)へ入学したいとの話であつた。夜、阿部光兄来る。松濤先生より来信あり。 11.

## 20、木、快晴

7. 阿部光君と壽座へ“馬”を觀にゆく。

大学院入学の願書、事務室でもらつて一行寺へもつてゆく。

大和より速達(貞乎寄留地参加願書封入)来る。

松濤先生、菅瀬氏に便りする。 10.

## 21、金、曇

7.30. 午前、讀書。午後、頭痛のためねる。

夜讀書。副手用の履歷書をかく。

春雷あり、夕立あり。暖い。平年より約10度も高く、24C<sup>ママ</sup>程度もあつた。

大和より来信あり。 10.20.

## 22、土、晴

7. 一日中讀書。

竹岡先生に履歴書を送る。

大和へ便りする。

菅瀨氏より来信(速達)来る。速達の返事を出す。

岩波より“図書”来る。大学書林より“歴史学序説”来る。 10.30.

## 23、日、雨

7. 午前、午後讀書。

風邪を引いて、熱があるらしく、脚の関節がいたい。鼻がつまる。午後からねる。

## 24、月、晴

7.40. 一日ブラブスする。

北風が吹いて、少し寒くなった。

大和より速達来る。母上は26日午前10.55下関着の予定。 10.30

## 25、火、晴

7. 朝冷たかつた。後暖になる。

文藝春秋をよむ。

卒業生氏名発表あり。文科の長末氏の氏名は見当らず。新文学士は五名である。

菅瀨氏より来信あり。 10.

## 26、水、曇

6.30. 10.55下関駅着の列車にて母上来らる。

下関まで迎へにゆく。午後、夜、母上と共に大学へゆき、街へゆく。 10.

松濤先生より来信あり。大学新聞入手。

先生に便りする。

## 27、木、晴

8. 風強し。11時より工科グラウンドにて卒業式あり。文学士の証書受与さる。

午後、母と街へ買物にゆき、夜竹岡先生宅にお禮に参上する。

帰ると、渡辺来てゐる。話しをする。

菅瀨さんも福岡に来てゐるとのこと。電話を4度も掛けた由。 11.

## 28、金、曇

6.30 8時に菅瀨さん来る。母と三人で、11.23博多發の急行で長崎に向ふ。先生宅の留守は、佐竹さんに依頼する。

午後、大浦の天主堂などを見学し、夜、賑橋の西川家旅館に泊る。 11.

博多—長崎間 2.40 (学割2.00)

西川家旅館一泊 5.50 (チツプ二割とも)

## 29、土、雨

6.30. 冷たい春雷をぬつて福濟寺、諏訪神社へ詣づ。

午後菅瀬さんは、長崎を發つて博多方面へ。

母と共に、バスにて雲仙に向ふ。宮崎旅館に一泊す。

山上には雪ちらつく。強風ふきまくる。温泉はしかしあたたかい。 11.

長崎—雲仙間バス 1.70

宮崎旅館一泊 7.00 (チツプとも)

## 30、日、快晴

6. 地獄(湯の元)などをみて、9.30發のバスにて島原へ下る。山上の櫻花は蕾なるは下は満開。三角へ渡る船の中にて、平谷さん親子二人と、今後行を共にすることにする。平谷さんは京都のお医者さん。その息子さん(今年阪大医科卒業)とお母さんの二人である。

熊本で待合せの間、熊本城を拜観する。

熊本2.25發の列車で立野へ。下車してバスにて栃木温泉へ行き一泊(小山旅館) 11.

雲仙—島原間バス .90

島原—熊本間 1.77 (1.39学割)

熊本—坊中間 .70

立野—栃木間バス .40

小山旅館一泊 5.00 (サービス料二割別)

## 31、月、晴

6.30 栃木温泉の溪流には瀧あり、櫻あり、河鹿の声も聞える。

9時小山旅館を出發。

立野駅より坊中まで汽車。

11.05坊中に着いたが、阿蘇登山客多く、登山バスはやつと一時半出發。

山上には雪白し。噴火口には水蒸氣盛んにのぼつてゐる。

栃木温泉—立野バス .40

坊中—阿蘇山上バス 1.60 (往復)

坊中—熊本—鹿児島—宮崎—別府—小倉—博多間 7.95. 6.40 (学割)

4時阿蘇を下る。坊中駅前旅館にて休憩。

今夜から防空演習。

10.33發の列車で熊本駅へ。12.05發の列車で鹿児島へ。列車は満員で立ちつづける。

## 4月

### 1、火、快晴

朝6時鹿児島着。午前、城山に上り、又櫻島に渡る。溶岩をみる。

12.05発の列車で霧島神宮へ。駅前よりバスにて神宮へ参詣。後林田温泉にて一泊。浴場は素晴しく大きい。 11.

霧島神宮駅—林田温泉間バス往復 60銭

宿泊料 5.00 (サービス料2割別)

### 2、水、快晴

6.30 一風呂浴びて七時出発。バスにて神宮駅へ。8時5分発の列車にて大淀駅へ。12時下車。バスにて、宮崎神宮—青島—鶴戸神宮に参拝。6.25分の夜行にて宮崎を發つて別府へ。日名子旅館に一泊。 1

宮崎バス 2.55

日名子旅館 7.00

### 3、木、晴

7. 午前ハイヤーにて地獄めぐり。

平谷さんと別れて4.17発の列車で博多へ。10.40分着。下宿でねる。 12.

ハイヤー 一台 7.00

### 4、金、曇

8.30 午前荷物をつくり、チツキにて送る。

午後、太宰府へ参詣。長沼先生宅へよる。先生はお留守。紀念品を差上げる。夜、高木先生宅へゆく。先生もお留守。 11.

## 5日、土、雨

7. 午前、博多の人形を買ふ。

12.33分着の列車で松濤先生、奥さん帰らる。箱崎駅へ迎へにゆく。

春用のチョツキと、櫛入りの鏡頂く。

夕食は中華園で御一諸に頂く。

7.23博多発の列車で帰郷。下関大混雑のため、11.50分発の列車にのる。

### 6、日、曇

午後3時帰宅。大和は寒い。

妹の御馳走を頂く。夜雑談。 10

### 7、月、曇

11. 寒い。雪ちらつく。

午後、松濤先生、竹岡先生に禮状を出す。 11.

## 8、火、快晴

9. 午後、竹中家の葬式にゆく。夜雑談。 11.

## 9、水、曇、雨

8. 午前本堂掃除。“結婚の生態”よみ始める。 10.

## 10、木、曇

6.30 午後、岡本家の法要あり。“結婚の生態”讀了。菅瀬氏より来信あり。 10

## 11、金、晴

8. 午後、辻政次家の葬式にゆく。松濤先生より来信あり。 11.  
学士会に送金し、田中先生に便りする。

## 12、土、晴

7. 午前、新口の藤原さんの三部聖。  
午後、澄諄さんとの五重法要に随毘し一泊。油谷君も来てゐる。今日が伝法。 12

## 13、日、雨

6.30 9時帰宅。松濤先生、菅瀬氏に便りする。榊原さんより来信あり。成績証明書も同封。卒論の成績は77.5点つまり、80点と75点である。  
しかし証明書の単位について間違あり。  
榊原さんに再び便りする。 10.30

## 14、月、晴

6.30 午後、田中先生宅へゆく。お話をし夕食を頂いて8時辞す。 10.30  
浄土宗辞典原稿謝料として、18円30銭頂く。

## 15、火、快晴

6.30. 暖い春の日。午前、今井、吉村の三部聖。  
午後、小学校の児童来る。日本歴史の話と、花祭りの歌を教へる。夜、柳原、速水のおぢいさんの枕聖に参る。  
九大学生課より電報来る。中山報恩会の選<sup>ママ</sup>衡が来る20日にある故、19日に帰宅。 12.

## 16、水、快晴

7. 暑い日。午前、榛原の洋服屋さん来る。夏服を注文する。午後、大阪へ行き、古本屋を廻る。“宣長全集”“芥川全集”見当らず。7時帰る。  
静思寮より来信あり。 11

## 17、木、快晴

7. 京都へゆく。先づ知恩院勢至堂に中村さんを訪ね五重法要中止の了解を求む。後古本屋を廻る。丸太町の洗心で“宣長全集”買ふ。新版揃で39円也。直接静思寮へ送つてもらふ。

大学より20日の面会延期の電報来る。

榊原氏より来信あり。

平楽寺書店、菅瀬氏、静思寮へ便りする。 11.30

## 18、金、快晴

7. 午前、岩崎で、奥歯にブリツヂ(パラジウム)をかけてもらふ。午後、本町岡本家へ詣る。又、北八木の岡本登羅さん宅へ、卒業祝を頂いたお禮にゆく。 11.

## 19、土、快晴

8. 午前、大垣松村平五郎方三部圣。

午後、新ノ口藤原方阿弥陀圣。

松濤先生、榊原氏へ便りする。

松濤先生より来信あり。

昨日、風邪を引いた模様。 11.

## 20、日、快晴

7. 午前柳原福田家の三部圣。後高田まで歩いて常光寺の五重に随毘する。 11.

## 21、月、曇

7. 奈良公会堂における観光協会に出席する。

菅瀬氏、阿部兄より来信あり。

菅瀬さんは、28日広嶋で結婚式をあげる由。 10.

## 22、火、曇

7. 風邪の發熱のため、頭が痛く足がふらつく。

午前ねる。午後アンマしてもらふ。

松濤先生より来信あり。

中山報恩会は、書類により給費生の選衡<sup>ママ</sup>すること。 10

## 23、水、晴

8. 今日は、少と宜い。午前アンマしてもらふ。

午後<sup>ママ</sup>の三部圣。

腹をこはす。 10.

## 24、木、晴

8. 頭いたし。午後ねる。39° 熱あり。

今西さんに来診してもらふ。注射してもらふ。氷でひやす。腸が悪いとのこと。  
榊原氏より来信。 10

## 25、金、曇

6. 一日中ねる。37.5°を前後す。 10

## 26、土、晴

6. 一日中ねる。平熱になる。 11.

## 27、日、晴

6. 午後おきる。鼻のつまりもなほつたらしい。 10.30  
澄諄さんに便りする。

## 28、月、快晴

8. 午前、本立の荷造りをする。  
午後、書物を箱へつめる。  
父上の御機嫌が悪い。5月1日の寝台券を入手する。  
松涛先生へ速達で帰福の日時を通知する。 9.30

## 29、火、小雨

8. 午前、午後、書物の荷造りをする。  
夜、澄哉さん休暇にて帰る。一泊する。

## 30、水、晴

7. 奈良へ行く。澄哉さんと西大寺まで一詣。澄哉さんは滋賀の実家へ向ふ。  
奈良の若葉屋にてカメラを求む。121円。附属品を入れて136円50銭。  
勿体ない気がする。  
五重塔、北円堂などをうつして帰る。 10.

## 5月

### 1、木、晴

7. 奈良梅田より、名刷<sup>ママ</sup>及び、卒業挨拶状送附す。挨拶状の宛名をかく。  
6.15大阪発の夜行寝台に乗る。

### 2、金、晴

昨夜2時頃からねむれなかつた。11時、下宿へ帰る。  
松涛先生宅にて、晝食を頂き、風呂に入れて頂く。  
登学する。副手(無給)の辞令を事務室の東郷氏よりもらふ。中山報恩会の給費生は、駄目になつた。報恩会より来信あり。

兄より4月20日附の来信あり(4.29日着)。

小荷物の本箱、書物箱一つ、手荷物の書物箱一つ来る。

仙心堂より宣長全集来着。

仙心堂へ便りする。大和へ便りする。

下宿の樹々が、若葉に変つてゐる。 9.

### 3、土、雨

6.30 起きてすぐ、室内の整理をする。9.30 始めて出勤する。教育学研究室副手の札が下つてゐる。

12時すぎ、辛島助手と町へ出て食事をし、本屋をみて歩く。“本居宣長”を買ふ。夜、挨拶状の宛名をかく。辺部さんのところへ行つて話しをする。

“図書”入手。学士会入会の書状入手。 11.

### 4、日、晴

6. 国史科新入生歓迎遠足。8.30 吉塚駅集合。竹岡先生、鏡山先生、波多野助手、田村副手、及び、2年生4名、新入生4名、の十二名。四王寺山へ登り城趾、寺趾を見学。宰府へ下り、長沼先生宅にて晝食を頂く。榊原氏、阿部兄来る。五時、岩田屋前にて解散。

夜、竹岡先生宅にて、卒業生の定期集合あり。西尾さんの研究発表。11時辞す。 1.

### 5、月、晴

6. 9時出勤。副手手当月30円支給すの辞令が与へられた。10~12、近世思想史。

卒業の挨拶状の續きを書く。

“時代と文化”“日本の歴史”“日本新文化史”買ふ。

夜松涛先生宅へゆく。

箱崎の運送店で問合したところ、京都からの書物は、22日に發送され、近日中に当方に到着するとのこと。菅瀬さんより、来信あり。 11.

### 6、火、晴

7. 9時出勤。10~12 高木教授古今集演習。

午後、“倫理学”(和辻氏)の續きをよむ。

夕食松涛先生の招待により、中華園で頂く。事務室の佐竹さん、国文の渡辺さん、周鳳羽(支那人留学生)氏、及び私の6名である。

洗心堂より来信あり。大和、菅瀬さんに便りする。

卒業の挨拶状100枚刷つたが、すべて送つて了つた。 11.

### 7、水、晴

6.30. 9時出勤。讀書。夕方街へ出る。セルを着る。

大和より来信あり。三枝樹、石橋先生より卒業祝ひの書状を頂く。 11.30

## 8、木、晴

8. 暑くなつて来た。ひる前周鳳羽さん来る。

午後3時より、工科の講堂にて阿部知二氏の“日本文学と西洋文学”と題する講演あり。

夜松涛先生宅へゆく。かやをつる。

角野先生、松尾清照氏より卒業祝ひの書状を頂く。 10.20

## 9、金、雨

6. 9時出勤。午前讀書。午後、国史一年の上杉君来り雑談す。3時より大会議室にて、助手副手の顔合せあり。研究室主任目加田先生以下全助手副手出席。自己紹介の後雑談。5時散会。

夕食は松涛先生宅にて頂く。9時30分辞す。

畝中の崑彦先生より祝ひの便りあり。大学新聞入手。

書物は未着なり。 11.

## 10、土、晴

6. 大学へ出勤して名札を出席にして後、玉屋の古本展へゆく。又、電熱器を買ふ。午後、箱崎の合同運送へ書物の問合せにゆく。荷物は博多駅にあるとのこと。二三日中に転送するよし。後、一行寺へゆき、夕食を頂き、後、裏辻賢道氏と街を散歩する。10.30分、帰宅。

井川氏千賀先生より来信あり。 12.30.

## 11、日、晴

6. 九州帝国大学創立三十周年記念日。10時より才二学生集会所にて式あり。午後、夜、西洋史演習の予習をする。

“倫理学”(上卷)(和辻)讀了。

大和、大橋さんより来信あり。

大橋さん、博多の(通)へ便りする。 11.

## 12、月、曇

6.30. 朝、洗濯。9時出勤。午前、午後、西洋史演習下調べ。夜竹岡先生の“日本新文化史、平安朝末期”を讀み始める。

秦隆眞先生より来信あり。

田中先生に竹岡先生の“日本新文化史”と“宗教研究”を送る。 10.

## 13、火、晴

7. 10～国文学演習。午後、博多駅の(通)へ行き、仙心堂からの書籍の荷物もつて帰る。

夜、壽座へ行き“消えゆく灯”“大いなる感情”をみる。

仙心堂、吉川弘文館へ便りする。

これで“本居宣長全集”も揃つた。 12.

#### 14、水、晴

8. 午前、西洋史演習下調。  
学生身体<sup>ママ</sup>験査につき、哲学休み。  
夜松濤先生宅へゆく。  
宝田さんより来信あり。  
Sportカメラでうつしたフィルム<sup>ママ</sup>の現象焼付始めてなる。  
16枚の内、2枚失敗。他は美しくうつてゐる。  
大和、澄諄さんに便りする。 11.30

#### 15、木、晴

7. 10～古事記演習、1～西洋史演習。  
夜、片山君来り。10時前まで雑談。  
大和へ、着物とズボンとを送る。 11.

#### 16、金、曇、雨

8. 午前、西洋史演習の下調べ。午後“古今集”よむ。  
夜、“日本新文化史”をよむ。  
夜、中林君、片山君来り、10時まで雑談。  
若葉屋へ便りする。大学新聞入手。 12.

#### 17、土、曇

8. 午前、西洋史演習の下調べ。午後、明日の学内<sup>ママ</sup>解放(九大創立30週年紀年)の陳列準備の手伝ひをする。  
松濤文庫の“法花経繡圣”“北野天神縁起”“当麻曼荼羅縁起”“書寫山縁起”が出品せられる。  
3時より文友会新入生歓迎会、三畏閣で開かれる。出席者予定より少く約30余名。  
自分は、余り激しすぎる。静かな、落ついた世界に佇まなければならない。5時<sup>ママ</sup>すぎ散開。  
夜“日本新文化史”(竹岡先生)讀了。非常に面白く、又、歴史学の研究方法や立場を知らしめられた。  
11.

#### 18、日、晴

7. 8.30.登学。学内<sup>ママ</sup>解放の説明係として、演習室に、午後四時すぎまでゐる。演習室の奥(階下)の考古学史料室に松濤先生所蔵の絵巻物類が並べられ、才一演習室は法圣、才二演習室は宇佐神宮関係の史料であつた。又、才一番教室は医科、才四工科、才五農、大会議室は図書館、才七理科、才二は後藤外科の映画が行はれた。絵巻物の説明などで疲れた。  
夕食を松濤先生宅で頂き9.30辞す。  
今日、觀望に来た外国文学研究室の岩堀囁托のことが、考へに浮んで来る。分る女のやうな気がする。  
“本居宣長”(村岡典嗣)讀み始める。  
自分の宣長研究は今日から始まる。 11.30.

## 19、月、晴

5.30 早く眼がさめた。午前、西洋史演習の下調。10～史学史。午後、古今集をよむ。  
夜、讀書。田中先生より来信あり。 9.

## 20、火、晴

7. 午前、西洋史演習下調。10～国文学演習、3時～東洋美術史。後、街へ出る。  
夜、松涛先生宅へゆく。  
澄諄さんより来信あり。阿部健兄に便りする。 12.

## 21、水、晴

7. 午前ドイツ語。1～哲学。壽座で“白鷺”をみる。  
吉川弘文堂より来信あり。又、便りする。 12.

## 22、木、曇、雨

8. 棒給日。月手当30.00の内、貯金1.00、共済組合費(4、5月分).74、茶代.10、差引28.16もらふ。生れて始めて、月給をもらふた訳である。  
街へ出て、兄への慰問の品を買ふ。  
夕方松涛先生宅へゆき8時辞す。  
“図書”、大学新聞入手。  
兄へ便りを書き、大学新聞おくる。 10.30.

## 23、金、晴

6. 午前慰問品の荷造りを終了し、兄におくる。  
西洋史とドイツ語。1～野上豊一郎講師の文学概論の臨時講義。  
夜伍賀君と街へ出てビールをのむ。  
大和へ便りする。若葉屋より来信あり。 11.20.

## 24、土、曇、時雨

8. 10～文学概論。午後讀書。  
“本居宣長”と共に“神話”をよみ始める。 9.

## 25、日、曇

8. 午前、午後、“神話”よむ。夜讀了した。教へられるところ多し。夜、深沢氏の下宿へ、始めてギターを習ひにゆく。月謝三圓也。  
大和より来信あり。 12.10

## 26、月、雨

6.30 10～文学概論(野上講師)  
夜讀書。大和より来信あり。大和へ便りする。 11.10

## 27、火、曇

6.30 午前長末勉氏来り談話。オーグリルへ行つて晝食する。

1～文學概論。3～東洋美術史。

夜、三畏閣にて宗教學会あり。岳野弥吉氏(宗教学専攻専科生)(司祭)の“教役に於ける司祭の地位について”の研究発表あり。9.10 散会。

伍賀君と唯物史觀的立場について話し合ふ。

五月闇、星多くして蛙なく。 10.30

## 28、水、晴

7. 8～文學概論。筑紫君来り、話しをする。

1～哲学。松濤先生宅へ行き、観音像を寫眞にとる。しかし、セルフ・タイマーを使用せんとしたところ、始動せず。

先生宅にて夕食頂き9.40 辞す。

若葉屋へ便りを書く。

逝く春を、惜みて若葉もすぎにけり。 12.

## 29、木、晴

5. 朝、固障<sup>マッ</sup>のカメラを荷造りして、奈良の若葉屋へ送る。

食堂で伍賀君と話す。10～古事記演習。

晝食は、才二学生集会所で、国史科懇談会あり。竹岡先生以下、十五名出席。雑談に時を移して2時散会。

4時まで阿部君と話しする。夕食松濤先生宅で頂き、8.30 辞す。讀書。

ぐみの實の眞赤に熟れて初夏の風 10.

## 30、金、晴

7. 10時登学。“古今集”をよむ。

午後、阿部光君と、香椎の下宿へ行き雑談。5時辞。

松濤先生宅よりお使ひあり、五月(旧)節句につきお萩をつくつて、その御馳走に与る。9.30 帰る。

後讀書。 11.

苗代に水多くして蛙なき。

## 31、土、晴

7. 8時出勤。9時、松濤先生、奥さんと御一諸に、市電で姪浜へ行き、御膳立をみる。そこにて晝食。更に、汽車で加布里へ行き、箱島千鳥へつく。

一時間後の三時四十分頃、佐竹さんと中林君来り、一諸に御馳走になる。

六時出発。しかしバスの出発おそく、結局、2時間ほどまつて10.23 前原發の列車にて帰る。帰宅12時。

少しつかれたが、愉快であつた。

大和より書留来る。小林佛専校長より、卒業祝の来信あり。 12.40

麥秋や大地に波打つ國の糧

## 6月

### 1、日、晴

8. 午前、阿部、石川君来り談ず。  
興亜奉公日の才一日曜とて、食堂休み。  
晝食、夕食は松濤先生宅にて頂く。
- 9.40.先生宅を辞し、讀書。村岡教授の“本居宣長”讀了。 11.40  
あわたゞし、廿五才の初夏の暮

### 2、月、晴

7. 10～史学史。午后、夜、讀書。伊東氏の“国学の史的考察”を讀み始める。  
“鏡花全集”才九回配本。 12.

### 3、火、晴

7. 午前讀書。3～東洋美術史演習。夜讀書。  
“国学の史的考察”讀了。  
大和へ便りする。 11.

### 4、水、晴

7. 午前“玉くしげ”讀了。1～哲学。  
終つて、才一映画劇場で、“青春”“石川啄木”を觀る。  
夜松濤先生宅へゆく。9.45辞す。“秘本玉くしげ”を讀み始める。  
今日、晝食後、高木先生と、國学や、学的態度のお話を承る。  
大和より来信あり。小包来る。学士会報来る。  
大和へ便りする。 12.

### 5、木、曇、雨

- 7.30 10～古事記演習。その間“秘本玉くしげ”讀了。  
五月節句(一月おくれ)とて、松濤先生宅にて、お萩を頂き御馳走になる。8時辞す。  
“本居宣長の立場”原稿書き始める。來る八日、史学会に、機会があれば、發表せんが為めである。  
若葉屋より来信あり。畝中より同窓会名簿送り来る。 12.30

### 6、金、雨、晴

- 7.30. 午前、史学会公開講演用の製図をする。  
午後、辛島氏と街へ出て買物をする。  
夜原稿完成。よくまとまつたと思ふ。但し、宣長の尊皇思想に関する理解、表現は、去る二月に  
まとめたものと同、否、それにも及ばぬ程度である。大学新聞入手。 12.

### 7、土、晴

7. 午前、午後、清書。松濤先生宅にて夕食頂き、10時辞す。又、清書。完成す。

大和へ便りする。

国文の瀬利副手が福岡女専の授業を担当する由である。 1.

## 8、日、晴

6.40. 9時より、教育会館にて九州史学会開催。

午前研究発表。西尾さんの“中世における「無」の地位”以下七氏。自分は発表せず。

午後は、日本刀の展覧及び公開講演。その間、大名町の海幸荘アパートに周君を尋ねる。佐竹さんも来てみられた。周君の盗難については、警察へとどける。五時帰宅。晚餐会には欠席。

松濤先宅へゆき 8.30 辞す。 9.50

## 9、月、晴

7.30 午前、周鳳羽君の盗難届を書き、後、新しくうつる下宿へ行く。午後、英文の村上副手来り話す。

夕食松濤先生宅で頂き 9.40 辞す。

大和より夏のパナマ帽子、茶送り来る。

大和へ便りし、又、教育学会の案内状を出す。 11.30

## 10、火、曇

7. 午前、10～古今集演習。面白くない。

3～美学演習。

むし暑い日である。

夕方伍賀君来り論議する。後、一諸に通りに出て一パイ飲む。

高等教員、中等教員免許状の申請をする。 11.

## 11、水、雨

8. 入梅。鬱陶しく、むしあつく、雨が降つてゐる。

1～哲学。後中林君と話をする。

夜、明日の研究発表の準備をする。 11.30

## 12、木、雨

7. 10～古事記演習。1時よりオ一演習室で国史学会開催。“本居宣長における復古の意義”及び鏡山先生の“楽浪古墳発掘”のお話あり。

竹岡先生より、雄弁になつたこと、貫<sup>ママ</sup>緑がついて来たこと、(徒然草を云々してみた頃に較べた場合)の二つを申された。

3～より工学部の講堂で天羽英二全権大使の“最近におけるヨーロッパ情勢”の講演あり。

夕食松濤先生宅にて頂き 9.30 辞す。

本居宣長の“あしわけをぶね”読み始める。

梅雨で降つたり止んだりのお天気である。 11.20

大和より来信あり。大学新聞入手。

### 13、金、曇小雨

8. 午前、午後読書。“ミケランヂエロ”読み始める。

午後6時より、才二次演習室にて、才四十二回の教育学会例会開催。来会者九名。松濤先生の“国民学校について”。熱心な集りであつた。八時四十分散開。

後、先生のお宅にてビールをのまして頂く。雑談。11.30辞す。

兄に大学新聞送る。 11.45

### 14、土、曇

8. 9時出勤。午後、松濤先生宅にて晝食を頂き、後、東宝(壽座)へ、先生、奥さんと御一諸にゆく。“解決”その他。

帰りに夕食を頂き7時辞す。夜、伍賀君の下宿へ行き、本彦君と三人で、その下宿でねる。雑談に時をすごして、二時頃なり。ギターの深沢氏より来信あり。 2.

### 15、日、曇

8. 9時に帰宅。読書。しかし11.30~2まで午睡、後風呂。どうしても落ち着けない夕方、街へ出た。しかし又、帰つて読書。

本居宣長に関する一冊の著述をなすべく、勉強すべきだ。鞭うつて、自己をはげまし、勉強しよう。

“あしわけをぶね”は約半分ほど讀んだが、宣長の歌の立場がよく現れてゐる。最初は、“あしわけをぶね”の思想をまとめよう。 11.

### 16、月、曇、晴

8.30 10~史学史。午後、街へ出る。

夜、街へ出る。石川君と一諸になり、話しをする。 12.30.

### 17、火、曇、雨

7. 午前、読書。午後三時より、工学部講堂にて、隈部公使の“近東諸国の現勢”なる講演あり。

夜街へ出る。 12.

### 18、水、晴、雨

5. “あしわけをぶね”讀了。

1~哲学。夕食松濤先生宅にて頂く。今日は先生の御誕生日である。9.40辞す。

“観”“断情” 11.30

### 19、木、曇

8.30. 10~古事記。午後“あしわけをぶね”の抜書整理。夜、原稿をかき始める。若葉屋へ便りする。

11.40

### 20、金、晴

8.30 登学前、松濤先生宅へ、お花をもらひに寄つたまま、朝食、午食を頂き一時辞す。しばらく研究室

にみたが、後、友楽館へゆき“暁の合唱”その他を観る。

夜論文のつづき。風雅の項をまとめる。昨夜書いたのは歌と政治・道徳—歌と恋愛。今日はそのつづきの風雅。尚今後、情—情の推移—歌の本質—哥の変遷—古今傳授—歌の詠み方にまで、論議を展開せしめる予定。

大和へ便りする。大学新聞入手。

兄に大学新聞おくる。 11.30

## 21、土、晴、雨

6.30 午前、情の項書き上げる。午後、古本屋へゆく。夕食松濤先生宅にて頂き、10.30辞す。

芥川全集才四巻を求む。 11.30

## 22、日、曇

7. 午前、情の推移の項をかく。晝食松濤先生宅に頂き2.30辞す。午睡、風呂。

夜、食堂にて伍賀君と一諸になり、宇美川の堤へ行って話す。帰りに哥の本質、哥の変遷の項完成。

ドイツはソ聯に宣戦を布告したと。

今日は夏至。 1.10

## 23、月、曇

8.30 10～史学史。午後論文かく。

4時から工学部の講堂にて、興亜学生勤労報国隊の壮行式あり。月給をもらふ。

松濤先生宅にて夕食頂き8時30分辞す。

周君の盗難品洋服出た由。犯人は同宿の偽学生。時計、ズボン不明。若葉屋より信来る。 10.20

## 24、火、晴

6.30 午前、古今傳授の項をかき上げる。

晝食後、国文の石川君の研究発表あり。“浮世について”

3～美術史演習。

夕食後、散歩し乍ら中林君と話す。後常福さんの下宿へ行つて雑談。9時辞す。 10.30

大和へYシャツ送る。大和より小包来る。

## 25、水、曇、雨

9. 午前古本屋を巡る。1～哲学。

夕方、石川君の下宿で阿部君と三人で話す。

夜、中林君来り話す。

大和、若葉屋より来信あり。 12.

## 26、木、雨

7. 10～古事記演習。1から才二学生集会所にて、国史科歓談会。3より工科講堂にて谷川徹三氏の“東洋と西洋”なる講演あり。夜松濤先生宅へゆく。

寫眞機若葉屋より送り来る。大学新聞入手。 10.40

## 27、金、雨

8. 大和より書留の學費(月30圓)と共に、夏靴代として25円送り来る。早速街へゆき、白靴を買ふ。しかし松濤先生のお話しにより、チョコレート色の皮靴を求む。白靴はスフ入りのため、一ト夏ともたぬ由である。

五時から三畏閣で、興亜学生勤勞報国隊の隊員の顔合せあり。先輩格として、筑紫君と共に出席。一昨年北支へ行つた法文学部の連中の中で、現在学校にゐるのは高松君と共に三名。高松君は高文受検のため上京中。古賀学生主事、佐竹さん、中山さん、及び、隊員十名參會。8時散会す。

一昨夜からの雨で、九州は致る所洪水騒ぎ。

湿氣のため氣分が悪い。 11.

大和、若葉屋へ書面かく。

## 28、土、雨

6. 朝早く、駿河谷の矢崎先生宅へ行つて、7月1日の東洋美術史演習見学の打合せにゆく。

午後、論文。歌のよみ方の項をかく。

終日雨ふり。

夜、松濤先生宅へゆく。9.30辞す。

歸つて原稿の續きをかく。 12.10

## 29、日、雨

9.20 午前原稿“本居宣長の哥論”完成。

夕食松濤先生宅にていたゞく。10時辞す。

終日、降つたり止んだりのお天氣。 12

学士会月報入手。

## 30、月、晴

7. 雨はやつと上つた。しかし、愈々夏の暑さがやつて来た。

10～史学史。午後、街へ行つてカメラの三脚を購入す(¥21.00)。矢崎先生に天神町でお会ひし、お茶をおごつて頂く。来週9日から数日間、熊本縣の五箇庄へゆくことに内定。

夜松濤先生宅へ行き11時辞す。 12.30.

## 7月

### 1、火、晴

8. 午前研究室にて讀書。“ミケランゼロ”(羽仁氏)

ボーナスとして三圓支給の辞令入手。

午後、矢崎先生東洋美術史演習の見学として湛宗の茶室、堅糟東光院、承天寺、聖福寺へゆく。參加者13名。夕立あり。

歸途東洋史專攻の辻君来り話す。

大和、深沢氏より来信あり。

大和、藤本製作所(セミ・スポーツカメラ)へ便りする。 12.

## 2、水、晴、夕立

10. 午後、五箇庄行の打合せをする。

9日出發、人吉に出る、その間約一週間の予定。参加者、鏡山先生、古賀、渡辺氏の四名。後、辻君と美学研究室で本をみる。

夜松濤先生宅へゆく。10.10辞す。

山崎より水見舞来る。臭乎<sup>ママ</sup>令状来る。(8月五日)

山崎へ便りする。 10.40.

## 3、水、晴

7. 午前、研究室にて“政治問答”(ランケ)を読む。

午後辻君と、宰府、観世音寺、天満宮へゆく。6.30帰宅。

原稿清書。

兄に便りする。 11.30

## 4、金、曇、雨

9. 午後“政治問答”讀了。宣長の“玉くしげ”と、その考へを同じくする臭がある。

夜、清書。後松濤先生宅へゆく。10.15辞す。 11.

## 5、土、曇、雨

7.30 午前研究室にて思想を読む。

午後、東宝で“歴史の回想 盧溝橋”その他をみる。宛平縣城、一文字山、盧溝橋など、実際に見たところだけに感慨が深い。

帰ると大和より速達来り、勤労報国隊の帰国届を速に奈良聯隊区司令官あてに提出すべしと申来る。大津山大佐の宅へ相談に行き7時帰宅。後松濤先生宅へゆく。明日の佐賀行のお弁当をつくつて頂く。10時辞す。帰りに帰国届をかく。 12.30

## 6、日、晴、驟雨

5.30 7.31分博多發の汽車で佐賀へ向ふ。鏡山先生、伍賀、古賀、渡辺、圣濟の学生の計六名。帯隈山の神籠石を見学。佐賀へ来り、徴古館見学。

六時帰着。大和より速達来る。小包来る。

大和へ電報を打ち、帰国届を書き直す。

松濤先生宅にて風呂、夕食を頂き10時辞す。 12.30

## 7、月、曇

6.30 博多局へ速達を出しにゆく。

日支事変才四週年紀年日。医科の講堂にて慰靈祭あり。後研究室へゆく。眠くなり帰りに午睡。夜、

夕夜松濤先生宅にて頂き、8時辞す。

大和より又速達来る。 9.30

## 8、火、雨

7. 午前研究室。午後才一映画へ行つて“白鳥の死”を観る。夜論文清書。

藤本製作所より寫眞機部分品送り来る。代りのを送り返す。 10.

## 9、水、曇、雨

7. 午前、午後、夜、清書。“本居宣長の思想研究其一 本居宣長の復古思想”の清書完成。400詰原稿用紙30枚。

昨夜10時、本日午前9時30分の二回大和より電報来る。二度目の帰国届未着の由。早速返電す。

大和へ速達書く。大学新聞入手。 11.40

## 10、木、曇、晴、雨

7. 昨日も今日も欠勤。

“本居宣長の思想研究才二 本居宣長の哥論”清書着手。

晝、及び夕食松濤先生宅で頂く。

夜街へでて、山笠をみる。

大和へ便りする。 12.

## 11、金、曇、雨

7. 今日も欠勤。松濤先生から戴いたチブスワクチンをのむ。今日から三食共先生宅にて頂く。

先生より、中元として五圓頂く。

夜古本屋へゆく。一日中清書。

大和より来信あり。大和へ便りする。 12.

## 12、土、曇

8. “茶の本”讀了。終日清書。

兄に慰問品を送る。 10.10

## 13、日、曇

7. 午前清書。全体の1/3約26枚書き上げる。

午後大清掃。手伝のおばさん達がやつてくれた。

夏服来る。大和より来信あり。 11.30

## 14、月、晴

8. 新しいチョコレート色の靴、新しい白の洋服を着て出勤。

午後、自動車学校へ問合せにゆく。

夜松濤先生宅にて、渡辺さんと共に、お話しする。

大和より来信あり。洋服屋からも来信。

大和、マルカ洋服屋へ便りする。 11.30

### 15、火、曇、晴

7. 午前研究室。午後、自動車操縦を習ひに、新博多駅裏の練習場へゆく。向ふ一ヶ月、毎日午後、月謝43圓。50圓、松濤先生より拝借。

大和より来信あり。帰国届の件、圓滿におさまつたらしい。しかし、八木町内にて40名〇〇あり。福岡市も、数日来、近来稀な〇〇あり。大和より中外日報送附。 11.30.

### 16、水、曇

7. 押入れの壁の崩れを、おやぢさんに頼んで修繕してもらふ。

午前十時廿三分博多駅発の列車で、九大勤労報国隊の隊員六名(内四名途中乗車)の習志野行を見送る。構内プラットホームへ入場出来ず、又、万才を叫ぶこともつつしまなければならない。防諜上の関係から。

午後、自動車練習。昨日は、指導の人と同車し、發動機関係の操作はすべて指導の人にしてもらひ、僅かに、運転のみやつたが、今日は、チェンジ、レバー、クラッチ、アクセルレーターなどの操作もした。が、運転は困難だ。思はぬ方へ車が行く。

大和より来信あり。大和へ便りする。 10.

### 17、木、晴

8. 午前、松濤先生宅の清掃のお手伝ひをする。

自動車は、角を廻る練習をする。

夜阿部君来る。 11.30

### 18、金、曇

8. 午前研究室。自動車は角を廻る練習。

夕方、松濤先生、奥さん、周鳳羽君と共に中華園で御馳走になる。ビールを飲みすぎ、無意識の間に帰り、ねる。一寝入つて後、おき、原稿清書。2/3完成。大和より来信あり。大学新聞入手。

今後、アルコール分は、自重してのまねばならぬ。 1.

### 19、土、曇

8. 今日から永野助手と“石上私淑言”の輪讀をする。

午後、自動車の練習に行つたが故障により練習中止。

帰途、操内科隔離病室に伍賀君を見舞ふ。伍賀君は赤痢のため14日に入院。しかし、病菌は発見されず、大腸カタルらしいとのこと。元氣であつた。伍賀君のお母さんが来てみられた。

図書七月号入手。 9.

### 20、日、晴

7. 午前、東宝へ“闘魚”を観にゆく。

午後7.57箱崎発の汽車で松濤先生、奥さんは帰京せられた。周君、渡辺さんと共に見送る。  
駅にて浦上松次郎君と会ふ。浦上家へより奥さんとお話しする。  
今日から先生宅のお留守居である。 11.

## 21、月、晴

6. 午前、英文の安田元氏来り雑談。哲学ノートを貸して上げる。後、永野助手と輪讀。  
午後、自動車故障。ガソリン悪性が根本原因。腕が上った。  
大和より軍服送り来る。又来信あり。  
大和へ便りする。 11.15.

## 22、火、晴

6. 午前、例の如く、永野助手と輪讀。“石上私淑言”の上讀了。午後自動車バツクの練習をする。  
今日は月給日。書籍を買ひ、下宿代を拂へば、五圓しか残らぬ。  
夜阿部君と街へ出る。ビールはヂョツキー杯が最もよい。後、二人で渡辺女史の下宿へ行き 11.10 まで話す。  
12.

## 23、水、晴

6. “石上私淑言”下を讀み始める。  
午後、自動車。チェンジ・レバーを入れる際。lowを忘れてすぐsecondに入れやうとした。油断大敵也。  
清書、殆んど完成。 10.30

## 24、木、晴、夕立

6. 午前、研究室に古賀氏来り話す。  
午後、自動車練習場へ行きしも、雨(夕立)のため中止。  
松濤先生より東京着の来信あり。 10.40

## 25、金、曇、雨

6. 午前、例の如く永野助手と輪讀す。  
雨にて、自動車運転休止。  
“本居宣長の哥論”清書完成。“本居宣長の復古思想”と合せて、原稿用紙約百枚。これが、副手生活  
才一年目の5、6、7三ヶ月間のアルバイトである。  
“芥川全集才四卷”讀了。 10.

## 26、土、曇、晴

6. 午前研究室にて“日本の眼覺め”をよむ。  
午後、自動車。夜大和へ便りかく。 10.

## 27、日、曇、晴

6. 東宝へ“勝利の歴史”を觀にゆく。

“日本の目覚め”讀了。岡倉天心の著書は、心を動かす何ものかがある。  
松濤先生に便りする。 10.

## 28、月、曇、晴

6. 午前、永野助手と“石上私淑言”才三卷輪讀。

頭髮を短くする。

午前自動車。

夜、今日から箱崎国民学校で、<sup>ママ</sup>卓乎予習教育実施。8時より10時まであり。 11.30

## 29、火、曇、晴

6. 午前研究室。疲労の為めか、顔色が悪い。

午後自動車。今日から自分独りで、運転することとなつた。これまで、指導の藤山氏と、同車して  
みたのである。練習を始めて15日目(実際は十一日目)である。

夜、8~10.20卓乎の予習あり。

数日来涼しくて、教練も楽である。

Hのことどもが思ひ出される。

彼女は、今頃どうしてゐるであらうか。

Hのために、Hの心にそふために勉強せねばならぬと思つた。烈しくそれを思ひつめてゐた。が、學問  
に対する自己の無力が、先づ考へられるやうになつた。

それに、自分は、修養をせねばならぬ。理論を云ふ前に、落着き、冷静を持さねばならぬ。他人の悪口  
を云ふことをきつぱりやめ、つまらぬことにくよくよしたり、<sup>ママ</sup>奮概したりすることをやめねばならぬ。

自分は今恋してゐない。が、心の状態は、Hの夢をみてゐたときと同様に、落着を失してゐる。落着け、  
話すときに、行動するときに。 11.30

## 30、水、晴

6.30. 午前自動車。午後研究室。

夜、卓乎予習。10.30散会。

日蓮主義代理部より、書籍品切の通知来る。 12.

## 31、木、曇

6.30 午前自動車練習。午後研究室。

夜点呼予習。10.散会。肩や腰がいたむ。

松濤先生より来信あり。大和より書留来る。

日蓮主義代理部へ便りする。 11.30.

## 8月

### 1、金、晴

7. 珍しく晴れ上つた暑い日。

午前自動車。午後阿部君と街へゆく。

夜卓乎予習。今日で予習も一先づ終了。 11.45

## 2、土、晴

7.30 午前自動車。

午後、阿部君と松竹へ“碑”をみにゆく。

松濤先生の奥さんより来信あり。大和へ便りする。 10.

## 3、日、晴

7. 横光利一の“日輪”讀了。

佐々木味津三の“右門捕物帖”よむ。 10.30

## 4、月、晴

6. 午前、自動車。稻妻形のコースの練習。ここが巧く運転出来れば、技術は完全である。

午後一時から卓乎予習。暑い午後の陽を受けて少し苦しかつた。6.30 散開。

大和へ便りする。 10.

## 5、火、晴

4.20 5.55 網屋電停前集合。

午前卓乎。12.20 終了。

後、二班の軍人会員のみ、珍竹で食事を共にし、又、一諸にフロイデにてお茶をのむ。更に、新宮へ行き、夕食を共にする。二班は全部で十五名。8時帰宅。 10.

## 6、水、晴

7.30 午前研究室。午後自動車。

夜箱崎の郷軍分会長筑紫豊大尉のお宅を訪問。9.10 辞す。 10.20

## 7、木、晴

6.10 午前研究室。永野助手と共に“石上私淑言”卷三を讀み始める。

午後自動車。ハンドルをきるとき、迅速にすべきこと。帰途、伍賀君を見舞ふ。大部元気なり。

大和より来信あり。松濤先生に便りする。

昨日から腹をこわし、片栗粉で食事をしてゐる。 10.20

## 8、金、晴

6.20 午前研究室。“石上私淑言”讀了。

午後自動車。帰りて、荷物整理。

母上より来信あり。 10.

## 9、土、晴

7.30. 午前、汽船乗船券を買ふ。午後自動車。

大和へ速達出す。大学新聞来る。 12.10.

#### 10、日、晴

6.20 松濤先生宅の留守を渡辺女史に頼んで、午前10.23博多発の汽車で帰国の途につく。

12時門司着。1時門司発の大阪商船黒龍丸にのる。松濤先生に便りする。

#### 11、月、晴

暑さと小供の泣声により容易に睡入れず。

七時に神戸着・八時上陸。須磨の八木井家に行き、晝食を頂く。後、豊丸さんと共に君代さん宅へ来り、夕食を頂き七時辞す。之代さんに三宮駅まで送ってもらふ。9時40帰宅。 10

#### 12、火、曇

7. 午前繩手、今出三聖。

午後妹と疋田のお墓参りをする。 10

#### 13、水、曇、雨

7. 午前櫻井島田家へ棚聖参り。但し旧盆のこととて帰る。

午後、澄岩さんと共に小房、新町、今井、内膳の棚聖。1~6.30帰宅。雨で困った。

松濤先生に五十圓(自動車代)おかけしする。梅子さんに十圓かへす。

日蓮主義代理部へ便りする。

瀬利さんにも便りする。 10

#### 14、木、曇、雨

7. 午後、父上に代り、澄岩さん、辰男さんと共に、東北、西八木の棚聖にゆく。2~2.30帰る。 9.30

#### 15、金、曇

9. 昨夜大風吹く。“万葉集”上読み始める。

日蓮主義代理部より返金し来る。そこへ便りする。 10.30

#### 16、土、曇、晴

6.30 午前小房吉川家三部聖。

午後磨物をする。 10.

松濤先生より来信あり。

#### 17、日、晴

6. 8時奈良へゆく。臨地講演に参加。春日石仏、新薬師寺見学。高田十郎、猪熊兩氏講師。春日山を一廻りし、若草山頂にて散会。4.30. 10

## 18、日、晴

9. 午前、松濤、竹岡先生に便りかく。  
午後、明日の施餓鬼の準備。 10.30

## 19、火、晴

6. 午後、施餓鬼会あり。  
葬式。河合源七郎氏、及び中川氏の二つに立つ。 11.  
“日本仏教史の課題”をかく。

## 20、水、晴

7. 午前10時家を出て、法隆寺、法輪寺へゆく。後、山崎へゆく。妹が一足先へ行つてゐた。  
山崎で一泊。 10

## 21、木、晴

6. 晝食后、山崎を出て京都へ来る。古本屋を巡り8時帰宅。松濤先生、瀬利さん、梅子さんより来信。  
11.

## 22、金、晴

7. 午前、“日本仏教史の課題”を清書して、中外日報に投書す。  
夜8時八木發。鶴橋經由大阪9.01發の急行に乗る。大して混雑せず、うつらうつらする。

## 23、土、曇、晴

- 曇りで富士山は見えず。午前8時品川着。すぐ松濤先生宅を訪ねる。先生、奥さん御元気。リツクサツクに入れて持参の水瓜二つ、梨、ナスビ若干は、大変ん飲ばれた。  
先生、奥さんと三人で、新宿伊勢丹へ行き、又、映画“若い科学者”をみる。大和へ便りする。9.30

## 24、日、晴

6. 午前、加藤齒科医院で、盛彦さんに、前歯及び奥歯の金インレをしてもらふ。  
午後、先生、奥さん、盛彦さんと一諸に、浅草、隅田公園、上野へゆく。後、皆と別れて、菅瀬さんを久野町の自宅を訪ねる。8時辞す。 11.

## 25、月、晴

- 8.40. 午前菅瀬さんを訪ね、二人で街へ出る。上野の風月で晝食を御馳走になり、別れてから神田の古本屋を廻る。“本居宣長稿本全集才二輯”を5.50にて入手。3時帰る。  
5時、先生、奥さんと一諸に日本劇場へ行き“男子有情”をみる。銀座を歩いて、9.50帰宅。11.

## 26、火、晴

- 6.30 午前、先生と芝浦へゆく。しかし御台場へは渡船し得ず。旧芝離宮へ廻つたが、また入場禁止。後、増上寺へ詣で、丸山へ登り、境内を歩いて帰る。

午後、先生、奥さんと、東日天文館へ行き、プラネタリウム(天象儀)によつて映し出された北極の空を見る。四時帰る。夜、先生の御息、道雄氏来らる。雑談す。 11.

## 27、水、雨

6.30. 午前宗務所に吉田正義さんを訪ねる。

帰りて、折柄訪問中の九大教育出身の豊沢中尉に紹介されて、先生、奥さんと共に話しをする。午後三時、吉田さんと共に、靖國神社、本郷、銀座などへゆき、色々おもてなしにあづかる。8時帰宅。大和へ送金を速達で依頼する。 10.30

## 28、木、晴

6.30. 午前、吉田さんと増上寺へお詣りし、寫眞をとる。10時、加藤さんと神田の本屋を歩く。後、武蔵野館へゆき、“偉人エーリツヒ博士”をみる。五時帰宅。大和より来信あり。 11.

## 29、金、曇

6.20 午前、先生、奥さんと雑談。午後、一人で神田の古本屋を廻る。神保町にて花田玄道君(中央大在学中)に奇遇、色々話をする。8時帰宅。 12.

## 30、土、曇、小雨

8. 午後、先生、奥さんと、銀座のデパート高島屋、松屋へゆく。夜、一日のツバメの特急券を購入す。大和より送金の速達来る。 9.30

## 31、月、雨

6.30 午前8時出発。横浜峯の護念寺へゆく。

先生、奥さん、加藤さんと私。護念寺は灸で名高い。山上の寺にて晝食を頂き、午後、寺の近くの太田猪十二氏の別邸にてトランプをする。奥さん、加藤さん、杉本氏夫妻、お寺の娘さんと共に。夜、磯子園に招待される。先生、奥さん、護念寺住職六浦雲照氏、娘さん、杉本氏夫妻、及び太田氏夫妻、令嬢。 10.30 帰宅。 11.30

## 9月

### 1、月、曇

6. 先生に東京駅まで見送つて頂いて、九時發のツバメに乗る。四.廿分京都着。本屋を廻り、奈良電にて帰る。七時帰宅。山崎の浩道さん来る。 12.

### 2、火、晴

9. “大和二千六百年史”の續きをよむ。松濤先生、若葉屋、九大法文学部へ便りし、又仏教史学会へ入会金四円拂込む。松濤先生より来信あり。大和へ立寄る予定を変更し、九州へ直行されることになった由。 10.30

### 3、水、晴

7. 朝、おみさんにあんまをしてもらふ。

“大和二千六百年史”讀了。

“文化類型学研究”よみ始める。

役場より、在郷軍人身分調査書申告用紙、及び補充兵教育に関する通知あり。箱崎の筑紫豊氏に便りする。 9.30

### 4、木、晴

6.30 午前、母と協同病院へ健康診断にゆく。心臓の神圣過敏により脈搏が不正になつてゐるとのことであつた。午後、辰男さんと今井、内膳の旧盆棚聖九軒廻る。後、新道市場の葬式あり。

加藤盛彦氏、吉田さんに便りする。 10.

### 5、金、晴

5.30 7時すぎ柳原へ着く。柳原、出屋敷、新村、村正町の棚聖。尾崎四郎さんが案内役。

7.50分に出て、終つたのが4時50分。

中外へ便りする。 10.

### 6、土、曇、雨

8. “文化類型学研究”續きをよむ。

鉄道割引券送り来る。 10

### 7、日、晴

7. 朝、晩、涼しくなつて来た。

午前讀書。午後、田中順照先生を訪ねる。夕食を頂いて7時辞す。

山崎の兄さん来らる。 10

### 8、月、晴、夕立

5.40 7.06八木發の電車で伊勢參宮する。母と山崎の兄さん、浩道ちやんの四人。外宮、内宮に詣で二見浦にて晝食。後自分一人、山田市内の古本屋を歩く。みんなは朝熊山登山。再び駅で落合つて5.40

發の電車で帰る。兄さんは松坂にて下車。7.30八木着。夕立あり。 10

### 9、火、晴

8. “文化類型学研究”讀了。

“本居宣長の人と思想”よみ始める。

午後、山崎の兄さんが松坂より帰られ、土産として宣長の鈴屋土産の鈴を戴く。

箱崎の在郷軍人会、中外、学士会より来信あり。 10.

### 10、水、雨

6.30 雨ふる。山崎の兄さん、浩道ちやん、午前7時40分の電車で帰崎。母一諸に山崎へゆく。

9月9日附の中外に“日本仏教史の課題”掲載さる。“本居宣長の人と思想”讀了。“万葉集”上讀みつづける。

母は、伏見工兵隊の澄哉さんに面会して6時帰宅。 10

#### 11、木、雨

7. 午前讀書。午後、大垣へ葬式にゆく。脇導師なり。

兄、澄哉さんに便りする。夕方雨やむ。 10.30

#### 12、金、曇

6.30 妹と大坂へゆく。大阪劇場にて“かんざし”その他を観る。後一諸に古本屋を巡る。

“本居宣長稿本全集才二輯”(2.70)を買ふ。

6.40帰宅。 11.

#### 13、土、雨

7.30 午前荷物の整理。

讀書“万葉集”

加藤守彦さんより来信あり。 11.

#### 14、日、雨

6. 午前荷物整理。

午後四時五分畝傍發の汽車にて奈良へ行く。古本屋、若葉屋へより、更に京都へより、古本屋を見、10.20發の汽車に乗る。

#### 15、月、曇

午前7時廣島下車。古本屋をみる。9.20發の汽車にのる。

昨夜も今日も、汽車は大して混雑せず。

戸畑駅より辻村君乗る。法科を中退して九州齒科医專につとめ、今日が始めて授業をした由。

五時博多着。

夜松濤先生宅へゆく。10.30辞す。

大和へ便りし、且つ澄哉さんの用の字引を送る。 11.

昨夜より讀み始めた“狭き門”讀了。

#### 16、火、晴

7. 部屋の整理をして登学。

午後、東宝へゆく。“エノケンの爆弾児”その他

夜阿部君来る。 11.30

#### 17、水、晴

7. 午前研究室。1.～哲学。

チツキの荷物来る。夜食松濤先生宅にて頂く。9.10辞す。  
妹に拝借中の金五円返送。吉田さんに写真おくる。 9.30

## 18、木、晴

6.30 “万葉集”の續きをよむ。  
又、“東洋の理想”よみ始める。  
夜、“日本仏教史の課題”の原稿清書する。  
大学新聞社へ半ヶ年分の紙代おくる。  
伍賀君に便りする。 10

## 19、金、晴

6. “万葉”“東洋の理想”を読む。散髪する。  
兄、加藤守彦さんに便りする。 9.

## 20、土、晴

7. 昨夜は充分睡れなかつた。  
午前研究室。午後古本屋を廻る。“都鄙問答”を買ふ。  
夕食松濤先生宅にて頂く。9.30辞す。  
“圖書”入手。伍賀君より来信あり。 10.30

## 21、日、晴

6. 松濤先生宅にて御弁当をつくつて頂いて雷山へゆく。鏡山先生、波彦野助手、片山、上杉、中林、渡辺と自分の六名。8.30今川橋發のバスにて前原へ到り、それより歩いて雷山の大悲王院に着く。晝食、古文書、国宝の仏像拝観、又、折柄の日蝕を見る。3.30同院發。神籠石、水門をみて、再び歩いて前原着。7.10發のバスにて今川橋着。8.50帰宅。先生宅にて夕食を頂く。渡辺文子さん来てゐる。10.辞す。大和より来信あり。山崎、伍賀君に便りする。 11.30

## 22、月、晴

7.30. 午前、午後、夜讀書。 9.30

## 23、火、晴

6. 志賀島の文化講義、高木先生の万葉展望に参加。先生のお話を承り、有意義であつた。  
夕食を松濤先生宅にて頂き9.30辞す。  
帰宅すると、洗濯竿と干物が盗まれてゐた。近い内に下宿をかほりたい。  
妹に便りかく。 1.

## 24、水、雨

7. 風邪を引いた。  
月給をもらふ。“紫文要領”よみ始める。

夜、瀬里君(国文科学生)来る。 10.30

## 25、木、晴

5.30 朝食、松濤先生宅で頂く。

学校で竹岡先生に御挨拶する。演習は休み。

午後帰って午睡。

夕食又松濤先生宅で頂き 9時辞す。 12.

## 26、金、晴

7. 午前研究室。午後阿部君と国史研究室で雑談。

夕食松濤先生宅で頂く。10時帰宅。

松濤先生宅へ、山口夫人及び子息(農科勤務)が見えた。

帰りて林氏と五目並べをする。

大学新聞入手。 12.30

## 27、土、晴

8. 午前研究室。“紫文要領下”を読む。午後3時30分より明治製菓で中江健三副手の送別茶話会あり。中江氏は東京の東亜海運会社の調査部に就職の由。送別会は、史学会、支那学会関係者の出席多く盛会であつた。

五時散会。夜“東洋の理想”讀了。

武内義雄氏の“支那思想史”を読み始める。

伍賀君より来信あり。大和より肩章(軍服の)送り来る。妹へ便りする。 11.30

## 28、日、雨

7. 午前讀書。松濤先生宅へゆき、晝食頂き、夕食も頂き七時辞す。7.50博多發の中江副手をお見送りする。伍賀君に便りする。 10.20.

## 29、月、曇、小雨

7. 10～史学史。午後、松濤先生より釣竿を拝借して浜へ出て釣りをする。しかし一匹もかからず、明日を期して帰る。夕食を頂き7時辞す。夜讀書。

大学書林より月報来る。 9.

## 30、火、曇、雨

7. 午前、午後、研究室。“紫文要領”讀了。3～美学演習。

夕食松濤先生宅にて頂く。8時辞す。帰宅してすぐ森田辰雄君来る。十一時半まで話す。

妹より来信あり。十五円送り来る。

妹、八木井(須磨)のおぢさんに便りする。 1.

10月

## 1、水、雨

6.30 午前“紫文要領”の論文作成の準備をする。

陸軍聖理学校の国史科教官採用につき書類を出す決心をする。1～哲学史。

雨風激しくなる。下宿のトタン屋根がとび、垣が倒れるので松濤先生宅へゆく。全市停電。

先生宅にてとめて頂く。

大和より来信あり。柿栗栗送り来る。

妹より中外送り来る。9月9日の“日本仏教史の課題”なる拙文に対し、松山高校の北川淳一郎氏が、“中外紙上最近の諸問題”と題する論文に於て言及され、

……昨日の「中外」に田村といふ人が「日本仏教史の課題」といふので「いづれにしても日本仏教史は仏教的世界の殻を破つて民族精神の歴史的地盤に於てのみ始めて建設せらるべきものである」とあつたが確かにさうだ……

一つ若き田村さん、しつかりと研究せられて将来立派なものを發表して貰ひたい……

日本人には仏教は動かすべからざる、れつきとした田村さんの「歴史的現実だ」……

とある。些細な小文を、目にとめて、かくまで高く評價され、又、深き期待をもたれてゐることに対し、嬉しさと、おそろしさを感じず。 9.

## 2、木、晴

6. 暴風雨は止んだ。先生のお庭の松の木や貝塚は、倒れたりかたむいたりしてゐる。朝食前に一通り片付けるお手傳ひをした。

10～古事記演習。

今日、海軍教授として国史担当の教官採用の掲示あり。これも申込むつもりである。

夕食を先生宅にて頂き9時帰る。が下宿は未だに停電の修理ならず、ローソクにて之をかく。

大和、中外、海田大学堂へ便りする。

本居宣長の思想研究才三“本居宣長の物語論”について原稿をかき始める。 10.

## 3、金、晴

8. 午前玉屋へ行つて、就職用の寫眞をとる。

帰つて、履歷書をかき、又北川氏への手紙の下書をする。3～文化講義。医科の下田教授の“氣質と性格”なる題で才1番教室であり。

夕食松濤先生宅にて頂き九時辞す。 11.

## 4、土、雨

7. 午前、診療所にて、身体検査書二通作成してもらふ。

午後東宝へ行つて“黒い瞳の女”“皇国の楯”“日本の氷河”をみる。帰りに玉屋へよつて寫眞(4枚2.00)をもらつて帰る。論文の續きをしようと思つたが駄目。

北川氏へ便りする。八木井の政子さんより来信あり。 9.

## 5、日、晴

6.30 午前押入れの書籍整理。

午後履歴書をかく。松濤先生宅へゆき夕食を頂き 6.30 辞す。

それより竹岡先生宅へゆく。今晚は、榊原氏の日本書紀に関する研究発表あり。11時辞す。原田さんを宇美川の橋まで送ってから帰宅。 12.30

## 6、月、晴

7.30 10～史学史。夕食松濤先生宅で頂き 9.40 辞す。

中外送り来る。對馬要塞司令部の内海君より来信あり。

大和、内海君、稲垣先生、へ便りし、又大和へ中外おくる。 11.30

## 7、火、晴

7. 午前、午後、魚釣りにゆく。しかし一匹もつれなかつた。

今日は特に頭が重い。

勉強する気になれない。就職問題が自分を動揺せしめるのだ。 9.

## 8、水、晴

7. 朝早く釣りにゆく。駄目。“日本の弓術”よむ。

又“教行信証の概要”よみ始める。

二三日来、鬱々たるものがあつた。今から、自肅自戒してみた煙草を再び始める。

大和より来信あり。大和へ便りかく。 12.30

## 9、木、晴

7.30 朝晩涼しくなつた。今日は日中も寒い程。

10～古事記演習。1～より才三演習室で阿部君の卒業論文発表あり。“延喜天曆を中心とする浄土思想の展開と意義”

5時より中華園にて松濤先生に御馳走になる。

渡辺さんと妹さん、玉屋の女店員も来た。帰途より九時帰宅。

妹に“日本の弓術”おくる。日本仏教史学会に便りする。

妹より来信あり。大学新聞入手。 10.10.

## 10、金、快晴

7. 午前研究室。晝食松濤先生宅にて頂く。大和から、先生宅へ栗をおくつて来た。東宝へ映画をみにゆく。

“森の石松”その他。夕食も先生宅にて頂く。食後、妹の話が出、ハンドバツグを欲しいと云はないと申した処、奥さんは即座に、岡部弥太郎氏からもらはれたハンドバツグをとり出して荷造りし、大和の妹へ送ると云はれた。 9.10 辞す。

“教行信証の概要”讀了。

拙文をまとめるについて、再び“紫文要領”をよみ始める。奈良市の大学堂書店より芥川全集入手見込なしの便りあり。

大和へ便りし、兄に大学新聞おくる。 11.30

## 11、土、晴

7. 午前研究室。午後、松濤先生宅の御留守居にゆく。

“紫文要領”をよむ。先生、奥さん、梅子さん四時すぎ帰宅する。夕食を頂く。8時、周鳳羽君先生宅を訪問。一諸に話をし、十時前辞す。

稲垣先生より来信あり。ロゴス書店、森谷書房、文照堂へ芥川全集の問ひ合せ状を出す。 10.10

## 12、日、曇、雨

7. 午前、“紫文要領”二回目讀了。周君来り、絵ハガキを土産にくれた。一諸に街へ出る。岩田屋で別れて玉屋へ来ると、山口君に会ふ。お茶をのむ。雨の中を帰る。履歴書をかく。松濤先生の御指示により、全面的に書き方をかへる。

大和より来信あり。

今日より十日間、防空演習。街は眞黒である。 10.

## 13、月、晴

6.30. 一日中履歴書をかく。四枚かく。

大和へ、履歴書、成績証明書各三通づつおくる。

夕食松濤先生宅にて頂き、7.30 辞す。

佐藤得二氏の“日本の教養の根據”よみ始める。 9.30.

## 14、火、晴

8.30. 午前履歴書をかく。

大和より戸籍謄本と、爲替来る。

陸軍聖理学校(歴史科教授一名) 海軍省関係(教授一名、助教三名)へ、それぞれ履歴書を出すべく、教導室へ書類を提出する。3~美学演習。

夕食松濤先生宅で頂き、10時辞す。

大和へ便りする。 10.20

## 15、水、晴

7. 午前研究室。午後、松竹映画劇場へ行つて“暖流”その他をみる。夕食松濤先生宅で頂き8時辞す。今日、学制が改革せられ、大学専門学校の学生生徒にして、三年のものは、本年十二月卒業、又、本年内に徴兵検査施行せられることとなつた。

夜帰りて、論文をかく。 11.30

“歴史的世界”(2.70) “古代仏像の人類学的研究”(2.00)をかふ。

## 16、木、晴

7. 午前、朝食先生宅で頂き、大阪大丸への<sup>マ</sup>の注文三着分(内一つは自分のもの)を先生のお金を以て為替にくみ、先生に注文して頂く。それを書留にておくつた。

午前阿部君来り雑談。午後、江口幸雄氏来る。話をした後、才一映画へ行つて“間慄<sup>マサ</sup>X27”をみる。5時帰る。

夕食先生宅にて頂き、8.30帰る。論文かきつづける。半分かき上げる。“大和古寺”(2.50)をかふ。 1.20

## 17、金、晴

6.30 神嘗祭で休み。午前、午後、夜論文かく。

夕食松濤先生宅で頂く。論文、八分通り書き上げ、あとは“哥論”を残すのみとなつた。

昨日、近衛才三次内閣辞職し、今日、大命は、東條英機陸相に下つた。大学新聞入手。 11.20.

## 18、土、雨

6. 靖国神社臨時大祭。在郷軍人会の国威宣揚の大会東公園であり、雨にぬれて11時に帰る。軍服をぬいで、午後は、法文学部の防護団の訓練に参加。法文学部本館の警備掛りである。晝、夕食を先生宅で頂く。7.30辞す。8時中林君来り話をする。スピノザの‘永遠の相の下に’についてなど……。10時に帰る。松山高校の北川淳一郎氏より返信あり。 10.40.

## 19、日、快晴

9. 8時より施行せられる防空演習に、おくれてゆく。昨日と同様本館の警戒をする。が、午後4時まで續いては、退窟であつた。夕食先生宅で頂き、10.20辞す。

帰りて、論文を加筆修正する。 10

## 20、月、晴

7. 午前研究室。阿部君来り、一諸に街へでて、松竹映画劇場で“何処へ”をみる。夕食、先生宅で頂き、7.30帰宅。

原稿の修正完成した。

妹より来信あり。妹へ便りする。 10.30

## 21、火、快晴

8.30 先生宅で朝食を頂き、風呂も頂く。

四時まで研究室にて論文をやる。“あしわけをぶね”“紫文要領”をもう一度よみ直す。

大和より来信あり。兄は疲労し易いよし。

街へ出て、理研ヴイタミン、雲丹、小説“何処へ”“石坂洋次郎集”をもとめる。

今後、夕食は松濤先生宅で頂くことになつた。

10時30分、先生宅より帰る。大和へ便りする。 11.30

又、井上忠氏に“仏教文化講座”(図書館より借りる)をおくり、便りする。 11.30

## 22、水、快晴

7. 午前、九州書房にて“日蓮聖人御遺文”(2.70)を求む。後研究室にて、論文整理。4時帰りて散髪。先生宅にて夕食を頂く。7時辞す。

夜も論文。後先生宅へゆき、10時辞す。

兄より10.12附の来信あり。近く身上の変化ありと。帰還の様子。  
兄上に慰問品(理研ビタミン2箱、雲丹2個、小説“何処へ”“石阪洋次郎集”)をおくる。 10.20.

### 23、木、晴

7. 午前研究室論文整理。午後配属将校に意見書執筆を依頼にゆく。(陸軍聖理学校用) 手当をもらふ。  
夕食後、迷信論をする。11時30分帰る。  
大和、加藤守彦さんに便りする。 11.45.

### 24、金、晴

6. 午前論文整理。‘哥論’の項をかく。山口君来り雑談。12~2才五番教室にて、花山講師の日本仏教史の試験監督をする。  
夕食を頂いて7.30辞す。帰り論文を書く。完成。(10.2より執筆し始める)續いて、清書を開始。  
大学新聞入手。大和より速達来る。玉村軍医が、履歴書を以て、陸軍聖理学校<sup>ママ</sup>の副官に面会して下さった由。玉村氏の書簡も在中。  
江上秀静氏を介して、木炭二俵、善導寺よりおくりとどけて頂く。一俵3.52也。 11.10

### 25、土、晴、時雨

7. 論文清書。夕食を頂いて7.30帰宅。清書。  
大和へ便りする。井上忠氏より来信あり。 11.

### 26、日、晴

8. 晝食を頂き、風呂をもらひ、1.30辞す。  
夕食を頂き、7.30辞す。その間、論文清書。1/3完成す。  
又、“日本の教養の根據”をよむ。 10.  
夕方から殊に寒くなった。

### 27、月、晴

8.30. 風が寒い。12~2長沼教授国史講義の試験監督。5.30~7.30先生宅。  
論文清書を續ける。  
日本仏教史学会の日下無倫氏より来信あり。ハレルヤ書店より来信あり。  
山崎、高峰書房、幽学荘舎へ便りし、大和へ便りかく。 11.40

### 28、火、快晴

7. 終日清書。午前研究室。2/3清書終了。  
6~7.30先生宅。 11.30  
“凶書”入手。

### 29、水、晴

7.30. 午前、研究室にて清書。2.30~4.30才5番教室にて長沼教授の国史演習試験の監督にゆく。5.40~

7.30 先生宅。帰りて又清書。一むね完了。 11.

### 30、木、晴

9. 清書。本文の清書完成。全部で49枚。2.30~4.30 思想史試験監督。夜、“人間エヂソン”“朱金昭”を松竹でみる。行くつもりであつたのを、幸ひ、矢崎先生から招待券を頂いたからである。

大学新聞入手。 11.40

今朝暁方、帰還した兄と、電車通りを歩いてゐる夢をみた。帰還は五六日前にしか分らないといふことを聞いた。新世界の方へ歩いて行かうとする所で眼がさめた。兄は今年内に帰るだらう。

### 31、金、晴

8. 午前、日本社会学会才十六回大会、才一、二番教室にて開催。研究発表をきく。白井二尚氏“社会層の変遷”新明正道氏の“歴史社会学の概念”は興味深かつた。

午后も聞いたが感心せず。清書す。

5~10、帰りて清書。完成。全部で五十一枚。

“本居宣長の研究”“一、復古思想、二歌論、三物のあはれ論”と目次をつけてみた。二歌論が、論文として、最も拙い。しかし、これで宣長研究も百五十枚になつた。

六百枚を目指して、一冊の著述を目指して頑張らなければならぬ。

## 11月

### 1、土、快晴

7. 午前研究室。午后、街へ出る。金文堂にて、阪口氏の“ギリシヤ文明の潮流”(4.30)を買ふ。書物は、書店にあるときに買はないとすぐなくなる。2時、先生宅で晝食を頂く。6~7.30、帰りて、再び、“日本的教養の根據”のつづきを讀む。

明日は、在郷軍人会の射撃大会あり、お弁当をつくつて頂く。 9.20

### 2、日、曇

- 5.30. 軍人会の射撃あり。お弁当をつくつてもらつて、7時小学校集合、平尾へゆく。5發零臬。待つ間、ねころんで“アルトハイデルベルク”をよむ。途中で帰る。4時。

夜、竹岡先生宅の例会。城福氏の“世阿弥の芸道論”の發表あり。

人に対して、異見をたてぬこと。 12.

### 3、月、晴

6. お弁当をつくつてもらつて、8時九鉄待合所へゆく。

鏡山先生、波多野助手、伍賀、中林、宮下、片山、渡辺、古賀、上杉の諸氏と共に、久留米へ到り、高良山へゆく。

神籠石を一周し、社務所にて晝食。後、国宝平家物語以下の宝物をみせてもらふ。2時神社を發ち、梅林寺、水天宮、日輪寺へゆく。4.57分久留米發の電車にて帰る。別れて後伍賀君と夕食を共にする。

8.40 帰宅。

山崎、大和より来信あり。 11.

#### 4、火、快晴

8. 午前研究室。アルバム整理。午後、下宿整理。5～8.30 先生宅。  
大和より書留書る。又、サトギ、おもち送り来る。  
大和へ便りする。 10.

#### 5、水、快晴

- 7.30. 竹岡先生から卒論を拝借する。又、“本居宣長の研究”をみてもらふべくお渡しする。  
10.30～古事記演習、1.30～哲学。  
“日本の教養の根據”讀了。“日本二千六百年史”よみ始める。加藤守彦さんより来信あり。 12.

#### 6、木、快晴

- 7.30 午前、研究室讀書。午後、ハカタ新興へ行つて“天保江戸櫻”、“ジャングルの驚異”をみる。5～9、  
先生と奥様は、明日夕方、東上される。当分お留守番である。帰りて讀書。 11.20.

#### 7、金、快晴

7. 午前、午後、研究室にて讀書。  
午後6.27箱崎發の列車にて、諸学振興委員会教育学会出席のため、先生、奥様東上さる。見送る。  
今夜からお留守番。夜讀書。10.30

#### 8、土、曇

- 6.40. 午前研究室。午後、“史淵”の彙報の草稿をかく。夜讀書。“二千六百年史”讀了。“日本仏教史学”  
への原稿“無常觀の論理—徒然草の思想史的考察”清書し始める。 10.30

#### 9、日、快晴

6. 8.30 博多駅集合、周船寺へゆく。学生会主催の才六十八回日本文化講義の臨地講演が怡土城址であり、  
鏡山先生の“上代と西海防衛”についてのお話あり。快晴にて会するもの五十余名、西尾氏も来らる。  
怡土城址を登り、見学し、随所に先生の説明をうかがふ。午後四時博多帰着解散。  
夜讀書。“三四郎”讀了。 10.30  
大和より来信あり。

#### 10、月、快晴

7. 午前、研究室にて、“日本の歴史”を讀み始める。  
午後、史淵彙報“国史学会”の清書をする。  
夜讀書。“無常觀の論理”の清書。  
大和より来信あり。 10.30  
今日から冬服着用。

#### 11、火、快晴

- 6.30 午前研究室にて讀書。史淵彙報原稿提出する。

午後、古本屋を巡る。

夜清書。大和、花田君へ便りかく。

大和より、先生用の胡麻、干瓢送り来る。花田玄道君より来信あり。 11.40

## 12、水、曇

6.30 午前研究室にて原稿清書。1～哲学。夜讀書。 10.

## 13、木、雨

7. 午前研究室讀書。午後帰宅して清書する。

夜“日本の歴史”讀了。金子大栄氏の“眞宗学序説”をよみ始める。

“日本の歴史”(秋山氏)は、現実の黒暗面については、殆んどふれるところがない。日本の歴史は、日本の国家原理が一貫して支配してゐるとの立場に立つてゐる。これは偏狭のやうに考へられる。

大川氏の“二千六百年史”の方が、非常に感銘が深かつた。 10.15.

## 14、金、曇、晴

7. 午前研究室、讀書。10.30帰宅。梅子さん、静乃さんが街へ行つて映画をみるので、留守番。

清書、讀書。大学新聞入手。 10.30

## 15、土、晴

7. 午前研究室にて讀書。“眞宗学序説”讀了。

岩波新書の“禪と日本文化”をよみ始める。

午後、松竹へ行つて、“櫻の国”“我が兵器陣”をみる。

帰つて、先生宅の露路の戸の修膳をする。

夜、ドイツ語、讀書、清書。

ドイツ語を以て、日本の歴史を書きたい。この理想を以て、ドイツ語の勉強を始める。大和より来信あり。 11.30

## 16、日、晴

7. 午前中、昨日の戸の修膳をやり、完成する。午後、夜、清書、讀書。 10.30

## 17、月、快晴

7. 午前、午後、清書、完成。

午後8.25博多着の列車で、先生、奥様お帰りになる。御元氣である。10.30辞す。シガレットケースをお土産として頂く。

大和より来信あり。妹に便りする。井上忠氏より来信あり。 12.

## 18、火、曇、後小雨

7. 8.30～教育学演習。木原南山氏の当番で、“職業指導”に関する研究発表あり。午後、午睡。

5.30～7.30先生宅。帰りて讀書。 11.

## 19、水、晴

- 8.30 昨夜は蒸暑く、熟睡出来ず。午前2時前に地震あり。身体に感ずる程度。大分宮崎では被害相当あり。  
10.30～古事記演習。  
午後、帰りて、“禅と日本文化”讀了。  
6～7.30 先生宅。後、“歴史的世界”よみ始める。 11.20

## 20、木、晴

8. 昨日から風邪を引いた。午前、本柵の整理をする。  
晝食を喰べに学校へ行つてすぐ帰る。  
散髪する。6～8.30 先生宅。  
夜讀書。 11.

## 21、金、曇

- 6.30 昨夜のんだアスピリンにより胃が悪く、気分がよくない。  
8.30～木原君の演習発表。午後ねる。  
5～9 先生宅。おかゆをたいて頂く。 9.30

## 22、土、晴

- 8.30 午前先生宅にて朝食を頂く。手当をもらふ。先生の分も学校でもらつてくる。晝食を頂く。後、街へ出て本をかふ。夕食頂く。6～7.30。帰りて“何処へ”よみ了る。  
井上氏(忠氏)より来信あり。 11.

## 23、日、雨

7. 朝、先生宅で赤飯を頂く(今日は祭日)。帰りて“蘭学事始”よみ讀める。正午、オーグリルにて井上忠氏に御馳走になる。後、二人で才二学生集会所へゆく。史学会なり。夜は医科惠愛團にて晚餐会、発表会あり。8.30 散会。帰りに先生宅により、御飯を頂く。  
妹、大和より来信あり。妹に便りかく。 11.

## 24、月、曇

8. 午後、伍賀君の寫眞を、玄関前にてとる。が之は失敗、フィルムをまかなかつた。正午、国史科送別寫眞をとる。  
晝食は、街へ出て、伍賀君と一諸にする。  
帰りて、“蘭学事始”讀了。  
6～9.40 先生宅。帰りて、ドイツ語。  
妹に本をおくる。“何処へ”“禅と日本文化”“大毎年鑑”  
積文館へ仕拂する。 12.

## 25、火、快晴

8. 午前、研究室。“侏儒の言葉”よみ始める。

風邪未だ全快せず。夜早くねる。 7.

## 26、水、快晴

8. 目黒次郎氏の出征を祝して、宮内武雄氏の宅にてすきやき会をする。辛島氏と四人で。夜、文友会送別会三畏閣であり、8時散開。大和へ便りかく。 9.40

## 27、木、曇、雨

7. 10.32博多発の準急で、植木町の松尾氏の眞如寺を訪ねる。5年余りぶりの面接である。晝食を頂き、3.10すぎ辞す。五時帰る。6～9先生宅。“カストロの尼”よみ始める。12.

## 28、金、曇

8. “無常観の論理”眼を通して、日下氏に送附する。6～7.10 “侏儒の言葉”“カストロの尼”“櫻の園”讀了。日下氏に便りする。 12.10.

## 29、土、曇

10. 学校を休む。“生まざりしならば”讀了。“神皇正統紀”よみ始める。海軍省より速達来る。十二月十三日、海軍教授銓衡のため、東京の海軍聖理学校へ出頭相成度。大和へ速達の便りする。澄哉さん、松尾さんに便りする。11.30

## 30、日、晴

8. 昨日から急に寒くなった。火鉢をもち出して、一日中讀書。5.30～8先生宅。夜兄に手紙をかく。 10.

## 12月

### 1、月、晴

- 8.20 午前研究室。午後松竹へ“忠臣蔵”をみにゆく。5.30～9先生宅。帰りて讀書。 11.

### 2、火、晴

7. 午前研究室、讀書。美学研究室の長瀬君より抹茶を頂き、作法の教授に与る。午前松濤先生宅へゆく。後、森田君と、オ一映画へ行つて“佛蘭西座”その他をみる。帰りて、先生宅にて夕食。9時辞す。兄上に慰問品をおくる。大和より書留来る。大和へ便りし、妹、西尾氏へ便りかく。岩波書店より文学送り来る。12号。西尾氏に“法文論叢”をおくる。拙稿“徒然草における無常観の論理”掲載さる。武田祐吉博士と名前を並べてみる。これは昨春、投稿したもので、妹に代筆してもらった。しかも、数日前、無常観の決定篇を、日下氏

に送った許り。今、一ヶ年前の論文をよみ直して、恥しい限りである。が、非常に嬉しい。  
自分も一流雑誌に名前をのせるやうになつたのだ。が、より着実に勉強しよう。今日は嬉しい日。  
11.

### 3、水、快晴

9. 午前研究室。午後、下宿の片付け。6~7.30 先生宅。

“文学”に“女性観の性格”を投稿すべく、原稿を清書し始める。妹に“文学”をおくる。  
妹より来信あり。松山高校の北川氏に便りをかき、“文学”をおくる。 11.30

### 4、木、晴

7.30 午前造<sup>マツ</sup>つくり。午後、切符をかひ、チツキにする。

送別会を兼ねて、杉本氏と街へ出て夕食を共にし、久しぶりに、おでんやで一杯やる。9時帰宅。清書。  
伏見の澄哉さんあての葉書返送されて来た。 11.30

### 5、金、晴、曇、雨

7.10 午前研究室にて清書。午後、散髪。

後、古賀氏と一諸に、靴屋へゆき、古賀氏の紹介にて編上靴の修膳<sup>マツ</sup>をたのむ。5.30~10.20 先生宅。  
西尾氏より来信あり。岩波に便りかく。 12.

### 6、土、曇、時雨

8. 午前研究室にて清書。午後街へ出て土産、本をかふ。

本日、年末手当金36圓給与の辞令をうけとる。

先生宅では、夕食に夕飯<sup>マツ</sup>をたいて首途を祝して下さつた。ビールをのんで氣勢をあげる。

8時帰りて荷物整理。

大学新聞入手。 10.

### 7、日、快晴

4.50 5.45 箱崎発の列車にて帰郷。8.25 下関発急行汽車は混雑した。6.25 大阪着。7.40 帰宅。

浩道ちゃんが来てゐる。万事異状なし。

雑談する。“背徳者”讀了。 11.30

### 8、月、快晴

8. 日・米英開戦。米英に対する開戦の詔書が発せられた。日本軍はハワイ、香港、比島などを空襲し、マレー半島に敵前上陸を開始。オ一日に、赫々の戦果を収めた。

午後、父・岩男さんと高取城址へ登る。5時帰る。

妹の結婚について井川氏来られ、8時帰らる。

ニュースを聞き、11.30 ねる。

今夜から防空令により、街は眞暗である。

松濤先生、加藤守彦さんに便りする。 11.30

## 9、火、雨

6. 戦況は日本に有利。ニュースがまちどほしい。  
明日は上京。 10

## 10、水、晴

6. 7.30八木發。9.00大阪發のかもめにのる。  
5.20東京着。加藤さん、谷さん迎へに来てみて下さる。  
風呂へ入り、夕食を頂き、雑談。  
戦況は益々有利に展開してゐる。 11.

## 11、木、晴

- 6.30 加藤さんは齒科医院へ、谷さんは燃料局へ、自分は大番町の玉村氏宅へゆく。が軍医学校へゆかれてお留守。夜おたづねすることにして、帰宅。午後、宗務所に吉田さんをお訪ねし、お土産を差上げる。帰りに午睡。夜玉村氏宅へゆく。御主人にお会ひする。9.30帰る。  
大和、松濤先生、辛島副手に便りする。 12.30

## 12、金、晴

7. 午後、本郷の本屋を廻る。  
明日、銓衡試験だ。大和へ便りする。 10.

## 13、土、晴

- 6.30 7時30家を出る。築地の海軍聖理学校にて海軍教授銓衡試験あり。自分は一組の19番、阿部君は同20番。  
受験者は全部で約五十名余り。  
午前身体験査。口頭試験は、自分の前の人で午前終了。  
午後は自分から開始。午後一時。  
試験官は四名で家庭の事情を主として聞いた。国史の研究に対する疑惑を卒直に表明したら試験官は、淳々と、その非なることをとき、国史の研究こそ、医学、理学よりもより重要なりと断言した。自分も凡ぼそれに同意した。  
試験時間一人当り十分のところ、自分は20分近くにも及んだ。  
阿部君は五分間で出て来た。  
終つて二人で銀座をぶらつく。  
16日のつばめの特急券をかふ。  
四時帰宅。大和、松濤先生に便りする。 10.

## 14、日、晴

7. 寒さのため、冷え込んで身体をこはしたらしい。懷爐を入れる。  
しかし、前日の約束により、玉村先生宅へゆく。午前十時先生は、明治神宮、上野公園を案内して下さる。  
三時、上野で別れて帰宅。

夜、加藤さん、谷さんと街へ出る。寫眞をうつし、映画をみる。 10.30

#### 15、月、雨、

9. 午前吉田さん来らる。都合により東京を引上げ、京都の智恩院寺務所へ転ずべく、明日離京とのこと。  
午後、神田の本屋を巡る。 10

#### 16、火、晴

6.30 7.30 宝松院を出る。芝園橋まで加藤さん谷さんの見送りをうける。

9時發のつばめにのる。名古屋にて関急に乘換え、関急名古屋2.30發、中川4.13發、八木着5.35。

済南に宣撫班である井川定澄君、来る。お正月で帰還中である。

風呂へ入つてみると松濤先生宅より電報来る。“ツチウラニナイテイセリ”

9時すぎ井川君飯高へ帰る。

岩波より文学の原稿料31圓送り来る。

兄より来信あり。又、日下氏辛島氏より来信あり。 11.

#### 17、水、晴

7. お十夜の法要あり。“女性觀の性格”清書完成。

宝松院、玉村先生、岩波書店、伍賀君に便りする。

松濤先生より来信あり。陸軍聖理学校の書類、返却されて来たとのこと。 10.30

#### 18、木、晴

7. 午前松濤先生より電文の通知あり。

“ツチウラカイグンコウクウタイニオケルカイグンケウジユシヨクタクニサイヨウナイテイス、カイ  
グンセウジンジキョクカテウ”

帰る準備をする。若葉屋、岩波(原稿)東京の寫眞屋へ便りする。

午後7時40分八木發。大阪發8.45分の急行にのる。大して混雑せず。しかしねむれなかつた。

#### 19、金、快晴

昨夜は容易にねむれなかつた。

午前9時博多着。直に先生宅にゆく。

お禮を申し上げる。

晝食を頂いて松松<sup>ママ</sup>へ映画をみにつれて行つて下さる。

夕食は、就職祝に赤飯をたいて頂く。

9時辞す。八木へ便りする。 10.

#### 20、土、曇

6.30 午前、登学。事務室やその他へ。就職内定の報告をする。鏡山先生、竹岡先生にもする。

江口さんが副手となり美学研究室に勤務。

午後江口さんと街へ出る。6~9先生宅。

大和より、速達にて、先生よりかりたカバンの鍵送り来る。

岩波より原稿料31圓送り来る。

賞与36円(内貯金4圓差引)もらふ。 10.30

## 21、日、雨

8. 8.30より工科グラウンドにおける戦捷祈願祭に参列。續いて一同管崎宮に参拜する。

晝食は先生宅にて頂く。夕食を頂いて、竹岡先生宅へゆく。例会あり。武藤、城福、磯貝、江口、桧垣、西尾、原田さん及び私。

“本居宣長の立場”と題して、原稿なしで、物のあはれ論及び復古論を四十分間に涉って話す。

海軍教授囑託に内定してあることでもあり、先生からも今後、現実との関聯において宣長を研究するやうにと仰言つた。

海軍教授の方は自分一人が出世したやうで、他の人に対して済まぬやうな気がする。

しかし、私が一番若く、他人<sup>ママ</sup>方々は親切である。海軍の話も出た。米英戦争の話も出た。

11時先生宅を辞す。城福さんと共に、原田さんを原町まで送る。帰宅11.30. 12.

松濤先生から御歳暮として、五圓也を頂く。

## 22、月、晴

8.30 午前長瀬氏と食堂で一語になり、長瀬君の下宿へ到り雑談。帰りて城島氏いて途上で会ひ、お茶をのんで雑談。別れて研究室へ。古賀、江口、芝氏来り雑談。

矢崎先生に借用中の本を返へし、就職内定のことを申し上げると、送別会を開いてやると仰言つた。

後、江口副手と街へ出て、お茶をのんで別れる。

6~9先生宅。

帰りて大和、山崎へ便りをかかす。

岩波の原稿料31圓の内、妹に10円、岩男さん、辰雄さんに各一圓、浩道ちゃんに10円おくることとする。

11.30

## 23、火、快晴

6.30 7時すぎ静乃さんと共に、先生の御荷物を箱崎駅へもつてゆく。

研究室で玉村氏に便りをかかす。

午後、晝食を頂いて後、先生、奥様と一同寫眞をうつす。森田辰男君の下宿を捜して、吉塚へゆき箱崎へ来り、その下宿は留守。

先生の旅行手当をもらつて先生宅に持参。先生奥様は午後五時廿分箱崎發の列車で御東上。静乃さん、梅子さんが駅まで見送る。自分は留守。

今夜から当分先生宅のお留守番。

岩波から「文学」原稿入手の来信あり。

海軍教授採用について、各方面に知れて来た。

瀬里女史、永野助手からも挨拶された。 9

## 24、水、快晴

### 7. 午前研究室。

事務系統の人の宿直と共に、研究室の助手、副手の宿直が近日から始められてゐるが、自分は就職に事よせて断つてゐる。

竹岡先生に面会する。先生は万葉、親房、素行を勉強するやうに云はれた。そして、しつかりやれと激励して下さつた。

阿部光章君が、海軍教授に内定した由。

午後“法王廳の抜穴”のつづきをよむ。

夜中林君と街へ出る。中林君は私の就職祝と送別会を兼ねておごつてくれた。

兄に大学新聞をおくる。 11.

## 25、木、雨

### 8. 11.30よりミカド食堂にて、卒業生送別会開催。長沼、竹岡、鏡山の三先生、波多野、江口、常福、宮下、中林、古賀、渡辺、田村、それに卒業生の阿部、杉本の二君出席。

阿部君も海軍教授として、土浦海軍航空隊教官に内定した。

送別会終了後、高宮の江口さんところへゆく。夕食を頂き9時帰る。

大和より書類問合せの電報来る。

土浦海軍航空隊副官より採用手續上必要な履歴書その他の書類を送付せよとの通知あり。

大和、先生、伍賀君に便りかく。 11.

今夕、香港は遂に陥落した。

## 26、金、曇

### 7. 午前、学生診察所にて身体験査証<sup>マツ</sup>をもらふ。

午後、目加田先生宅をお訪ねする。三時辞す。

帰りて、辞職願、履歴書をかく。

夜、阿部君と、街へ出る。10時に帰る。

海軍省より、軍事講習参集に関する通知あり。

大和へ戸籍謄本をたのむ旨の打電をし、又、速達を出す。

海軍省人事局へ便りする。 12.20.

## 27、土、晴

### 8.30 午前、午後、研究室の書籍の整理。

今日は九大の卒業式。

大和へ便りする。大和より戸籍謄本送りし旨の電報来る。

松濤先生より来信あり。

夜、宮下君と街へ出る。 11.10.

## 28、日、晴

### 7. 午前松濤先生にお便りをかき、速達を出す。

午後、研究室を片づけ、すっかり引上げる。  
夜“法王廳の抜穴”のつづきをよむ。  
大和より速達にて戸籍謄本送り来る。  
日本仏教史学会へ住所変更の通知をする。 9.30

## 29、月、晴

7. 午前、医学部前へ、修膳<sup>マツ</sup>にやつた行季<sup>マツ</sup>を取りに行く。  
帰りて下宿の片附。  
午後、日活館へ行つて“隊長ブーリバ”をみる。  
帰途江口副手に会い、再び松竹へ行つて“蘇州の夜”をみる。  
夜岡本順一君の下宿を訪ねる。10時辞す。  
大和、妹、玉村氏より来信あり。  
大和へ便りし、妹、西尾陽太郎氏へ便りをかく。  
又、土浦海軍航空隊へ、書留の速達にて書類一揃を送る。 11.30

## 30、火、晴

7. 昨日から寒くなつて来た。しかし、今年は例年より暖い。  
午前、午後、下宿の片附。  
夜桧垣さんところへゆく。  
大和へ寫眞おくる。  
東京より街頭寫眞送り来る。大和より来信あり。  
“圖書”来る。 11.30.

## 31、水、曇

8. 午前、午後、書籍整理。夜、街へ出る。古賀氏に会い、靴屋へより、修膳靴<sup>マツ</sup>をうけとる。小貝氏に、竹岡先生の“日本思想史プリント”“世界精神史講座才八”をおくる。  
赫々たる戦果を挙げて、大東亜戦争は勝利へ進む。  
“文学”に論文がのつたこと、土浦へゆくこと、は、今年のもつとも大きな出来事であつた。 10.20

## 2602 昭和十七年

### 1月

#### 1、木、曇

6.30 お美しいお雑煮を沢山たべる。  
“神皇正統記”読み了る。  
大和へ便りす(速達)。又大和へ土浦地方の旅行案内をおくる。  
横須賀海軍砲術学校へ、14日の宿所の斡旋を依頼す。  
西尾氏より来信あり。  
今日は霰ふり、冷たい風ふき、お正月らしい天候であつた。 9.30.

## 2、金、曇、雪

7. 昨夜、寒風吹き荒れたが、眼をさますと、雪がふつてゐる。時々霰もふつてくる。  
午前荷物整理。午前岡本順一君来る。  
晝食を共にし、雑談。夕食も共にし、9時前帰りゆく。  
風はおさまつてゐた。  
松濤先生より来信あり。西尾陽太郎氏に便りかく。 10.

## 3、土、晴

- 7.30. 8.30岡本君来る。晝、夕食を共にし、7時30分まで大いに談ずる。夜桧垣さんのお宅を訪ねる。  
“利根川図志”を頂戴する。10.30辞す。昨日皇軍マニラ占領す。  
大和より来信あり。西尾氏に便りする。 12.

## 4、日、曇

- 8.30 曉方、寐汗が出て、氣味が悪かつた。  
午前、荷物の片付け。2/3終了。  
午後、街へ出て“即興詩人”下を買ふ。  
電車で麻生君に会ふ。小貝氏より便りあり。 9.30

## 5、月、雪、晴

7. 午前、雪ふる。風寒し。荷物整理。  
午後、古賀氏の招待にて、フグ料理の御馳走になる。貝柱の粕漬を買つて帰り、兄に送るべく荷造りをする。  
澄岩、澄念さんより来信あり。大和より為替送金し来る。大和へ便りかく。 11.30.

## 6、火、晴

- 7.30 午前、荷造り。午後は梅子さんに手伝つてもらふ。  
明日中に完成の見込み。  
先生より来信あり。  
兄上に慰問品おくる。大和、先生に便りする。  
9日の“さくら”にて帰郷の豫定。 10.

## 7、水、曇

8. 午前、午後、書籍を整理した箱十六個を、先生宅に運ぶ。他に本立二つ。残りは布團、行季、箱一個。  
梅子さん、静乃さんに手伝つてもらふ。 10.

## 8、木、曇

7. 午前、岡本君に手伝つてもらつて荷造りを完成す。  
午後、大学へゆき、挨拶をする。後、岡本君と街へ出る。  
午後五時30分、春吉のかき船にて、文友会の有志の方々による送別会を催して頂く。高木、竹岡、矢崎、

日野の諸先生、城島、城福、瀬利、桧垣、永野、波多野の諸氏が来て頂<sup>マ</sup>さる。盛大であつた。国史の卒業生にして、かくも盛大な送別会はなかつたとのこと。感謝感激した。

来会の方々は、一人づつ、私のために歌をうたつて下さつた。高木先生の“城ヶ島の雨”竹岡先生の“酒は涙か”矢崎先生の義太夫、新内、……

本当に涙が出るほどうれしかつた。

又、一方、岡本君と静乃さんに、布團のチツキを頼んだのであるが、45kgとて、重すぎ、二人して、箱崎駅の寒風にさらされて、荷物を二つに分けて、おくつて下さつた。これ又、感謝の辞さへない。

自分は、本当にありがたく感じてゐる。

今後は、全力をつくして、自分の責任を全ふし、皆様の御期待に副ふことを期するばかりである。

11.30

## 9、金、晴、時雨

6. 10.20博多着の列車にて、先生、奥様、お帰りになつた。

静思寮を全く引上げ、主人に挨拶する。

晝食、夕食は鯛の焼きもの。

6.20博多發の列車にのる。先生、奥様、学生主事の古賀氏、佐竹さん、古賀氏、長末君ら見送りに来て頂く。

又、岡本順一君は門司まで、荷物をもつておくつて頂く。

10. 下関發のさくらにのる。



# 彙 報

## I. 九州大学大学文書館委員会彙報

2025年10月3日～8日 九州大学大学文書館委員会（書面回議）

### ○九州大学大学文書館委員会名簿

委員長	理事・副学長		岩田健治
委員	文書館	教授	藤岡健太郎
〃	〃	准教授	赤司友徳
〃	比文院	教授	伊藤幸司
〃	法 院	教授	熊野直樹
〃	博物館	教授	三島美佐子
〃	韓 七	教授	永島広紀
〃	総務部総務課	課 長	佐竹晃佳
〃	経 院	准教授	村尾徹士
〃	理 院	准教授	新垣誠司
〃	芸工院	准教授	増田展大
〃	生医研	教授	馬場健史
〃	比文院	准教授	和田 崇
〃	総理工院	准教授	板倉 賢
〃	生物環境	教授	吉田 敏
〃	図書館	館 長	内田誠一
〃	博物館	館 長	堀 賀 貴
〃	総務部	部 長	武井久幸
〃	理学部等	事務部長	山本泰庸
〃	図書館	事務部長	鈴木雅子

(2026年1月1日現在)

## II. 九州大学大学文書館彙報

### ○九州大学大学文書館名簿

館 長	理事・副学長		岩田健治
副館長	文書館	教授	藤岡健太郎
専任教員	〃	准教授	赤司友徳
兼任教員	比文院	教授	伊藤幸司
〃	法 院	教授	熊野直樹

	博 物 館	教 授	三 島 美佐子
	韓 七	教 授	永 島 広 紀
協力研究員	長崎大学名誉教授		柴 多 一 雄
	九州大学名誉教授		柴 田 篤
	九州大学名誉教授		有 馬 學
	九州大学名誉教授		折 田 悦 郎
	九州大学名誉教授		後小路 雅 弘
	九州大学名誉教授		高 野 信 治
	九州大学名誉教授		三 輪 宗 弘
	元西日本新聞社		大 西 直 人
	熊本学園大学商学部准教授		市 原 猛 志
	清水建設株式会社技術研究所		松 本 隆 史
総務課長	(法人文書資料室長)		佐 竹 晃 佳
事務職員			江 藤 まゆみ
テクニカルスタッフ	クウィーラ, ダーヴィト=ドミニク		

(2026年1月1日現在)



九州大学大学史料叢書 第32輯

---

2026年3月31日発行

編集 九州大学大学文書館  
発行

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号  
電話 092 (642) 2292

印刷 株式会社ミドリ印刷

---

KYUSHU UNIVERSITY

UNIVERSITY ARCHIVAL RECORD SERIES

No.32 Mar. 2026

*The Diaries of TAMURA Encho (2)*

KYUSHU UNIVERSITY ARCHIVES

FUKUOKA, JAPAN